

99
17

各國鹽制調查書

臺灣食鹽專賣事業

題 言

本調査ニ際シ本省及農商務省ニ於テ内外鹽業ニ關スル諸種ノ事項ヲ調査シタル書類ノ外材料及ヒ參考トシタル主要ナル書目左ノ如シ



- 一、農商務技師 農商務技師 歐米鹽業視察報告書
- 二、農商務技師 農商務技師 歐米鹽業視察報告書
- 三、支那鹽業史
- 四、支那鹽業史

五、煮海私記

六、明治財政史

七、臺灣食鹽專賣事業

二、各國調査事項中比較的精細ナルト甚シキ粗畧ナルモノトアルハ材料ヲ得ルノ難易多少ニヨルモノニシテ各國遺漏ナク網羅シ能ハサルハ深ク遺憾トスル所ナリ

三、本調査ニ記載スル所ノ度量衡及貨幣ハ其換算法ノ比較的正確ト認ムヘ

題 言

一



キモノヲ公刊物中ヨリ摘拔シ之ニヨリ悉ク我數位ニ換算シテ併記シタリ而シテ數量ノ基數ヲ重量ノ「斤」トナシタルハ我國專賣實施後ハ斤數ヲ標準トスルヲ以テ之ト一致セシムルヲ便利ナリトナシタルニヨル

四、本調査ニ記載セル諸表ノ下ニ悉ク基數トナシタル單位ニ相當スル我數位ヲ示シテ換算ノ標準ヲ明ニセルモ同一ノ制度ヲ採用スル國ニシテ既ニ他國ニ舉ケタルモノ若クハ同一國中ニテモ前已ニ記載シタルモノハ時ニ之ヲ省畧セシモノアルヘシ

五、各國調査事項中往々舊時ニ屬スルモノアリ此ノ如キハ最近ノ材料ヲ得ル能ハサルニヨル然レトモ新舊比照シ又ハ事情ノ概畧ヲ推知スルノ料ニ資スルヲ得ヘシト信セシヲ以テ之ヲ掲記セリ

六、本調査中日本ノ部ハ調査ニ着手セシヨリ惶惶調査ヲ了リタルヲ以テ逐一掲記ニ力メシモ或ハ脱漏ナキヲ保セス然レトモ記載事項ハ正確ナル材料ニヨリ考覈シ誤謬ナキヲ期セリ

一掲記ニ力メシモ或ハ脱漏ナキヲ保セス然レトモ記載事項ハ正確ナル材料ニヨリ考覈シ誤謬ナキヲ期セリ

七、本調査中「去今何年前」トアルハ凡テ明治三十七年ヲ起點トシタルモノナリ

八、本調査ニ際シ元農商務奧技師ヨリ有益ナル材料供與及ヒ懇篤ナル教示ヲ賜ハリタリ茲ニ錄シテ謝意ヲ表ス

九、本調査ハ松本專賣事業課長ノ命ニヨリ調査ヲナシタルモノナリ

明治三十八年三月

大藏屬 江角藏次郎

三、消費ノ用途	一四
四、牧畜用鹽消費額	一六
イ、家畜數	一六
ロ、消費額	一六
ハ、食用鹽一人當リト牧畜用鹽一頭當リトノ割合	一六
庚、輸入、輸出	一七
一、輸入及輸出額	一七
二、輸入外鹽ノ仕出地及輸出鹽ノ仕向地	一八
三、輸出鹽仕向地ニ對スル鹽ノ種類別	二〇
辛、鹽價	二二
一、井鹽ノ價	二三
二、岩鹽ノ價	二三
三、包裝ノ價	二三
壬、租稅	二三
一、稅率	二三
二、鹽稅ノ免許ヲ受クヘキモノ	二三
癸、收入	二四

(二) 佛蘭西

甲、鹽制ノ沿革	二六
乙、產出鹽ノ種類	二九
丙、產出額	二九
丁、租稅	二九
一、稅額	二九
イ、內國稅	二九
ロ、關稅	三〇
二、免稅及減稅	三〇
イ、免稅	三一
ロ、減稅	三一
ハ、費用負擔	三一
三、課稅ノ總鹽量并ニ人口平均一人當リ量及一人當リノ租稅	三一
戊、收入	三二
(三) 和蘭	三三
甲、鹽制	三四
乙、租稅	三四
目次	三四

一、稅率 三四

二、免稅 三四

丙、產出 三四

丁、消費額 三四

戊、輸入 三五

己、收入 三六

(四) 蘭領東印度 三七

第二一、輸入稅ノミヲ以テスル國 三九

(一) 魯國 三九

甲、鹽制ノ沿革 三九

乙、關稅率 四〇

丙、收入 四一

(二) 丁抹 四二

甲、關稅率 四二

乙、收入 四二

(三) 那威 四二

甲、鹽制 四三

乙、關稅率 四三

丙、收入 四四

(四) 西班牙 四五

甲、鹽制ノ沿革 四五

乙、關稅率 四六

(五) 葡萄牙 四七

甲、鹽制 四七

乙、關稅 四七

(六) 北亞米利加合衆國 四八

甲、鹽制 四八

乙、產出鹽ノ種類 四八

丙、鹽ノ產額、價額 四八

丁、關稅 四九

イ、稅率 四九

ロ、免稅 四九

戊、輸出、輸入鹽 四九

(七) 加奈陀 五一

目次 五

甲、關稅率 五一

乙、免稅 五一

(八) ニューファウンド 五二

(九) 秘魯 五三

第三、何等ノ租稅ヲ賦課セサル國 五五

(一) 英吉利 五五

甲、鹽制ノ沿革 五五

乙、產出鹽ノ種類 五六

丙、產出額 五六

丁、輸出額 五六

一、輸出鹽ノ仕向地 五七

二、東印度北米合衆國ニ輸出スルモノト其他ノ邦國ニ輸出スルモノトノ比較 五九

戊、消費額 五九

己、收入 六〇

(二) 白耳義 六一

甲、鹽制 六一

第四、專賣制度國

乙、課稅時代ニ於ケル稅率 六一

丙、收入 六一

一、內國稅 六一

二、關稅 六二

(一) 奧地利匈牙利 六三

甲、鹽制ノ沿革 六三

乙、產出鹽ノ種類 六五

丙、產出額 六五

丁、販賣額 六六

戊、消費額 六六

己、販賣價額 六七

一、煎熬鹽價額 六七

二、海鹽價額 六八

三、岩鹽價額 六八

庚、輸出、輸入鹽 六八

辛、收支計算 六九

- 一、 埃國 六九
- 二、 匈牙利 六九
- 三、 埃、匈國全體ニ於ケル收入 七〇
- (二) 伊太利 七一
- 甲、 鹽制ノ沿革 七一
- 乙、 產出鹽ノ種類 七三
- 丙、 鹽ノ產出額 七三
- 一、 岩鹽、煎熬鹽、海鹽ノ產出額 七三
- 二、 岩鹽ノ產出額 七三
- 三、 海鹽ノ產出額 七四
- イ、 產地別 七四
- ロ、 種類別 七五
- 丁、 販賣額 七六
- 戊、 販賣價額 七六
- 一、 一般販賣價額 七六
- 二、 特別減價價額 七六
- 己、 消費額 七七

庚、 收支計算

- (三) 瑞西 七七
- 甲、 鹽制ノ沿革 七九
- 乙、 產出鹽 七九
- 丙、 鹽價 七九
- 丁、 收益 七九
- 戊、 關稅 八〇
- (四) セルヴァイア 八一
- 甲、 鹽制ノ沿革 八一
- 乙、 鹽價 八一
- (五) ルーマニア 八二
- 甲、 鹽制 八二
- 乙、 販賣額 八二
- 丙、 販賣價額 八二
- 丁、 收支 八三
- (六) 希臘 八四
- 甲、 鹽制 八四

目次 九

乙、産出鹽ノ種類	八四
丙、販賣價額	八四
丁、收入	八四
戊、輸入	八四
(七) 土耳其	八五
甲、販賣數量	八五
乙、輸入	八五
(八) チウニス	八六
甲、鹽制	八六
乙、輸入	八六
丙、收入	八六
(九) 英領印度	八七
(十) 支那	八九
甲、鹽制ノ沿革	八九
支那鹽製ノ起源	八九
一、周代	八九
イ、周(東周以前)	八九

ロ、東周	八九
A、春秋時代	八九
B、春秋戰國時代	九〇
二、秦代	九〇
三、漢代	九〇
イ、前漢	九〇
ロ、後漢	九一
四、三國時代	九二
五、南北朝ノ代	九二
六、唐ノ代	九二
七、五代	九三
八、宋代	九四
九、元代	九五
十、明代	九五
十一、清代	九五
イ、行鹽區域	九七
ロ、鹽ノ運搬賣買	九七

- ハ、鹽價 九七
- ニ、販賣ノ方法 九八
- 乙、産出鹽ノ種類 一〇〇
- 丙、産鹽 一〇〇
- 丁、産出額 一〇二
- 戊、鹽價 一〇三
- 己、鹽稅 一〇五
- (十一) 日本 一〇七
- 甲、製鹽ノ起源 一〇七
- 乙、鹽制ノ沿革 一〇七
- 第一、神代及王政時代ニ於ケル鹽制 一〇七
- 第二、封建時代ニ於ケル鹽制 一〇八
- 一、仙臺(陸前) 相馬(磐城) 南部(陸中) 及ヒ八戸藩(陸奥)時代ニ於ケル鹽制 一〇九
- A、製鹽ノ收納 一〇九
- イ、仙臺藩 一〇九
- ロ、相馬藩 一一〇

- B、製鹽ノ拂下 一一〇
- イ、拂下ノ時期及數量 一一〇
- ロ、拂下ノ代價 一一〇
- ハ、拂下ノ手續 一一〇
- C、製鹽事業ノ監視 一一〇
- イ、鹹水ノ検査 一一一
- ロ、製鹽數量ノ指定 一一一
- ハ、煎熬釜ノ監督 一一一
- ニ、製鹽ノ監視 一一一
- D、鹽業ノ保護 一一一
- イ、燃料ノ供給 一一二
- ロ、堤防ノ修理 一一二
- ハ、補償金ノ下附 一一二
- E、製鹽ノ方法 一一三
- F、鹽田反別 一一三
- 二、加賀藩(加賀、能登、越中)時代ニ於ケル鹽制 一一四
- A、製鹽ノ起源及ヒ變遷 一一五

B、專賣機關	一一五
C、鹽業ノ保護	一一七
イ、資金ノ貸付	一一七
ロ、貸付方法	一一七
D、製鹽ノ收納	一一八
イ、收納ノ期日	一一八
ロ、收納ノ監督	一一八
ハ、收納ノ俵裝	一一八
ニ、貯藏倉庫	一一九
E、産鹽額	一一九
F、賠償、販賣價額	一二一
G、販賣方法	一二一
三、大村藩(肥前)時代ニ於ケル鹽制	一二二
A、製鹽事業ノ獎勵	一二二
B、製鹽ノ收納	一二三
イ、收納鹽ノ數量	一二三
ロ、收納代價	一二三

ハ、滯納處分	一二四
C、製鹽ノ貯藏	一二四
D、製鹽ノ販賣	一二四
E、製鹽ノ監督	一二四
四、山口(周防、長門)岩國藩(周防國玖珂郡)時代ニ於ケル鹽制	一二五
A、製鹽ノ起源及變遷	一二五
B、鹽業ノ廢類、廣ク挽回ノ策ヲ求ム	一二六
C、所謂三八法ノ建言	一二六
D、防長二州鹽業ノ同盟	一二八
E、十州鹽田同盟ノ濫觴	一二九
五、赤穂(播磨)姫路(播磨)松山藩(備中)時代ニ於ケル鹽制	一二九
A、赤穂藩(播磨)	一三〇
イ、製鹽ノ起源	一三〇
ロ、制度	一三一
B、姫路藩(播磨)	一三六
C、松山藩(備中)	一三七
イ、鹽田ノ開設	一三七

口、制度 一三七

六、德島藩(阿波) 時代ニ於ケル鹽制 一三八

 A、製鹽ノ起源 一三八

 B、制度 一三八

七、熊本藩(肥後) 時代ニ於ケル鹽制 一四一

 A、鹽業ノ起源 一四一

 B、制度 一四一

 イ、製鹽ノ監督及收納 一四一

 ロ、賣渡 一四二

 1、賣渡ノ方法 一四二

 2、販賣價格 一四二

 ハ、輸入ノ禁制 一四二

八、舊幕府領 一四二

 A、行徳製鹽ノ起源 一四二

 B、制度 一四三

第三、明治維新以後ニ於ケル法令制度及ヒ政府ノ施設 一五四

 一、舊幕時代ニ於ケル鹽制ノ廢弛 一五四

二、鹽田地租 一五四

 A、地租條例ノ頒布 一五四

 B、鹽田其他地價ノ据置 一五八

 C、鹽田其他地租率ノ改正 一五九

 D、鹽田其他地價ノ据置 一六〇

 E、地租條例ノ制定ニ伴フ鹽田地租 一六二

 F、鹽田其他地租ノ増徴 一六三

 G、鹽田其他地租増徴繼續案 一六四

 H、鹽田地租増徴繼續案ノ再提出 一六五

 I、鹽田其他地租ノ増徴 一六六

 J、鹽田其他地租ノ再増徴 一六六

三、鹽業ノ廢類、獎勵保護ノ施設 一六七

四、三八法ノ令達 一六八

五、食鹽ノ輸出、輸入税 一六九

 A、食鹽ノ輸出税ノ廢止 一六九

 B、食鹽ノ輸入税 一七〇

 イ、食鹽輸入税ノ賦課(關稅定率法ノ發布) 一七一

1、從價稅率	一七一
2、從量稅目ノ設定	一七一
(1) 稅率	一七一
(2) 輸入食鹽ノ數量、價格、稅額	一七二
3、從量稅目ノ改正	一七二
_{ロ、食鹽輸入稅ノ增徴(非常特別稅法ニ依ル)}	一七三
1、從量稅率ノ増加	一七三
2、從量稅目ノ設定	一七三
_{ハ、食鹽輸入稅ノ増率}	一七四
1、從價稅率	一七四
2、從量稅ノ設定	一七四
六、鹽業調查會ノ設置及其廢止	一七五
七、鹽業調查所ノ設置及ヒ其廢止 <small>(松永試驗場津田沼試驗場)</small>	一七八
八、臺灣ニ於ケル食鹽專賣制度ノ實施	一八一
A、舊政府時代ニ於ケル食鹽專賣廢止後ノ情況	一八二
イ、鹽田ノ荒廢	一八二
ロ、需用供給ノ均衡ヲ失シ價格ノ平準ヲ失フ	一八三

B、專賣制度ヲ布クニ至リタル理由	一八三
九、鹽消費稅徵收ノ計劃	一八六
A、豫算	一八六
イ、鹽消費稅豫算案	一八六
ロ、鹽消費稅豫算ノ否決	一八七
B、鹽消費稅案 <small>(非常特別稅法案)</small>	一八八
十、鹽專賣計劃ノ排案	一八八
十一、鹽專賣制度ノ創立	一八九
A、調査掛ノ開設	一八九
B、鹽專賣ニ關スル豫算	一八九
イ、鹽專賣ニ關スル豫算案ノ提出	一九一
ロ、鹽專賣豫算ノ確定	一九一
C、鹽專賣法案ノ提出	一九一
イ、衆議院	一九一
ロ、貴族院	一九三
D、鹽專賣法ノ公布	一九四
E、專賣機關	二〇二

- イ、專賣機關ノ第一期
 - 1、官制 二〇二
 - 2、分掌 二〇三
- ロ、專賣機關ノ第二期 二〇三
- ハ、專賣法實施準備 二〇三
- ニ、鹽專賣講習ノ開設 二〇四
 - 1、事務講習科目 二〇四
 - 2、技術講習科目 二〇五
- ヒ、吏員ノ出張 二〇五
- ホ、製鹽ノ種類及ヒ製鹽方法 二〇七
 - 一、製鹽ノ種類 二〇七
 - 二、製鹽方法 二〇七
- ヘ、産鹽地及ヒ産鹽額 二〇九
 - 一、産鹽地 二〇九
 - 二、産鹽額 二一一
- ト、全年産出額 二一一
- チ、月別産出額 二一二

- テ、地方別産出額 二二三
- ト、生産見込高 二二五
- ニ、鹽田反別、鹽釜、製造人員、製造場數及鹽商 二三一
- ヘ、輸出、輸入鹽 二四三
 - 一、輸出鹽 二四三
 - A、全年輸出額 二四三
 - B、月別輸出額 二四四
 - C、港別輸出額 二四五
 - D、仕向地別輸出額 二四六
 - E、外國鹽仕出元別再輸出額 二四九
 - 二、輸入鹽 二五一
 - A、全年輸入額 二五一
 - B、月別輸入額 二五二
 - C、港別輸入額 二五四
 - D、仕出地別輸入額 二五四
 - E、内地鹽仕出元別再輸入額 二五七
- ト、消費鹽 二五八

一、一般消費額及一人當リ消費額	二五八
二、工業用鹽消費額	二五九
辛、臺灣食鹽專賣	二六一
一、專賣機關	二六一
A、支局位置	二六一
B、支局出張所ノ位置	二六二
C、官鹽賣捌組合ト總館及ヒ支館トノ關係	二六二
D、請負	二六四
二、製鹽商	二六六
A、累年比較生産額	二六六
B、月別產出額	二六七
C、品種別產出額	二六八
三、鹽販賣價格	二六九
A、上等鹽賣捌定價	二六九
B、賠償價格	二七〇
四、販賣	二七二
A、本島内販賣額	二七二

イ、全年販賣價格	二七二
ロ、需要高豫算ト販賣高トノ比較	二七二
B、内地販賣價格	二七三
イ、全年販賣額	二七三
ロ、地方別販賣額	二七四
ハ、用途別販賣額	二七八
五、輸入鹽	二七八
六、鹽田	二七九
A、既成鹽田	二七九
B、鹽田見込地	二八一
C、既成鹽田ト各見込地トノ比較	二八三

緒言

古今各國ニ於テ財政上ノ需要ニ依リ財源ヲ食鹽ニ求メントスル場合ニ於テ如何ナル方法ニ依ルヤヲ見ルニ或ハ政府專賣ノ制度ニヨルモノアリ或ハ租稅制度ニ依ルモノアリ而シテ其專賣制度ノ國ニテモ單ニ販賣ノミノ專賣ヲナスアリ或ハ製造及販賣ノ專賣ヲナスアリ又其租稅制度ノ國ニテモ國內稅ト共ニ關稅ヲ課スルアリ或ハ單ニ其一ノミヲ課スルアリテ各々其揆ヲ一ニセズ今其何レニ據ルヲ以テ最モ適當トスヘキカハ各國ノ事情ニヨリ又時代ニヨリテ異ナルヘキモノニシテ敢テ古今ヲ通シ各國ヲ貫クノ斷案ヲ其上ニ下スコト能ハサルベシ唯今日歐州各國ニ於テハ一二ノ邦國ニ於テ食鹽ヲ以テ國庫歲入ノ財源トナサミルモノアリト雖多數ノ邦國ニ於テハ課稅又ハ專賣上ノ收入ヲ之ニ求メサルモノナキナリ殊ニ多數ノ邦國ハ專賣收入ニヨルヲ以テ得策ナリトナスモノ、如シ今茲ニ各國現行ノ鹽制ヲ左ノ如ク區別シ

其順序ノ下ニ古今各國ニ於ケル鹽制ノ沿革、國庫歲入ノ情況、其生産消費ノ多寡、其輸入輸出ノ數額等其他食鹽ニ關スル事項ノ大略ヲ掲記シテ參考ニ資スベシ

第一 租稅制度國

- 一、獨逸
- 二、佛蘭西
- 三、和蘭
- 四、蘭領東印度

第二 關稅ノミヲ賦課スル國

- 一、魯西亞
- 二、丁抹
- 三、那威
- 四、西班牙
- 五、葡萄牙
- 六、北亞米利加合衆國

- 七、カナダ
- 八、ニューファウンドランド
- 九、秘魯

第三 何等租稅ヲ賦課セザル國

- 一、白耳義
- 二、英吉利
- 三、瑞典

第四 專賣制度國

- 一、奧地利匈牙利
- 二、伊太利
- 三、瑞西
- 四、ルーマニア
- 五、セルヴィア
- 六、希臘
- 七、土耳其
- 八、チウニス

緒言

- 九、英領印度
- 十、支那
- 十一、日本

租稅制度國



獨逸國 面積約三萬五千方里
人口約五千六百三十五萬
(即日本ノ略一倍半)
當國ニ於ケル製鹽ノ業ハ往古ヨリ行ハル、モノニシテ一部ノ鹽業ハ國有ニシテ一部ハ私有ニ屬ス
一般ニ鹽産力ニ富ミ岩鹽、井鹽ノ二者ハ共ニ現時ニ至ルモ更ニ滅盡ノ徵ナキノミナラズ國家ハ爾
來鹽制ヲ確立シ益々鹽業ノ發達獎勵ヲ圖リ傍ラ鹽稅ノ賦課及使用鹽ノ取締等種々複雑ナル規定ヲ
設ケテ國庫收入ノ上ニ於テ實ニ多大ノ財源ヲナスニ至レリ

甲、鹽制ノ沿革

千百五十八年 保元三年
去今七四九年前 ロンカル平野ニ起レル決議ニヨリ製鹽場モ國權ノ下ニ建設ヲナシ
タリシカ此決議ハ末タ獨逸國ニハ適用セラレサリキ然ルニフリードリッ第一世ハ該決議ヲ獨
逸國ニモ希望シタリ爾後十三世紀ノ頃ヨリハ既ニ數多ノ市街ニ於テ鹽ニ付テ租稅ノ徵收ヲナ
シタリ
千三百五十六年 延文五年
去今五四九年前 獨逸帝國及諸州間ノ利益上ノ戰爭ノ永續ノ後此歲ノ條約ニ依リ
鹽鑛權ハ各撰帝候ニ歸セリ爾來各州ニ於テ食鹽ヲ以テ歲入ノ財源トナシ或ハ之ニ租稅ヲ課シ
或ハ專賣ノ收入ヲ以テシタリシガ爾後種々ノ改廢ヲ經テ
千八百三十年 天保元年
去今七五年前 關稅同盟成立後各加入國ハ理財上ノ利益ヲ保護スル爲メ鹽ノ大販賣
ハ同盟期間帝國政府ニ於テノミ營マル、コトニ一致シ其他食鹽ノ輸入及其監視、密賣防禦ノ

爲メ國境ニ於テ價額ノ均一ヲ計ル等專賣保安ノ同盟ヲ締結セリ
 千八百六十七年 慶應三年 去今三十八年前 之カ爲メ關稅同盟ノ各國間鹽ノ交通ヲ妨害拒制シタルヲ以テ此歲
 關稅同盟國ノ協議ニ基キ食鹽ノ專賣ヲ廢止シ之ニ代フルニ共同鹽稅徵收條約ヲ締結シ爾後帝
 國稅トシテ鹽稅ノ徵收ヲナスニ至レリコ、ニ於テ專賣制度ノ國ハ遂ニ變シテ租稅制度ノ國ト
 ナルニ至レリ以下現行ニ至ルマデ帝國各邦ノ沿革ヲ揭記スベシ
 一、普魯西

千六百五十六年 明曆二年 去今二四九年前 大撰帝候ハ高僧、縉紳及騎士ノ解放ニ依テ鹽ノ特權ヲ取得
 シ私立製鹽場ハ國家ニノミ販賣スルコトヲ得又鹽ノ輸入ハ禁止セラレ小賣ニハ免許ヲ要ス
 ルコトトナセリ
 千七百六十五年 明和二年 去今一四〇年前 鹽ノ配布ヲ全國ニ施行シ(九歲以上ノ者ハ四「メッツ」鹽收牛
 一頭又ハ羊拾頭毎ニ二「メッツ」鹽)食鹽ノ強賣ヲナス(「メッツ」ハ十八世紀中頃ニ於ケル度量衡ノ制度ニ
 セリ)ナ
 千八百十六年 文化十三年 去今八九年前 土地所有ノ貴族ハ從來鹽ノ配賦ヲ免レタリシガ此歲ヲ以テ鹽ノ
 配賦ヲ全廢シタリ
 千八百二十年 文政三年 去今八五年前 鹽價ハ元來各州差異アリシカ此歲全國各地總テ價額ヲ均一ニナ
 シ各地ヘノ運送費ハ國家之ヲ負擔セリ其鹽價左ノ如シ

數	量	換	算	價	額	換	算	百	斤	當	リ

一	(四五磅ノ一噸)	噸	四九〇〇〇	タール	一五	四	二二五〇	四	七二〇	
---	----------	---	-------	-----	----	---	------	---	-----	--

千八百二十三年 文政六年 去今八二年前 價額均一ノ制度ヲ採用シテヨリ其結果國境ノ數州ニ於テ密賣
 甚タ増加シタルヲ以テ該州ニ限リ平均一人十二磅(我約九斤)ヲ其地ノ狀況ニ應シテ町村ニ
 割當テ之ヲ強賣シ而シテ町村ニ於テ再ヒ各一軒毎ニ分配スルコト、シ消費ノ検査ヲ實施セリ」
 千八百三十八年 天保九年 去今六七年前 家畜及工業鹽ニ對シテハ漸ク此歲以來價格ノ低減ヲ許可セリ
 而シテ工業鹽ハ他國ノ競争ノ爲メニシテ其多量ニ使用スル工場ニ限レリ
 千八百四十二年 天保十三年 去今六三年前 食鹽ノ價額低減ヲ行フ
數量一噸(四五磅ノ一噸)ノモノヲ(我四十九貫五匁) 價額「タール」ニテ示ス (我一圓四十三錢四匁)

數	量	換	算	價	額	換	算	百	斤	當	リ
一	噸		四九〇〇五	タール	一二	四	一七二〇八	四	五六一八		

純收益

年	次	收	益	金	換
一八〇五年	文化二〇年前	去今一〇〇年前		百萬タール 〇、四分一	一、〇七五、五〇〇
一八二二年	文化五年	去今八三年前		四、二	六、〇二二、八〇〇
一八二六年	天保七年	去今六九年前		五、三	七、六〇〇、二〇〇

第一 租稅制度國

一八四四年	弘化元年	四、三	六一六、二〇〇
專賣廢止前	去今六一年前	六〇	八、六〇四、〇〇〇

備考 千八百四十四年収入ノ減少ハ千八百三十八年ニ於ケル家畜工業鹽ノ減價及千八百四十二年ノ價額減少ノ結果ナリ

二、ザクセン王國

千五百八十三年 天正十一年 以來食鹽專賣ノ成立アリ

千七百七十七年 安永六年 以來ハ專賣ト共ニ密賣禁止ノ爲メ鹽ノ配布ヲ施行セリ

歲以上一人毎二十四磅(我十斤九十四匁)牝牛一頭又ハ羊十頭毎ニ七磅(我五斤四七匁)〔千八百十年以來十六磅(我十二斤十六匁)〕

然レトモ其供給ハ著大ノ製鹽場ハ邦土ニアラサルヲ以テ政府ハ普魯西ト條約ヲ結ヒ鹽ノ購入ヲナセリ而シテ輸出入ハ之ヲ禁止ス

販賣價額ハ

イ、各地算定ヲ異ニスルノミナラズ

ロ、需用者ニ依リテモ亦差異アリ即チ

1、特權者ハ廉價ニテ鹽ヲ得

2、勳爵食邑地ハ之ヨリ尙ホ廉價ナリキ

千八百四十年 天保十一年 鹽ノ配布ヲ廢止セリ

三、ユルテンベルヒ

千六百二十九年 寛永六年 租稅實施

千八百七年 文化四年 鹽販賣ノ專賣ヲ實施ス

千八百二十四年 文政七年 家畜鹽ノ價額低減ヲナシ

千八百四十八年 嘉永元年 工業鹽ニモ之ヲ行フ

千八百五十一年 嘉永四年 爾來工業鹽ニ混和スルモノハ工業者ノ任意トナセシガ之カ爲メ濫用ヲ來タシタルカ故ニ此歲此恩典ヲ廢止セリ

四、ヘッセン帝國 製造及販賣(大販賣)ノ專賣ヲ施行シ小賣販賣ハ價額ヲ制限スルノミニテ之ヲ放任セリ

五、バイエルン 製造及販賣(大販賣)ノミニナラズ小賣ヲモ專賣トナセリヲ施行ス

價額 製鹽場ヨリ販賣場ノ距離ニ從ヒ算定ヲ異ニス 數量一噸(四〇五磅)ノモノヲ(我四十九貫五匁)價額「フロリン」ニテ示ス(我八十一錢四匁)

種	類	數	量	價	額	換	算	百	斤	當	リ
食	鹽	一噸(四〇五磅)	フロリン	四・五五	三・七〇三	四・五五	一・二〇八	四	二〇八	一・二〇八	円
家畜	鹽	一噸	フロリン	六・四〇	五・一〇九	六・四〇	一・七〇九	四	一七〇九	一・七〇九	円
工業	鹽	一噸	フロリン	三・三〇	二・八〇〇	三・三〇	〇・九三六	四	〇九三六	〇・九三六	円

肥料 鹽

一、二二六
〇・〇六
〇・〇四八
〇・九九四
〇・〇一五
〇・三二四

- 六、ナツソー 本來鹽ノ缺乏國ニシテ販賣ノミノ專賣ヲ施行ス
 - 七、ルクセンブルグ 同シク本來ノ食鹽缺乏國ニシテ販賣ノミノ專賣ヲ施行ス
 - 八、バーデン 製造專賣ヲ施行シタリ
 - 九、ユーリンゲン 同シク製造專賣シタリ
 - 十、ハンノーフアイ ハ製造税ノ徵收ヲナセリ
 - 十一、ヲルデンブルヒ モ同シ製造税ノ徵收ヲナス
 - 十二、プレーメン モ右ニ同シ
 - 十三、ブラウンシェワイグ モ亦同シ
 - 十四、其他ノ諸國皆專賣ノ成立アリタリ
- 乙、産出鹽ノ種類 當國ヨリ産出スル鹽ハ左ノ二種トス
- 一、岩鹽 地中ヨリ採掘スルモノ
 - 二、井鹽 地中ヨリ湧出スル鹽液若クハ地中ノ岩鹽ヲ溶解シテ得ル所ノ鹽液ヲ煎熬シテ採收スルモノ
- 丙、産出額
- 一、全産出額 數量ハ「噸」ヲ基數トス 一噸ハ我二百七十貫九四六匁、千六百八十四斤強 價額ハ「馬克」ヲ基數トス 一馬克ハ我四十七錢八厘

年次	事項	産	額	價	額	百斤當リ
一八八八年		一、五三四、二四、〇〇〇斤	九二、〇〇〇馬克	一、二四七、九〇〇馬克	〇・三六六	
一八八九年		一、〇三七、一〇〇	一〇、三七、一〇〇	五、九六四、九六三	〇・三六二	
一八九〇年		一、七四六、四七、六四〇	一〇、四九、六〇〇	一四、二二三、〇〇〇	〇・四四三	
一八九一年		一、七六七、六九、八〇〇	一、七〇、二〇〇	一五、七五九、〇〇〇	〇・四四二	
一八九二年		一、九六五、七三、二〇〇	一、六七、三〇〇	一六、六七五、〇〇〇	〇・四四四	
一八九三年		一、九七六、三三、四〇〇	一、七三、三六〇	一六、九二一、〇〇〇	〇・四六二	
一八九四年		二、一七六、二九、六〇〇	一、二五、七五〇	一八、二七二、九二二	〇・四六五	
一八九五年		二、一七六、二九、六〇〇	一、二五、七五〇	一八、〇六二、〇〇〇	〇・四六五	
一八九六年		二、〇四四、一四〇、二〇〇	一、一三、三〇〇	一七、八九九、〇〇〇	〇・四四七	
一八九七年		二、一九九、九七、七、六〇〇	一、三〇、六七〇〇	一五、三五五、七三三	〇・四四〇	
二、岩鹽産出額	數量ハ「噸」ヲ基數トス 一噸ハ我二百七十貫九百四十六匁、千六百八十四斤 價額ハ「馬克」ヲ基數トス 一馬克ハ我四十七錢八厘	二、二〇〇、四八、二、八〇〇	一、三〇、六七〇〇	一五、三五五、七三三	〇・三七六	

年次	事項	製造業兼業場		額	價	出額	百斤當リ
		業	場				
一八九九年		二	五	九一七、一〇六、四〇〇		二、二五五、〇〇〇	〇・一〇八
一八九〇年		二	五	九三八、一五六、四〇〇		二、〇七七、八九〇	〇・一二六
一八九一年		二	六	六六六、八〇〇		二、九七九、〇〇〇	〇・二二八
一八九二年		〇	六	六六二、六〇〇		二、八三三、〇〇〇	〇・二二一
一八九三年		〇	六	一一五、八一八、四〇〇		一、三五三、六九六	〇・二二一
一八九四年		〇	六	六六九、一〇〇		二、九四四、〇〇〇	〇・二二四
一八九五年		〇	六	一一二六、七六四、〇〇〇		一、四〇七、二二三	〇・二二一
一八九六年		〇	六	七三四、九〇〇		一、五〇〇、九二〇	〇・二二一
一八九七年		〇	六	一、二七七、九八七、六〇〇		一、四八九、〇〇〇	〇・二二八
一八九八年		八	八	四九二、五〇〇		一、五五三、〇二二	〇・二二一
一八九九年		七	八	八二九、三七〇、〇〇〇		一、三二九、〇〇〇	〇・二二八
一八九〇年		七	九	四九二、五〇〇		一、三二九、〇〇〇	〇・二二八

三、井鹽產出額 數量ハ噸ヲ基數トス (我二百七十貫九百四十六匁、千六百八十四斤) 價額ハ馬克ヲ基數トス (我四十七錢八厘)

一八九一年	七	八	八四七、七二五、六〇〇	一三、四二二、〇〇〇	〇・七五六
一八九二年	七	八	五〇四、七〇〇	六、四一五、七一六	〇・七七八
一八九三年	七	九	八四九、九一四、八〇〇	六、六二六、九五四	〇・八〇一
一八九四年	七	八	五〇四、五〇〇	二、三、九七七、〇〇〇	〇・八〇一
一八九五年	七	八	八四九、五七八、〇〇〇	六、八一〇、〇六〇	〇・八〇一
一八九六年	七	〇	五二二、六〇〇	一四、九二二、〇〇〇	〇・八一〇
一八九七年	七	〇	八八〇、〇五八、〇〇〇	七、一三三、七一六	〇・八一〇

備考

一、前表ニヨレバ食鹽即チ井鹽ハ岩鹽ノ產出額ニ比シテ遙カニ少ナシト雖其價額ハ却ツテ多キヲ見ル

二、岩鹽、井鹽ノ價額ニ比較スルニ井鹽ハ岩鹽ニ對シテ約五乃至六倍ノ高價ヲ有ス是レ岩鹽ハ地中ヨリ單ニ採掘スルヲ以テ之ニ要スル費用多カラサルモ井鹽ハ地中ヨリ鹽液ヲ扱揚シ更ニ石炭等ノ燃料ヲ用ヒテ煎熬シ後採收スルモノナルカ故ニ其費用自ラ多キヲ要スルニ基ク

四、產鹽ノ產地別 一噸ヲ基數トス (我二百七十貫九百四十六匁、千六百八十四斤)

地方別	平均年別		一八八九年—一八九〇年		一八九〇年—一八九一年		
	數	量	換	算	數	量	
ポ ー ゼ ン	四三,〇〇〇	噸	七二,四二二	〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	噸	六七,三六〇
ザ ッ ク セ ン	三〇八,〇〇〇	噸	五八,六七二	〇〇,〇〇〇	三〇五,〇〇〇	噸	五一,三六二
ハ ン ノ ー フ ァ ー	一〇一,〇〇〇	噸	一七,〇八四	〇〇,〇〇〇	一〇七,〇〇〇	噸	一八,〇一八
ウ エ ス ト フ ァ ー	三〇,〇〇〇	噸	五七,三五六	〇〇,〇〇〇	三二,〇〇〇	噸	五二,二〇四
其 他 普 魯 西	一,二〇〇	噸	二〇,二〇八	〇〇,〇〇〇	一,二〇〇	噸	二〇,二〇八
普 魯 西 (計)	四九八,〇〇〇	噸	八三八,六三三	〇〇,〇〇〇	四九五,〇〇〇	噸	八三三,五八〇
バ イ エ ル ン	四三,〇〇〇	噸	七二,四二二	〇〇,〇〇〇	四三,〇〇〇	噸	七二,四二二
ザ ク セ ン	二〇〇	噸	三三六,八〇〇	〇〇,〇〇〇	二〇〇	噸	三三六,八〇〇
ウ エ ッ テ ン	二〇〇,〇〇〇	噸	三三六,八〇〇	〇〇,〇〇〇	一九,二〇〇	噸	三三二,六四四
バ ー デ ン	二九,〇〇〇	噸	四八,八三六	〇〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	噸	四七,一五三
ヘ ッ セ ン	一七,〇〇〇	噸	二八,六二八	〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	噸	二,五二六
メ ク レ ン	七,〇〇〇	噸	一一,七八八	〇〇,〇〇〇	一九,〇〇〇	噸	三二,九九六
ラ ウ ン シ ュ		噸		〇〇,〇〇〇		噸	
チ ュ リ ゲ ン		噸		〇〇,〇〇〇		噸	
ル ト	一五七,〇〇〇	噸	二六四,三八八	〇〇,〇〇〇	二〇五,〇〇〇	噸	三四五,二〇〇
合 計	一,〇〇五,〇〇〇	噸	一,七九二,四二〇	〇〇,〇〇〇	一,〇六〇,〇〇〇	噸	一,七八五,〇四〇

十

ハ ン ブ ル グ	六〇〇〇	一〇,一〇四,〇〇〇	九,〇〇〇	一五,一五六,〇〇〇
エ ル ザ ス、ロ ー ト リ	四八,〇〇〇	八〇,八三三,〇〇〇	五五,〇〇〇	九二,六二〇,〇〇〇
ン ゲ ン				
合 計	一,〇〇五,〇〇〇	一,七九二,四二〇	一,〇六〇,〇〇〇	一,七八五,〇四〇

丁、工場數

平均年別	鑛	業	製	鹽	所	其他	工場
一八七二年—七五年		八			六三		一一
一八七六年—一八八一年		九			六二		九
一八八一年—一八八六年		一〇			六三		九
一八八六年—一八八七年		一一			六四		九
一八八七年—一八八八年		一一			六四		一〇
一八八八年—一八八九年		一一			六四		一一
一八八九年—一八九〇年		一四			六四		一四

戊、販賣額 一噸ヲ基數トス (我二百七十貫九百四十六匁、千六百八十四斤)

年次	内國用		外國輸出		合計
	數量	一人當リ	數量	一人當リ	
一八八八年	一、三五一、四九〇、八三三	七、七	一〇一、八一三	九〇四、三六一	
一八八九年	一、四四二、九三四	七、七	一四二、七九〇	九八五、七一四	
一八九〇年	一、四一九、四八四、〇一六	七、七	二四〇、四五八、三六〇	一、六五九、九四二、三七六	
一八九一年	一、三三三、二五七、二九六	七、七	一四九、七五六	一、四八三、〇三三、〇五二	
一八九二年	一、四〇三、〇五六、五九六	七、七	一七八、〇〇八	一、五八一、〇六四、六〇四	
一八九三年	一、〇七三、一五〇、二四四	七、七	二九九、七六五、四七二	一、三七一、〇一五、七一六	
一八九四年	一、三五一、七七八、七九六	七、七	二二七、一四九	一、五三八、九二五、九四五	
一八九五年	一、三九〇、三七三、二一六	七、七	一八六、五四三	一、五七六、九一六、七五九	
一八九六年	一、四七三、七三九、二二八	七、七	三三九、七〇七、四五二	一、八一三、四四六、五八〇	
一八九七年	一、五九二、一三三、〇六四	七、七	三三九、一九三、八三二	一、九三一、三二六、八九六	
合計	一、六五六、四三一、二二六	七、七	二〇九、三五七	一、八七五、七六八、五八三	

已、消費鹽

一、内國消費額 數量ハ一噸ヲ基數トス但一人當リ數量ハ一基ヲ基數トス
噸ハ我二百七十貫九百四十六匁千六百八十四斤一基ハ我二百六十六匁

年次	食料		食外		總計
	數量	一人當リ	數量	一人當リ	
一八八八年	三七一、八六九	七、七	三九〇、八一三	七六二、六八二	
一八八九年	六二六、二二七、三九六	七、七	六五八、二二七、四〇八	一、二八四、四五四、八〇四	
一八八九年	三六四、六六七	七、七	四三三、二一六	七九六、八八三	
一八八九年	六一四、〇九九、二二八	七、七	七二七、八五一、七四四	一、三四一、九五〇、九七二	
一八八九年	三八一、二〇三	七、七	四六五、四三三	八四六、六三六	
一八八九年	六四一、九四五、八五三	七、七	七八三、七九三、五九二	一、四二五、七三八、四四四	
一八八九年	二八六、三六二	七、七	四八〇、〇三五	八〇七、三九七	
一八八九年	四八二、二二三、六〇八	七、七	八〇七、九七八、九四〇	一、二九〇、二二二、五四八	
一八八九年	三八三、四四四	七、七	五一、二四〇	八九四、六八四	
一八八九年	六四五、七一六、九九六	七、七	八六〇、九二八、一六〇	一、五〇六、六四七、八五六	
一八八九年	三九〇、四六七	七、七	五三五、〇六〇	九二五、五二七	
一八八九年	六五七、五四六、四二八	七、七	九〇一、〇四一、〇四〇	一、五五八、五八七、四六八	
一八八九年	三九八、七七九	七、七	五三七、五四八	九三六、三二七	
一八八九年	六七一、五四三、八二七	七、七	九〇五、二三〇、八三三	一、五七六、七七四、六五九	
一八八九年	四〇九、六一〇	七、七	五五五、〇八四	九六四、六九四	
一八八九年	六八九、七八三、二四〇	七、七	九三四、七六一、四五六	一、六二四、五四四、六九六	
一八八九年	四一四、九一八	七、七	六〇八、一〇〇	一、〇二三、〇一八	
一八八九年	六九八、七二一、九一二	七、七	一、〇四〇、四〇〇	一、七三三、七六二、三一二	
一八八九年	四一九、九九九	七、七	六〇七、三七四	一、〇二七、三七三	
一八八九年	七〇七、二七八、三二六	七、七	一、〇二二、八一七、八一六	一、七三〇、〇九六、一三三	
合計	一、二一五、四	七、七	一、〇二二、八一七、八一六	二、二三八、二六二、二一六	

二、外國輸出額 一噸ヲ基數トス(我二百七十貫九百四十六匁、千六百八十四斤)

年次	輸出額		換算
	數量	一人當リ	
一八八八年	一〇三、九五九	七、七	一七五、〇六六、九五六
一八八九年	一七八、二三三	七、七	三〇〇、一四四、三七三

年	消費ノ用途	消費者數	井鹽數	岩鹽數
一八九〇年		一八七、〇九五		三一五、〇六七、九八〇
一八九一年		二四四、一九九		四一、一三三、一六
一八九二年		一八二、一一三		三〇六、六七六、六〇八
一八九三年		二二三、四八五		三七六、三四八、七四〇
一八九四年		一八二、五八五		三〇七、四七三、一四〇
一八九五年		二二一、八七七		三五六、八〇〇、八六八
一八九六年		一八九、〇九一		三一八、四二九、二四四
一八九七年		二〇六、五三三		三四七、八〇一、五七二

十四

三、消費ノ用途 數量噸ヲ基数トス (我二百七十貫九百四十六匁、千六百八十四斤)

消費ノ用途	消費者數	井鹽數	岩鹽數
鹽商	四二	七二七、八	一四三、八
曹達及硫酸曹達製造所	五〇	一、二二五、六一五	二四三、一五九
石鹼及油液精製所	二二七、七	八、五二二、九	一〇九、八四一、一
化學品及染料製造所	二二〇	一四、三五二、五六三	一八四、九二八、四二二
		二、四一一、三三〇	七、六四一、八
		一八、六七六、六	一二、八六八、七九一
		三一、四五〇、三八四	六四、七六四、二
			一〇九、〇六二、九一二

消費ノ用途	消費者數	井鹽數	岩鹽數
硝子製造所	二四	三七	一五九、九
鞣革商	一、七一三	二、六〇〇、四	二六九、二七一
皮革商	一、七八三	四、三七九、〇七三	四、六〇六、〇
鑛山及冶金所	二七六	七、五七七、五	七、七五六、五〇四
陶器製造所	二五八	一、七六〇、五一〇	一三、六五五、八
製紙所	五	五〇九、二	二二、九九六、三六七
造船所(木材浸清用)	六	八五七、四九二	三一、一七三、九
麻布製造所	四三五	七、一五、八	五二、四九六、八四七
製氷所及冷蔵所	一、二九七	一、二〇五、四〇七	一、三二九、八
鐵道馬車會社	一三三	二八八、四三三	二、二二九、三三三
其他諸用途	一四	一、七二、一	一、八二二、七
牧畜用		七九、三八七、九	一、四七九、〇
肥料用		一三三、六八九、二二三	二、四九〇、六三六
合計		二〇六、五四一、五八九	七九五、九七五、六〇六

第一 租稅制度圖

十五

備考 本表ニヨレバ井鹽ヲ使用スル量ハ岩鹽ヲ消費スルヨリ尠ナキヲ見ルハ要スルニ岩鹽ノ價額并鹽ノ價額ニ比シテ高價ナルニ基クベシ

四、牧畜用鹽消費額

イ 家畜數 (千八百九十七年十二月獨逸飼養所ノ調査ニ係ルモノナリ)

地方別	馬		牛		羊		豚	
	數	千人ニ對シ	數	千人ニ對シ	數	千人ニ對シ	數	千人ニ對シ
北部 獨逸	三、六三〇、〇七七	八二	一、二五四、〇九四	三一四	九、三四八、〇四〇	二三四	一一、三四五、五二四	二八四
南部 獨逸	七五五、四〇八	六一	五九四、六七八	四八一	一、五一八、七三二	一三三	二、九二九、〇四三	二三七
獨逸全國計	四、〇三八、四八五	七七	一、八四九、〇七二	二五四	一〇、八六六、七七二	二〇八	一四、二七四、五五七	二七三

ロ 消費額 (獨逸テュルンブルク鹽務局長フエーレル氏ノ調査ニ係ル)

地方別	大形動物 (牛馬)		小形動物 (羊豚)	
	動物數	用鹽量 一年一頭平均	動物數	用鹽量 一年一頭平均
北部 獨逸	一六、一七四、一七一	三二六、五四三	二〇、六九三、五五四	八二、七七四
南部 獨逸	六、七〇三、〇八六	一三四、〇四三	四、四四七、七七五	一七、七七一
獨逸全國計	二三、八七六、二五七	四五〇、五八五	二五、一四一、三三九	一〇〇、五六五

ハ 食用鹽一人當リト牧畜用鹽一頭當リトノ割合

割換算	食用鹽		牧畜用鹽	
	一年間一人當リ	一年間牛馬一頭當リ	一年間羊豚一頭當リ	割換算
割	七、八	二〇	二〇	二、六
換	一三	三三、〇四〇	六、一〇四	四、四

備考 一人一年ノ消費額ニ比シ家畜消費額ハ牛馬ニアリテハ三倍弱ノ夥シキヲ要シ羊豚ニ在リテハ二分ヲ一強ヲ示ス

庚、輸入、輸出

一、輸入及輸出額 數量噸ヲ基數トス (我二百七十貫九百四十六匁、千六百八十四斤)

年次	輸入		輸出	
	數量	換算	數量	換算
一八八八年	二八、〇五七	四七、五二八、五〇八	一〇三、九五九	一七五、〇六六、九五六
一八八九年	二六、八二五	四五、四四一、五五〇	一七八、二三三	一〇〇、一四四、三七二
一八九〇年	二六、四九九	四四、八八九、三〇六	一八七、〇九五	三二五、〇六七、九八〇
一八九一年	二五、九二六	四三、九一八、六四四	二四四、一九九	四一一、三三三、一一六
一八九二年	二四、〇四八	四〇、七三七、三二一	一八二、一一二	三〇六、六七六、六〇八
一八九三年	二三、八二九	四〇、二八〇、三六六	二二三、四八五	三七六、三四八、七四〇

一八九四年	三三、一五九	三八、九九七五六	一八二、五八五	三〇七、四七三、一四〇
一八九五年	二四、六六四	四一、五三四、七六	二二、一八七七	三五六、八〇〇八六八
一八九六年	二二、五八六	三八、〇五三、〇二四	一八九、〇九一	三二八、四二九、二四四
一八九七年	二二、三六五	三七、六六二、六六〇	二〇六、五三三	三四七、八〇一、五七二

備考

イ、本表ニヨレバ毎年輸出額ハ二十萬内外ニ達シ産出額ノ五分ノ一内外ノ多キニ及ヒ漸次輸出ヲ嵩ムルノ趨勢アルヲ示ス

ロ、前表ニヨレバ内國用鹽ノ額年々増加スルト同時ニ外國ニ輸出スル鹽類モ亦其額ヲ進ムルニ輸入外國鹽ハ却テ漸次其量ヲ減スルノ事實ナリ是レ他ナシ人口増殖ニ伴ヒ獨リ多量ノ鹽ヲ原料トスル農工業ノ發達ト共ニ外國輸出貿易ノ進歩ニ外ナラサルベシ

二、輸入外鹽ノ仕出地及輸出鹽ノ仕向先

國名	輸入 (獨逸國へ)	輸出 (獨逸國ヨリ)
佛國	一〇七、七六六	六七、三六〇
丁抹	六四	四〇
白耳義	九七、六七二 五八 五八	一三九、七七二 八三 八三
國	一八九六年	一八九六年
	一八九七年	一八九七年

國名	輸入 (獨逸國へ)	輸出 (獨逸國ヨリ)
英國	一九、三三四	二、七六〇
蘭國	三二、五四一、六一六	四、六四七、八四〇
諾威、瑞典	九七六	三三、五〇三
澳國	一、八五六	五、四一七、三六八
荷蘭	三、一二四、七〇四	一七、五六七
露國	五〇五三	二九、五八二、八二八
瑞西	八二、五一六	三、一三五九
亞非利加	一三三	五三、八〇八、五五六
英領印度	二二、二八八	二、八五八
濠州	二二、二八八	四、八一三、八七三
日本	二〇三、七六四	四、九一三、〇二四
其他諸國	二〇三、七六四	四、九一三、〇二四

合	計	二二,五八六	二二,三六五	一八,九〇九	二〇,六五三
		三八,〇三四,七四四	三七,六六二,六六〇	三一八,四二九,二四四	三四七,八〇一,五七三

備考

- 一、歐州中鹽ヲ産セサル白耳義、丁抹、諾威、瑞典ノ諸國ニ向ヒテハ獨逸國ヨリ鹽ヲ輸入スルコト其量少カラズ勢止ムヲ得サルニヨル
- 二、東印度ニ輸入スルモノ、如キ其額亦尠少ナラズ
- 三、本邦ニ對シ輸入スルモノハ千八百九十六年ニ於ケル輸入鹽ノ量千百三十六噸（我百九十一萬三千二十四斤）ニ過キサリシモ千八百九十七年ニ至リテハ大ニ其額ヲ増加シ五千三百二十八噸（我八百九十七萬二千三百五十二斤）則チ前年ノ約五倍ニ進メリ
- 三、輸出鹽仕向地ニ對スル鹽ノ種類別 一基ヲ基数トス（我二百六十六噸）

國名	井	岩	鹽	合計
澳國	一〇〇	二七,一五二,二〇〇	四〇,七六五,五三三	二七,一五二,三〇〇
露國	二,八五〇,五〇〇	六,八〇九,四〇〇	九,六五九,九〇〇	二七,一五二,三〇〇
瑞典	四,七三九,九五六	一一,三三〇,六二七	一六,〇五九,五八三	二七,一五二,三〇〇
瑞典	一〇,八三五,〇〇〇	三,七七三,三〇〇	一四,六〇七,三〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	一八〇,一三二,一八七	六,二七一,四四八	二四,二八四,六三五	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	四〇〇	一,五五〇,四〇〇	一,五五〇,四〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	六六五	二,五七七,五四〇	二,五七七,五四〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	二,四八九,七〇〇	一,三八八,一〇〇	三,八七七,八〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	四,一三九,一二六	二,三〇七,七一六	六,四四六,八四二	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	五一六,五〇〇	五二,三〇六,五〇〇	五二,三〇六,五〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	八五八,六八一	八六,九五九,五五六	八七,八一八,二三七	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	五〇〇	五,三二七,五〇〇	五,三二七,五〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	八三一	八,八五六,九六八	八,八五六,九六八	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	一五,五〇〇	三,四三〇,〇〇〇	四九,八〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	二六,一〇一	五七,〇三三	八三,一二四	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	四六,七〇〇	八三,三〇〇	八七,八七〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	七七,六三七	一,三八四,八六二	一,四六二,四九四	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	三八四,四〇〇	五〇,八〇〇	四三,五二〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	六三九,〇六五	八四,四五五	七三,三二〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	一七三,七〇〇	七一,一〇〇	二四四,八〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	二八八,七七六	一一八,二〇三	四〇六,九七九	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	七六,七〇〇	三,二一〇,一〇〇	三,二八六,八〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	一七七,五二三	五,二二,七九一	五,三三九,三〇四	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	五,一〇〇	八五,六九八	五,六〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	八,四七八		九四,一七六	二七,一五二,三〇〇

國名	井	岩	鹽	合計
澳國	一〇〇	二七,一五二,二〇〇	四〇,七六五,五三三	二七,一五二,三〇〇
露國	二,八五〇,五〇〇	六,八〇九,四〇〇	九,六五九,九〇〇	二七,一五二,三〇〇
瑞典	四,七三九,九五六	一一,三三〇,六二七	一六,〇五九,五八三	二七,一五二,三〇〇
瑞典	一〇,八三五,〇〇〇	三,七七三,三〇〇	一四,六〇七,三〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	一八〇,一三二,一八七	六,二七一,四四八	二四,二八四,六三五	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	四〇〇	一,五五〇,四〇〇	一,五五〇,四〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	六六五	二,五七七,五四〇	二,五七七,五四〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	二,四八九,七〇〇	一,三八八,一〇〇	三,八七七,八〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	四,一三九,一二六	二,三〇七,七一六	六,四四六,八四二	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	五一六,五〇〇	五二,三〇六,五〇〇	五二,三〇六,五〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	八五八,六八一	八六,九五九,五五六	八七,八一八,二三七	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	五〇〇	五,三二七,五〇〇	五,三二七,五〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	八三一	八,八五六,九六八	八,八五六,九六八	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	一五,五〇〇	三,四三〇,〇〇〇	四九,八〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	二六,一〇一	五七,〇三三	八三,一二四	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	四六,七〇〇	八三,三〇〇	八七,八七〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	七七,六三七	一,三八四,八六二	一,四六二,四九四	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	三八四,四〇〇	五〇,八〇〇	四三,五二〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	六三九,〇六五	八四,四五五	七三,三二〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	一七三,七〇〇	七一,一〇〇	二四四,八〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	二八八,七七六	一一八,二〇三	四〇六,九七九	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	七六,七〇〇	三,二一〇,一〇〇	三,二八六,八〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	一七七,五二三	五,二二,七九一	五,三三九,三〇四	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	五,一〇〇	八五,六九八	五,六〇〇	二七,一五二,三〇〇
亞非利加	八,四七八		九四,一七六	二七,一五二,三〇〇

備考 我邦ニ於テハ前表ニ掲ケシ如ク千八百九十七年ニハ俄ニ輸入増加シテ前年ノ約五倍ニ

進ミシガ其ノ鹽ノ種類ハ高價ナル井鹽ニアラズシテ廉價ナル岩鹽ニアリ

辛、鹽價

一、井鹽ノ價 數量「キコクラム」ニテ示ス (我二百六十六匁) 價額「馬克」ニテ示ス (我四十七錢八厘)

種類	數量	價額	換算	百斤當リ
小賣相場	キログラム 一、 (百若ハ二百セント)	馬克 〇・二〇	円 〇・〇九五	円 五・七三八
問屋相場	100、	一八・〇〇	八・六〇四	五・一六四
製造者ヨリ問屋ニ 販賣スル相場	100、(除税入)	一六・二〇乃至 一六・六〇	七・七四三 七・九三四	四・六四七 四・七六二
家畜用鹽	10、	〇・二〇 〇・四〇	〇・〇九〇 〇・一九一	五・七三八 一・四七六

二、岩鹽ノ價 數量「百基」モノヲ 價額「馬克」ニテ示ス (我二百六十六匁) (我四十七錢八厘)

種類	數量	價額	換算	百斤當リ
工業用粗質(無包裝)	100、基	〇・四〇	馬克 四・〇〇	円 〇・一一四
粉末岩鹽(同)	100、	〇・六〇	六・〇〇	〇・一七三
粉末食用岩鹽	100、	〇・三八	三・八〇	〇・三二九

種類	數量	價額	換算	百斤當リ
變質收畜用岩鹽	100、	馬克 一・二〇乃至〇・八〇	円 一・二〇乃至〇・八〇	〇・三四四
舐食收畜用岩鹽	100、	〇・五七三	五・七三	〇・二二九
變質工業用岩鹽	100、 (昭和物ノ種類ニヨリ)	二・〇〇乃至〇・七〇 〇・九五乃至〇・三三四	二・〇〇乃至〇・七〇 〇・九五乃至〇・三三四	〇・三四四 〇・二〇〇 〇・五七三

三、包裝ノ價 (材料麻囊)

納入數量	個數	價額	換算
100、 基	100、	馬克 〇・四〇乃至 〇・五〇	円 〇・一九一乃至 〇・二三八

壬、租稅

一、稅率 數量千基ニ對スル租稅額「馬克」ニテ示ス (我四十七錢八厘)

年次	稅目	數量	稅額	百斤當リ
一八七一年	租稅 (内國産)	100、基	馬克 一・二〇〇	円 〇・三四四
同	輸入稅 (船舶ニヨル輸入鹽)	100、	一・二〇〇	〇・三四四
一八七九年	輸入稅 (陸上ヨリ來ルモノ)	100、	一・二八〇 六・〇七八	〇・三六四

二、鹽稅ノ免除ヲ受クヘキモノ

一、輸出鹽

第一 租稅制度國

- 二、硫酸曹達又曹達製造鹽
 - 三、農業用（食餌、肥料）
 - 四、魚鹽漬用（鯨又ハ之ニ類スルモノ）
 - 五、輸出物鹽漬用
 - 六、工業用（食料及居住用殊ニ煙草製造用鑛水用入浴用ヲ除ク）
- 癸、收入 基數ハ「馬克」ニテ示ス（我四十七錢八厘）

平均年別	事項	租	稅	關	稅	合計
一八六八年—七〇年		三、〇四萬五	一四、五五五、〇〇〇	二六、四八、一三〇	五、五九四	一七、二〇三、三三〇
一八七一年—七五年		三、三四〇	一五、九六五、二〇〇	二四、七一、二六〇	五、一七	一八、四三六、四六〇
一八七六年—八一年		三、五八二	一七、二一九六〇	二一、六〇、五六〇	四、五二	一九、二八二、五二〇
一八八一年—八六年		三、八七〇	一八、四九八、六〇〇	一、五六三、〇六〇	三、二七	二〇、〇六一、六六〇
一八八六年—八七年		四、〇二二	一九、二〇、三八〇	二、二八、九〇〇	二、五五	二〇、四三九、二八〇
一八八七年—八八年		四、〇五五	一九、三八二、九〇〇	一、一五一、九八〇	二、四一	二〇、五三四、八八〇
一八八八年—八九年		四、一三三	一九、七五〇、九六〇	一、一六一、五四〇	二、三四	二〇、九一二、五〇〇
一八八九年—九〇年		四、一三一	一九、六五〇、五八〇	一、一三、七四〇	二、三三	二〇、七六四、三三〇

一八九〇年—九一年	四、三〇〇	二〇、五五四、〇〇〇				
-----------	-------	------------	--	--	--	--

(二) 佛蘭西

面積約三萬四千方里 (即日本ノ略一倍三)
人口約三千八百萬 (即日本ノ略六分ノ五)

甲、鹽制ノ沿革

千三百四十二年 康永三年 十四世紀以前鹽稅ハ地主又ハ一二ノ州ニ於テ王國庫ノ有ニ歸シ殊ニ或ハ關稅ノ形式ニ依リ或ハ間接消費稅ニヨリテ徵稅ヲナセリ其稅率及移動ヲ示セバ左ノ如シ
數量「磅」モノノ (我百二十多)
稅額「デニール」ニテ示ス (我四厘六毛一六)

年次	數量	稅額	換算	百斤當リ
一三四二年	一磅	二ニール	九・二三	一・二三〇
一三四九年	—	六	二七・六九	三・六九〇
一三六七年	—	三	一三・八四	一・八四五

千三百七十三年 文中二年 爾後專賣制度ヲ施行シ鹽ハ定規ノ價額ヲ以テ國王ノ鹽庫ニ納附セシメ之ヨリ王主ノ計算ヲ以テ賣却セラレタリシカ此歲ヲ以テ更ニ一二ノ洲ニ於テ密賣ニ抵抗スルタメ鹽ノ配賦ヲ施行セリ (一人ノ購求スヘキ定量ヲ法定シテ之ヲ強賣ニ附スルニアリ)

千五百四十八年 天文十七年 此歲ヲ以テ專賣ハ投機者ニ貸貸セラレ其密賣若クハ脫漏ヲ妨止スルガ爲メニハ舸船及絞首架等甚シキ嚴罰ヲ設ケ大ニ壓制ヲ加ヘ爲メニ其貸貸ハ激烈ナル

騷動ノ發端トナリタリ革命前監督ニ不便ナル境界ハ鹽價ニ甚シキ區別ヲ生シ一人平均價額ハ代價ノ額ニ甚シキ區別ヲ生シ一人平均價額ハ代價ノ額ニ從ヒ高價ノ地方ハ九磅六分ノ一 (我八十九圓四十九錢四厘) 低價ノ地方ハ十九磅二分ノ一 (我百九十圓三十七錢八厘) ナリキ而シテ革命ハ遂ニ襲來ノ弊害、貸貸價額ノ差別及嚴罰ヲ悉ク撤去シ漸次鹽ノ價額ニ低減ヲ行ヘリ其移動左ノ如シ
「磅」ハ(我百二十多)
「ソール」ハ(我一錢九厘)

移動年次	事項	數量	價額	換算	百斤當リ
一七八九年	寛政元年 去今一六年前	—	—	六	一五・一九八
一七九〇年	同 二年	—	—	三	七・五九九
一七九三年	同 五年	—	—	二	五・〇六六

備考 千七百九十三年ノ改正ノタメ体刑及鹽脫漏ノ爲メ家宅搜索ヲ廢止ス

千七百九十四年 寛政元年 專賣制度ヲ廢止ス

千八百六年 文化三年 更ニ輸入鹽并ニ内國鹽ニ「キログラム」我二百六十六多ニ付十一「セン

チーム」我カ三錢八厘ノ租稅ノ徵收ヲ實施ス爾後其稅額ノ移動ヲ示スコト左ノ如シ
「センチーム」ハ(我三厘八毛)

年次	數量	關稅	百斤當リ	内國稅	百斤當リ
一八〇六年	文化三年 去今九年前	一「センチーム」 〇・〇三六	二・二八六	一〇・〇三六	二・二八六

一八〇六年	全全	上上					二八五	六・四九六
一八一三年	文化	十年前					四〇〇	九・一三六
一八一六年	文化	十三年前					三〇〇	六・八五六
	去今	八九年前					〇・二四	

千八百四十八年 嘉永三年 此歳ノ争亂ノ爲メ四月十八日ノ勅令ニヨリ鹽稅ノ全廢ヲナシタリ
 シガ忽チ又同年十二月二十八日ノ法律ヲ以テ復興シ其稅額左ノ如クニシテ確定シ爾後之ヲ實
 行セリ 數量一基ニ對スル 稅額「センチム」ニテ示ス

數量	關稅	百斤當リ	內國稅	百斤當リ
一基	一〇センチム	二二八六	一〇センチム	二二八六
	〇〇三六		〇〇三八	

千八百七十五年 明治八年 右本稅ノ外此歳新ニ之ニ戰時附加稅ヲ課シ爾後之ヲ永續シ其後輸
 入關稅「キログラム」ニ付二十「センチム」トナリ殊ニ陸送ノ輸入鹽ニハ稅額ノ三割ヲ増徴セ
 リ

種別事項	數量	海送	陸送	計
內國鹽		一〇センチム	〇〇三六	一〇センチム
種別事項	數量	海送	陸送	計
內國鹽		一〇センチム	〇〇三六	一〇センチム
		〇〇三六	〇〇三六	〇〇七二
				二六センチム
				〇〇九八
				五・九四三

輸入鹽	二〇センチム	四・五七二	二六センチム	五・九四三
	〇〇七六		〇〇九八	

乙、産出鹽ノ種類

- イ、岩鹽 地中ヨリ採掘ス
- ロ、煎熬井鹽 地中ノ鹽液ヲ煎煮シテ採收ス
- ハ、海鹽 天日製法ニ依リ海水ヨリ製出ス
- 丙、産出額 數量「メートル」噸ヲ基數トス (我千六百六十七斤) 價額「フランク」ヲ基數トス (我三十八錢七厘)

年次	岩鹽		井鹽		海鹽		曹達製造液中ノ鹽		計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一八九六年	三三、〇〇〇	一、三三〇	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	三、八三〇	三、八三〇
一八九七年	三三、〇〇〇	一、三三〇	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	三、八三〇	三、八三〇
一八九八年	三三、〇〇〇	一、三三〇	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	三、八三〇	三、八三〇
一八九九年	三三、〇〇〇	一、三三〇	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	三、八三〇	三、八三〇
一九〇〇年	三三、〇〇〇	一、三三〇	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	一、二七五	三、八三〇	三、八三〇

丁、租稅

- 一、稅額
- イ、內國稅

數量	本	稅	附加稅	合計	百斤當り
一基	一〇〇三六	一〇三三三	本税ノ二割半 〇・〇二二五	一〇三三三 一〇三三三	二九七一

ロ、關稅 關稅ハ鹽ノ種類、運輸路（海陸）及到着ニ依リ算定ヲ異ニス（千八百八十九年四月改正）即チ左表ノ如シ
 本表ハ數量千「基」ノ稅額ヲ「フラン」ヲ基數トシテ示ス本表×印ノ數字ハ我百斤當リヲ示シ、モノナリ

海鹽、煮鹽、石鹽	歐州鹽	直輸外	歐州倉庫ヨリ
一、粗製及精製（白チ除ク）			
イ、陸上又ハ海上輸入	× フラン 〇・〇五五六	× フラン 〇・〇五五六	× フラン 〇・〇三九
ロ、ゼネガルヨリ		免除	
二、精製			
イ、陸上又ハ海上輸入	× フラン 〇・〇七六六	× フラン 〇・〇七六六	× フラン 〇・〇六〇
ロ、ゼネガルヨリ		免除	

二、免稅及減稅

イ、免稅

- 1 検査ヲ經ルカ又ハ海獵權等ニヨリ輸出スルモノ
 - 2 其他工業又ハ農業用ニシテ検査ヲ經テ豫メ混和又ハ變質セルモノ
- ロ、減稅

用途事項	數量	稅額	換算	百斤當り
家用鹽	一〇〇〇基	フラン 五	フラン 五	〇・二五
家用鹽	一〇〇〇基	フラン 五	フラン 五	〇・二五
肥料用鹽	一〇〇〇〇	五	一九三五	〇・二五

ハ、費用負擔 常時監督ヲ必要トスル場合ハ其費用ヲ製造者ニ於テ負擔シ然ラサル場合ハ千「基」（我約二百七十貫）ニ付「フラン」（三十八錢七厘）我百斤當リ二錢三厘ヲ納附スヘキモノトス

三、課稅ノ總鹽量并ニ人口平均一人當り量及一人當リノ租稅

年次	總課稅量	人口一人當り	租稅	人口一人當り
一八三〇年	三三八、三九九、〇〇〇斤 一九七、〇〇〇基	六、二	〇・四九	〇・六九六
一八五〇年	四二八、四一九、〇〇〇 二五七、	七、二	〇・七二	〇・七七一
一八六八年	五三三、四〇〇、〇〇〇 三二〇、	八、四	一・一五	〇・八四

一八八〇年	三三五	八八	〇・八八
一八八九年	五四一、七七五、〇〇〇	一四一、〇〇〇	三、四〇〇
一八九〇年	三三〇	八・七	〇・八六
一八九一年	五五〇、一〇〇、〇〇〇	一四〇、七四	〇・三三三

戊、收入 百萬リヲ基數トス「リラ」ハ(我三十八錢七厘)

一六三〇年

二千萬^{リヲ}

我 七、七四〇、〇〇〇圓

革命破裂前

五千四百萬^{リヲ}

我二〇、八九八、〇〇〇圓(外ニ貸借主ノ收益)

一八三〇年

五千八百六十萬^{リヲ}

我二二、六七八、二〇〇圓

年次	關	稅	内國稅	合計
一八四〇年—四二年		五七三 百方リヲ	八八九 百方リヲ	六六二 百方リヲ
一八四三年—四八年		二二、一七五 五七二	三、四四四 一一五	二五、六一九 六九、七
一八四九年		二七二	四、八三七	五七、五四七
一八五〇年—五九年		一〇、五二六 二六七	六、一 二、三六〇	一一、八八七 三三、三
一八六〇年—六九年		九、四〇四 二四三	三、九〇八 一〇、一	一三、三一二 三四、四
一八七〇年—七九年		八、八二三 二三八	九・七 三、七五三	一一、六三七 三二、五
一八八〇年—八九年		七、八一七 二〇二	四、七二一 一一二	一二、五三八 三三、四

一八九〇年	二〇、七 八〇、〇	一一、七 四、五二七	三二、四 一、二、五三八
一八九一年	二二、四 八、二八	一一、五 四、四五〇	三三、九 一、二、七三三
一八九七年			三三、九三 一、二、七四三

(三) 和 蘭

面積約二千三百三十三方里 (即日本ノ略十三分ノ一)
人口約五百萬 (即日本ノ略九分ノ二)

甲、鹽 制

千八百二十二年及千八百五十二年ニ於テ内國稅及關稅(精鹽ニノミ)ヲ徵收セリ

乙、租 稅

一、稅 率 數量千基ニ對スル 稅額「フニール」ニテ示ス (一基ハ我二百六十六匁 我八十錢四厘)

關 稅	内 國 稅	稅 目 事 項	數	量	稅	額	百 斤 當 り
關 稅	内 國 稅						
(精鹽ノミ)			一〇〇〇	一〇〇〇 基		フニール 七、二五九 九	〇・四三三 五
					一〇〇〇	九・六七三	〇・五八〇

二、免 稅

智利硝石ヲ精製スル際生スル粗成鹽ハ内國稅ヲ徵收スルモ關稅ハ免除ス
農業及工業鹽ハ豫メ混和ヲ行フタル上關稅及ヒ内國稅共ニ之ヲ免除ス
丙、產出 當國ハ鹽ヲ產出セス故ニ自國ニ於テ消費スル鹽ハ皆之ヲ外國ニ仰ク
丁、消費額 當國ハ歐洲列國ノ中ニ於テ漁業ノ盛大ナルコト他ニ多ク比類ヲ見ス隨テ之ニ使用ス
ル所ノ鹽モ亦尠カラズ

漁業鹽使用額 「キログラム」ヲ基數トス

年 次	年 次	數	量	換	算
一 八 九 二 年	一 八 九 二 年		二八、六六五、八〇八 基		四七、六五六、九〇六 斤
一 八 九 三 年	一 八 九 三 年		二六、三四三、一八六		四三、七九五、五四七
一 八 九 四 年	一 八 九 四 年		二七、三三二、六八三		四五、四三三、九六〇
一 八 九 五 年	一 八 九 五 年		二二、一〇四、三三三		三六、七四八、四二〇
一 八 九 六 年	一 八 九 六 年		二七、二三〇、四五二		四五、二五四、〇〇〇
一 八 九 七 年	一 八 九 七 年		一八、一五、〇八八		三〇、一六、三三四
一 八 九 八 年	一 八 九 八 年		三〇、三三三、三五二		五〇、〇七八、四〇八

戊、輸 入

輸入鹽ノ數量及價額 「ギルテン」ハ(我八十錢六厘トス)

年 次	年 次	數	量	換	算	價 額	換	算
一 八 九 二 年	一 八 九 二 年		七四、九一四、三〇〇 基		一二、四五五、〇二四 斤	一、三三〇、〇〇〇 ギルテン		一、〇六三、八二〇 円
一 八 九 三 年	一 八 九 三 年		八四、三四二、九〇〇		一四、〇、三〇、〇七一	一、四七六、〇〇〇		一、一八九、六五六
一 八 九 四 年	一 八 九 四 年		八一、八八五、七〇〇		一三、六一三、四、九七六	一、四三三、〇〇〇		一、一五四、一九二

已、收入 百萬「フロリッ」ヲ基數トス 「フロリッ」ハ我八十錢六厘

一八九五年	七八、一七一、四〇〇	一二九、九五九、九五二	一、三六八、〇〇〇	一、一〇三、六〇八
一八九六年	八四、四〇〇、〇〇〇	一四〇、三二五、〇〇〇	一、四七七、〇〇〇	一、一九〇、四六二
一八九七年	七五、六五七、一〇〇	一二五、七九、九二八	一、三〇四、〇〇〇	一、〇五、一〇三
一八九八年	八二、七四三、九〇〇	一三七、五六〇、〇七一	一、四四八、〇〇〇	一、一六七、〇八八

年次	收入金額	換算	一人當り平均	換算
一八三二年	一、一七、 <small>百萬フロリッ</small>	一、三七〇、二〇〇 <small>円</small>	—	—
一八四三年	三、一	一、六九二、六〇〇	—	—
一八八〇年	三、三	二、六五九、八〇〇	—	—
一八八八年	三、八	三、〇六二、八〇〇	—	—
一八九一年	四、〇	三、二二四、〇〇〇	〇、八六 <small>フロリッ</small>	〇、八六三 <small>円</small>

(四) 蘭領東印度

租稅收入及一人當り 一萬「フロリッ」ヲ基數トス 「フロリッ」ハ (我八十錢六厘)

平均年次	事項	收入	換算	一人當り	換算
一八九〇年—一八九一年	—	七、七四 <small>百萬フロリッ</small>	六、二三八、四四〇 <small>円</small>	約四分「フロリッ」	〇、二〇一 <small>円</small>

第二 輸入税ノミヲ以テスル國

(一)

魯國

面積約三十五萬方里 (即日本ノ略十三倍)
人口約一億六百萬 (即日本ノ略二倍)

甲、鹽制ノ沿革

千七百五十五年 寛永二〇〇年以前 十七世紀ノ中頃ニ於テ既ニ租税ヲ徵收シタリシガ鹽ノ製造并ニ其販賣ハ共ニ自由タリシナリ然ルニ此歲ニ於テ販賣ヲ專賣トナシ鹽ハ消費ノ爲メ直接國有倉庫ヨリ購求セシメラレタリ

千七百六十六年 寛永三十三年前 即チ次年ニ於テ直ニ其請賣ノ自由ヲ許可セリ

千七百二十八八年 享保三三年前 總テ鹽ノ販賣ヲ自由ナラシメ專賣制度ヲ全廢シ之ニ代フルニ租税ノ徵收ヲナセリ其率左ノ如シ

數	量	換	算	税	額	換	算	百	斤	當	リ
	一六三八	基	二七〇三七	斤	ニペク	三乃至	〇〇三五	乃	〇・〇二	〇・〇二	
					五		〇〇五五	乃	〇・〇二	〇・〇二	

千七百三十一年 享保十六年前 再ヒ專賣ヲ實施ス
千八百十二年 文化九年前 鹽ノ個人販賣ニ自由ヲ與ヘタリ
千八百六十二年 文久二年前 此歲又專賣ヲ廢止シ之ニ代フルニ普通ノ鹽税ノ徵收ヲ以テナセリ

第二 輸入税ノミヲ以テスル國

其稅率左ノ如シ

一、内國稅及輸入稅率
「ブリード」ハ我四貫三百六十八匁二九六
 「コベック」ハ「ループル」ハ我一圓〇三錢二厘

稅目	數量	稅額	換算	百斤當リ
内國稅	一 ポンド	三〇 コベック	〇・三〇九	一・一三三
輸入稅	一	三五	〇・三六一	一・一三八

二、輸入稅ノ免除 混和ヲ行フタル左ノ種類ノ鹽ハ關稅ヲ免除ス

イ、家畜鹽

ロ、工業鹽

千八百八十一年 明治十四年 全ク鹽ニ關スル租稅ヲ廢止セリ

千八百九十一年 明治二十四年 左ノ稅率ニヨリ輸入關稅ヲ實施ス

乙、關稅率
數量「ブリード」ノモノナ
 稅額「コベック」ヲ基數トシテ示ス
 (我四貫三百六十八匁二分九厘六)
 (我一錢一厘)

種類	數量	稅額	換算	百斤當リ
普通鹽	一 ポンド	二〇 コベック	〇・二〇六	〇・七五六
小包裝ノ精製板鹽	一 (一匁)	三〇	〇・三〇九	一・一三三
アルハンゲル所屬 港ヨリ輸入	一	一〇	〇・一〇三	〇・三七八

丙、收入 一萬「ループル」ヲ基數トス (一「ループル」ハ我一圓〇三錢二厘)

平均年次	事項	金額	換算	計算
一八五〇年—一六〇年		七九〇 百万ループル		八、一五二、八〇〇 円
一八六七年—七二年		一一・五〇		一一、八六八、〇〇〇
一八七四年—七八年		九・六〇		九、九〇七、二〇〇
一八七九年—八〇年		一二・三〇		一二、六九三、六〇〇

(二) 丁抹 面積約二千六百萬方里 (即日本ノ略十分ノ一)
人口約二百十九萬 (即日本ノ略二十二分ノ一)

甲、關稅率 數量千基ノモノ、
稅額「クローン」ニテ示ス (我五十三錢八厘)

種類	數量	稅率	換算	百斤當リ
精製鹽	一〇〇〇 <small>基</small>	二 <small>クローン</small>	一〇七六 <small>円</small>	〇〇六八 <small>円</small>
粗成鹽	一〇〇〇	一、六	〇八六〇	〇〇五一

乙、收入

年次	金額	換算
一八八三年—八七年	三八九、一五〇 <small>クローン</small>	二〇九、三六二 <small>円</small>
一八八七年	四一四、一三	二二二、七九二

(三) 那威 面積 二萬方里
人口 二百二十三萬

甲、鹽制

千八百八十二年 爾來山鹽及石鹽ノ輸入自由ナリシカ此歲以後關稅ヲ施行セリ其當時ニ於ケル稅率左ノ如シ 稅額「チエル」ニテ示ス 百「チエル」ハ「クローン」ニ「クローン」ハ我五十三錢八厘

種類	數量	稅額	換算	百斤當リ
精製鹽	一〇〇〇 <small>チエル</small>	三三	〇一七七 <small>円</small>	一〇一〇 <small>円</small>
山鹽、石鹽	一〇〇〇	三五	〇二八八	一〇一一
其他食鹽	一〇〇〇	三六	〇一九三	一〇一一

乙、關稅率 數量ハ「リートル」チ基數トス 「チエル」ハ我五斗五升
稅額ハ「チエル」チ基數トス 「チエル」ハ我五厘三毛八 外國鹽一石ハ我二百五十斤

種類	數量	稅額	換算	百斤當リ
精製鹽	一〇〇 <small>リートル</small>	二八 <small>チエル</small>	〇一五〇 <small>円</small>	一〇九 <small>円</small>
山鹽、石鹽	一〇〇	三八	〇二〇四	一四〇
其他食鹽	一〇〇	二八	〇一五〇	一〇九

丙、收入 關稅收入ハ常ニ左記ニケ年間ノ範圍内ニ彷徨セリ「クローン」ヲ基數トス（我五十三錢八厘）

年次	稅額	換算
一八八〇年	二五〇、九六四 <small>クローン</small>	一三五、〇一八 <small>円</small>
一八八八年	四七七、三三五	二五六、八〇〇

(四)

西班牙

面積約三萬三千方里（即日本ノ略一倍ニ）
人口約千八百萬（即日本ノ略五分ノ二）

甲、鹽制ノ沿革

千七百四十九年 寬延二年 當國ニ於テ往々鹽ノ課稅ニ就テ困難ナル方法ヲ以テシタリシカ
此年之ヲ改正シ一部ハ製造又一部ハ販賣ニマデ擴張セル專賣ヲ施行セリ
千八百六十九年 明治二年 此歲ヲ以テ鹽專賣ヲ廢止シ爾來輸入關稅及一二ノ國有製鹽場ヨ
リノ收入ノミヲ取得セリ其輸入稅率左ノ如シ 一「ペセタ」ハ三十八錢七厘

數量	量	稅額	換算	百斤當リ
一〇〇〇 <small>基</small>	三、四分一 <small>ペセタ</small>	一、二五七 <small>円</small>	〇〇七〇 <small>円</small>	

千八百七十四年 明治七年 內國消費稅ノ施行アリ其稅率及移動左ノ如シ

一基ハ二百六十六匁
一「センチム」ハ我三厘八毛

年次	數量	稅額	換算	百斤當リ
一八七四年	一基	一、五 <small>センチム</small>	〇〇五七 <small>円</small>	三、四二七 <small>円</small>
一八七五年	一基	一、六	〇〇三三	一、三八三

其歲入額左ノ如シ 一「ペセタ」ハ我三十八錢七厘

第二 輸入稅ノミヲ以テスル國

歳入額	換算
百万ベセタ 一五、〇〇〇	五八〇五、〇〇〇 円

千八百七十七年 明治十年 ヲ以テ之ヲ改正シ代フルニ百五十萬「ベセタ」(我五八〇、五〇〇圓)ノ租稅ヲ以テシ此定額ヲ鹽製造者ニ配付シ並ニ地方團體ニ賦課セリ而シテ地方團體ニ對スル賦課ノ方法ハ(第一)人口ニ依リテ租稅ノ負擔額ヲ算出シ(一人ニ付一「ベセタ」我三十入錢七厘)(第二)其徵收ノ爲メ地方團體ニ專賣ヲ許可ス

千八百八十一年 明治十四年 ノ法律及千八百八十五年ノ改正ヲ以テ該兩稅ヲ變シ單ニ直接稅トナセリ後又之ヲ改メテ現時ハ唯一ノ關稅ノミヲ施行ス其稅率左ノ如シ

乙、關稅率 千基ノモノヲ「ベセタ」ニテ示ス (我三十八錢七厘)

數量	課稅額	換算	百斤當リ
1000 基	三、四〇分一 乃至三、九〇 ベセタ	円 一、二五七 一、五〇九	円 〇・〇七五 〇・〇九〇

(五) 葡萄牙

面積約五千九百方里 (即日本ノ略九分ノ二)
人口約五百萬 (即日本ノ略九分ノ二)

甲、鹽制

千八百八十六年 明治十九年 當國ハ輸入關稅ト共ニ内國稅ヲ施行シ其最近ノ稅率左表ノ如クニシテ純益殆ンド皆無ナリシカ此歲ヲ以テ之ヲ廢止シ輸入關稅ノミヲ以テセリ

内國稅率 數量「基」ノモノヲ「一基」ハ我二百六十六匁
稅額「リアル」ニテ示ス 「一リアル」ハ我八錢七厘ニモ

數量	稅額	換算	百斤當リ
一基	一リアル	円 〇・〇八七	円 〇・五二四

乙、關稅 (現行) 數量「基」ノモノヲ「一基」ハ我二百六十六匁
稅額「レイス」ニテ示ス 「一レイス」ハ我二厘一毛八

數量	稅額	換算	百斤當リ
一基	一レイス	円 〇・〇一一	円 〇・一三三

(六) 北亞米利加合衆國

面積約五十八萬九千方里 (即日本ノ略二十二倍)
人口約七千六百萬 (即日本ノ略一倍六)

甲、鹽 制 鹽ニ關シテハ現時關稅ノミヲ施行ス
乙、產出鹽ノ種類

- 一、海 鹽 天日製法ニ依リテ採製ス
- 二、地 鹽 同上
- 三、井 鹽 天日製法若クハ煎熬法ニヨル
- 四、岩 鹽 單ニ地中ヨリ採掘ス

丙、鹽ノ產額、價額

當國ハ千八百九十七年 (明治三十年) マテハ鹽ノ產出額英國ノ次位ニアリシモ漸次其額ヲ増加シ
今ヤ英國ヲ凌駕シテ第一位ヲ占メ今後如何ナル點マテ昇ルヤ未タ測知スヘカラズ蓋シ當國ハ地
積廣大ニシテ產鹽ノ好適地ナルニ基因スルナラン其產額及價額左表ノ如シ

年 次	產 額	換 算	價 額	換 算	百斤當リ
一八九三年	一、六六五、六〇五	二、八一八、八六九、二六〇	四、〇五四、六六八	八、一三三、六六三	〇・二八八
一八九四年	一、八一五、四三八	三、〇七三、五三六、五三四	四、七三九、二八五	九、四八五、四〇五	〇・三〇八
一八九五年	一、九一三、七五一	三、三三九、九八〇、四四三	四、四三三、〇八四	八、八七二、七〇六	〇・二七三

數量一噸ヲ基數トス 一噸ハ(千六百九十三斤)
價額弗ヲ基數トス 一弗ハ(二圓〇〇六厘)

一八九六年	一、九三九、一〇三	三、三二二、八九九、五八六	四、〇四〇、八三九	八、一〇五、九二三	〇・二四六
一八九七年	二、三三六、二四八	三、七八五、九七三、八六四	四、九三〇、〇二〇	九、八六九、五六〇	〇・二六〇
一八九八年	二、四六五、七六九	四、二二六、〇八一、九一七	六、二二二、五五四	一、二、四六二、三八三	〇・二九五
一八九九年	二、七五九、二〇六	四、六七一、三三五、七五八	六、八六七、四六七	一、三、七七六、一三八	〇・二九四
一九〇〇年	二、九二一、七〇八	四、九四六、四五一、六四四	六、九四四、六〇三	一、三、九三〇、八七三	〇・二八一

丁、關 稅

イ、稅 率 數量百磅ノモノヲ 一磅ハ我百二十匁
稅額「ドル」ニテ示ス 「ドル」ハ我二圓〇〇六厘

袋入、樽入其他包 袋セル鹽	數 量	稅 額	換 算	百斤當リ
	一〇〇〇	一三	二四・〇七三	三・二〇九

ロ、免 稅 鹽ヲ指定スル目的ノ爲メニ使用シタル證明ヲ差出ストキハ關稅ヲ下戻スモノトス
其條件左ノ如シ

- 一、鹽ノ種類 合衆國へ輸入スルコト
- 二、用 途 輸出ノ束製又ハ燻製ノ魚類ニ使用スルコト
- 三、金 額 千弗以上ニ限ル

戊、輸出輸入鹽 二百八十封度入ノ一樽ヲ基數トス一封度ハ我百十匁一樽ハ二百十斤ニ當ル

第二輸入稅ノミヲ以テスル國

年次	輸出	換算	輸入	換算
一八九五年	三六、八五五 <small>樽</small>	七、七三九、五五〇 <small>斤</small>	一、九九六、九七〇 <small>樽</small>	四一九三六三、七〇〇 <small>斤</small>
一八九六年	六三、三九一	一三、三二二、一一〇	一、八五八、六一四	三九〇、三〇八、九四〇
一八九七年	五四、一九五	一、一三八〇、九五〇	一、四九三、〇三三	三一一三、五三六、九三〇
一八九八年	六一、七二五	一、二、九六〇、一五〇	一、三三五、二二二	二七八、二九四、五二〇
一八九九年	九〇、〇〇〇	一八、九〇〇、〇〇〇	一、三五〇、三六六	二八三、五七六、八六〇
一九〇〇年	五三、六五〇	一、一、二六六、五〇〇	一、四二七、九二一	二九九八六三、四一〇

(七) 加奈陀

甲、關稅率

數量「百磅」モノヲ「一磅」ハ我百二十匁
稅額「セント」ニテ示ス

	數量	稅額	換算	百斤當リ
粗製鹽	100 <small>磅</small>	10 <small>セント</small>	0.1000 <small>円</small>	0.1000 <small>円</small>
精鹽	100	15 <small>セント</small> (無包裝) 15 <small>セント</small> (包裝)	0.1500 0.1100	0.1500 0.1100

乙、免稅 關稅ハ左ノモノニ付キテハ免除ス

- 1 合衆國又ハ英國領ヨリ輸入スルモノ
- 2 外海或ハ海灣漁獵用ノ爲メ輸入スルモノ

(八) ニューファウンド

關稅率 數量一噸ノモノヲ一噸ハ我約千六百六十七斤
稅額一弗ニテ示ス

數	量	種	類	換	算	百	斤	當	リ
	一噸		弗		日				日
			0.10		C.F.C.I.				0.10

(九) 秘魯

面積約十一萬七千方里 即日本ノ略四倍
人口約四百六十萬 即日本ノ略十分ノ一

關稅率

- 一、價額ノ四十「ヘルセント」
- 二、又ハ鹽ノ種類ニヨリ異ナル左ノ如シ 「セントウチ」ハ四「ペンニー」ニシテ(我一錢九厘二毛)

種	類	數	量	稅	額	換	算	百	斤	當	リ
粉	粒製鹽(總量)		一		セントウチ		日			日	1.15
製	鹽						九六				5.70

第三 何等ノ租税ヲ賦課セサル國

(一) 英吉利 面積約二萬方里 人口約三千八百萬 (即日本ノ零七分ノ五)

甲、鹽制ノ沿革

千六百四十四年 正保元年 前ノ頃ニハ鹽稅ノ徵收ヲナシタリシガ後之ヲ廢止シ
 千六百九十四年 元禄七年 前 ウイルヘルム三世ノ治下ニ於テ再ヒ之カ施行ヲナセリ其稅額
 及移動左ノ如シ 數量「アスセル」「シルリング」「アスヘル」「我六貫八百七十二匁
 稅額「シルリング」ハ我四十八錢八厘一毛

年次	數量	稅額	換算	百斤當リ
一六九四年前	アスセル	シルリング	〇四八八	一・一三六
一六九四年後	-	三	一四六四	三・四〇八
一六九九年	-	三四	一六五二	三・八四四

千七百二十九年 享保十四年 之ヲ廢止ス
 千七百七十五年 安永四年 即チ十八世紀ノ終リ亞米利加獨立戰爭ノ間五「シルリング」(我
 二圓四十四錢)ノ租税ヲ以テシ爾後稅額ノ増減ヲ行ヘリ

數量「アスセル」ハ我六貫八百七十二匁
 稅額「シルリング」ニテ示ス 「シルリング」ハ我四十八錢八厘一毛

第三 何等ノ租税ヲ賦課セサル國

年次	數量	稅額	換算	百斤當り
一七七五年	一、四五七	五、二四〇	四、八八〇	五、六八〇
一七九八年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、一三六〇
一八〇五年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、七〇四〇
一八二二年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、二七〇

千八百二十五年 文政八年 前表示セル高額課稅ノ結果ハ密賣横行ヲ來タシ遂ニ北西大英國及
 去今八〇年前
 アイランド一部ノ主要ナル養料魚タル捕魚ヲ壓制シ其後大ニ減稅ヲ行ヒ遂ニ此歲ヲ以テ全
 ク廢止セリ

乙、產出鹽ノ種類 當國ニ產出スル鹽ノ種類ハ左ノ二種トス

一、岩鹽 地中ヨリ採掘スルモノ
 二、井鹽 地中ヨリ湧出スル鹽液ヲ煎熬シテ採收ス
 往古海水ヲ煎熬シテ以テ鹽ヲ收得シタル事實アリシモ其製費ハ多額ニシテ且ツ他ニ採鹽方法
 ノ極メテ簡單ナル岩鹽及井鹽ノ採收隆盛ナルニ至リタルヲ以テ競争ノ結果採收ノ業ハ終ニ廢
 滅シテ近時其跡ヲ絶ツニ至レリ

丙、產出額 當國ニ於ケル產出鹽ノ内井鹽ハ其九割ヲ占メ岩鹽ハ僅カニ一割ニ過キス井鹽ハ純白

良質ナルモ岩鹽ハ色澤純白ナラズ赤褐色ヲ帶フルヲ以テ食料ニ供セス主トシテ工業用肥料用ニ
 供スルニ過キス

產出額、價額 (北米合衆國地質調査所) 一噸ハ我千六百九十三斤
 (刊行ノ報告ニヨルモノ) 一磅ハ我九圓七十錢六厘

年次	煎熬井鹽		岩鹽		合計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一八九七年	一、七二二、四一〇	五、八五二、〇四〇	一、八二〇、七七八	三、五、六九〇、八四〇	一、九〇三、四九三	六、〇〇、八八八
一八九八年	一、九一四、三三三	五、七三三、三三六	一、八二二、七五五	三、四、八四八、〇四〇	一、八七三、六六五	六、〇〇、一一五
一八九九年	一、六九五、八九五	五、八七五、七五五	一、八二二、七五五	三、三、五、四五六	一、八〇、五七九、八四五	六、〇五、四一八
一九〇〇年	一、七〇一、四八七	五、八六一、七四一	一、七九、〇一〇	二、六、四一〇	一、八六一、三四七	六、一、二、四〇五

丁、輸出額 英國ハ產鹽力ニ富ミ價額ノ低廉ナルヲ以テ海外ニ輸出セラル、モノ實ニ夥シク從來
 我國ニ輸入シ來ル所ノ外鹽ハ英國鹽其多額ヲ占ム今英國ヨリ海外ニ輸出スル主要ナルモノ左ノ
 如シ

一、輸出鹽ノ仕向地 一噸ハ我千六百九十三斤
 一磅ハ我九圓七十錢六厘

國名	一八九七年		一八九八年		一八九九年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東印度	一、九三〇、八四〇	二、六二二、〇八〇	二、九九、四四三	三、七、七六三	二、六一、三九一	二、八七、一五五
	三、二六、八九一	二、五、〇、九一三	五、〇、九五六、九九九	三、六、九七、八六三	四、四、一、五三、四、九六三	二、八〇、二、八六四

第三 何等ノ租稅ヲ賦課セサル國

北米合衆國	一五七、〇四七	一〇一、八八三	八八、四〇三	七七、六〇六	七七、九〇一	九、〇七八
露西亞	二六五、八八〇、五七一	九九四、六八三	一四九、六六六、二七九	七五七、六六七	一三二、八八六、三九三	七八三、七五四
瑞典及諾威	八、一六一	三、九五二	一五、〇八四	七、〇八八	一、〇〇四	六、一七六
丁抹	一三二、四〇三	一三、五九〇	二二、三八四	二〇、三三三、七七二	二、三三三、七七二	一三、七〇一
獨逸	六、一三三、三一一	一五、四八一	三三、九〇三	一、九四三、〇	三、九三三、四八〇	一三三、七六一
和蘭	二〇、五六八	一一、〇八五	一六、九一六	八、五一四	一九、四二二	一、二八一、三
白耳義	三三、五一一	一七、四五六	二八、四五六	五、三九五	一五、六六五	四、六六二
西部亞非利加沿岸	五七、七三三	一七、〇四三	四八、一七九、三九四	一三、二五一	二六、五二〇、八四〇	一、二七三、二
英領南部亞非利加	六三、四一、九〇二	四三、〇三三	七〇、三九七、七〇三	四、五二七、五	四二、〇六一	四八、三九〇
英領北米	八六、三二四	八六、二〇四	一〇、一六七	八、八九〇	七、二〇九、二七三	七、五四九
濠州	五七、五二九、八三三	三三、二三〇	三六、五三三	八七、六七二	一三、三四九、三〇五	七、三〇〇
英領西印度	二二、五二六、三三七	四四、六九〇	六六、五九九	四四、七八四	六三、〇五九	三三、三四〇
外國領西印度	六、七二一	六、八一九	九、七四三、二一五	六〇、八六二	一〇、七二五、一五五	六、二五七
智利	七、八五五	八二〇	四〇九、七〇六	三、三三八	八、三六〇、〇三四	四、八七一
合計	一、三二九、八五五	五、六四〇	一、二八四、九八七	八、二九八	一、三六二、八六五	五、七一一

伯拉西爾	七、四二五	六、一九七	七、四九七	五、八〇七	一一、〇一五	九、〇七八
他諸國	二、一九九、二七五	六〇、五二五	一一、六九二、四二二	五、六三六、二七二	二〇、四二四、四六五	八、六二八
合計	五、二四七	八、四三〇	七、〇〇五	一〇、〇五五	八、三〇六	一一、一六八
伯拉西爾	八六、二〇、八二二	八、三三〇	一一、八五九、四六五	九八、一六六	一四、〇六二、〇五八	一〇、九〇三
他諸國	六六、一、九二二	六三、一三三、三八	六九、六四八、一	六八、四一〇、三	六五、四、五五二	五九、一、四九九
合計	一二、二〇、六三三、九四六	六六、三、六五五、二一七	一、二一、二、三三三	六六、七、八、八九七	一、二〇、八、〇七三、五七九	五、七七、七、八〇四

二、東印度、北米合衆國ニ輸出スルモノト其他ノ邦國ニ輸出スルモノトノ比較 數量噸ヲ基數トス 價額磅ヲ基數トス

年次	東印度		北米合衆國		其他諸國	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一八九六年	二六二、五二八噸	二八九、一四九磅	一六四、九九〇噸	一一〇、五五九磅	三四四、六三七噸	二五〇、三四七磅
一八九七年	四三九、四三七噸	二、八二一、九六一磅	二七八、八二〇、七〇噸	一〇七、九、三八七磅	五八三、四七〇、四四一噸	二、四四四、一三七磅
一八九八年	一九三、〇八四噸	二六二、三〇八磅	一五七、〇四七噸	一〇一、八八三磅	三一一、七七一噸	二六七、一三七磅
一八九九年	三三二、八九一、三四二噸	二、五三〇、九一三磅	二六五、八八〇、五七一噸	九四四、六八三磅	五二七、八六二、一六三噸	二、六〇八、五五八磅
一九〇〇年	二九九、四四三噸	三七八、七六三磅	八八、四〇三噸	七七、六〇六磅	三〇八、六三五噸	二二七、七三四磅
一九〇〇年	五〇六、九五六、九九九噸	三、六九七、八六三磅	一四九、六六六、二七九噸	七七、七、九〇一磅	五三三、五一九、〇五五噸	二、三三三、三六七磅
一九〇〇年	二六、一、三九一噸	二八七、一五五磅	七、九〇一噸	八〇、二七八磅	三、一五二、一一一噸	二、二四、〇六六磅
一九〇〇年	四四二、五三三、九六三噸	二、八〇三、四九四磅	一三二、八八六、三九三噸	七八三、七五四磅	五三三、六五二、二二三噸	二、一八七、五五六磅
一九〇〇年	四一七、二二二、〇七八噸	二、四六〇、三五四磅	一四七、四六八、七六五噸	八七、一〇五磅	七八九、八六四噸	—

備考 前表ニヨレバ英國ヨリ東印度ニ輸出スルモノ毎每年二百四十五萬圓北米合衆國ニ輸出スルモノ約百萬圓ノ多キニ達セリ英國ノ東洋ニ向ヒテ開キタル鹽ノ販路ハ實ニ大ナリト謂フヘキナリ

成、消費額 「ベースヘル」ハ我六貫八百七十二匁

第三 何等ノ租稅ヲ賦課セサル國

年次	數量	換算
最近課税時代 一八二〇年 一七〇年	二〇〇、 万バスケル	八五、九〇〇、〇〇〇 斤
課税廢止後ノ時代 一八二七年 一八二四年	一〇三〇、	四四二、三八五、〇〇〇

課税時代ト無税時代トハ消費額ニ於テ五倍ノ増加ヲナセリ
租税廢止後ハ海漁獵大ニ盛大トナレリト云フ
已、收入 鹽稅徵收時代ニ於ケル收入左ノ如シ

年次	金額	換算
一八〇五年	一五〇、 万	一四、六四四、五〇〇 円
一八二五年 (課税廢止ノ年)	一七八	一七、三七八、一四〇

(二) 白耳義

面積約一千九百方里 (即日本ノ畧十四分ノ一)
人口約六百七十萬 (即日本ノ畧六分ノ一)

甲、鹽制

千八百七十年 當國ハ爾來鹽ニ關シテハ課税制度ヲ採用シ來リシガ此歲ヲ以テスヘテ廢止ス
乙、課税時代ニ於ケル稅率

稅目	數量	稅額	換算	百斤當リ
本稅	一〇〇〇 基	一、二八六 フラン	四、九七六	〇・二九八
附加稅	—	本稅ノ二五「ペルセント」	—	—
計	一〇〇〇	一、二八六	四、九七六	〇・二九八

丙、收入 課税時代ニ於ケル租稅收入左ノ如シ

一、内國稅 百萬フラン「ヲ」基數トス 二「フラン」ハ我三十八錢七厘

年次	稅額	換算
一八三五年	三、五八 百萬フラン	一、三八五、四六〇 円
一八四〇年	四、二八	一、六五六、一六〇
一八四八年	五、八〇	一、八五七、六〇〇

一八五〇年	四、四二	一、七〇、五四〇
一八六〇年	五、一六	一、九九六、九二〇
一八七〇年	五、〇二	一、九四二、七四〇

二、關稅 百萬「フラン」ヲ基數トス 「一」フラン「ハ我三十八錢七厘

年次	粗製鹽		精製鹽		合計
	稅額	換算	稅額	換算	
一八八五年	一、六 <small>百萬フラン</small>	六、九二〇 <small>円</small>	一、七 <small>百萬フラン</small>	六、五七九〇〇 <small>円</small>	三、三 <small>百萬フラン</small>
一八八九年	二、三	八、九〇、一〇〇	一、六	六、一九、二〇〇	三、九
					一、五〇九、三〇〇

第四 專賣制度國

(一) 奧地利匈牙利

面積約四萬五千方里 (即日本ノ略一倍半)
人口約四百四十萬 (即日本ノ略九八)

古來當國ハ鹽ヲ産シ其產出額頗ル夥シク實ニ無盡ノ狀況ヲ呈シ世界鹽産國ノ一ニシテ販賣專賣ヲ混同シタル製造專賣ヲ行フ即チ當國ニ於テハ天然ニ產出スル一切ノ食鹽ハ皆之ヲ政府ノ有トシ政府ニアラサレバ之ヲ採掘スルヲ得ズ之ニ反シ海鹽ノ生産ハ之ヲ私人ノ企業ニ委ネテ其生産額ヲ制限ス而シテ其製鹽ハ悉ク之ヲ官ノ倉庫ニ移入セシメ以テ各地ノ官鹽庫ヨリ販賣スルモノトス

甲、鹽制ノ沿革

千八百二十九年 文政十二年 去今七十六年前 爾來當國ハ製造及小賣ヲモ包含シタル販賣ノ專賣ヲ施行シ來リシガ此歳ヲ以テ全國内スヘテノ鹽ノ販賣ノミヲ免除ス

千八百三十五年 天保六年 去今七十年前 關稅法及專賣法ニ依リスヘテノ食鹽ヲ國家專有財産トシ制規ノ下ニ製造輸入ヲナサシメ其全生産ハ之ヲ國有倉庫ニ有償ニ納附スヘキモノトナシ輸入鹽ニ付テハ關稅ノ徵收ヲナセリ其販賣價額及關稅額左ノ如シ

販賣價額 政府賣下ノ價額ハ塊、匈兩政府ノ同意スル所ニヨリ販賣費用ヲ加算シテ之ヲ定メ塊ヨリ匈ニ匈ヨリ塊ニ移送スル運賃ハ之ヲ加ヘサルモ各地ノ生産費相異ナルガ故ニ各地ノ販賣價額ハ全ク均一ナルヲ得ズ即チ左表ノ如シ

數量一「キログラム」ヲ基數トス (我二百六十六匁)
價額一「フロリン」ヲ基數トス (我八十一錢四厘)

地方名	數量	價額	換算	百斤當り
ダルマチーン	一〇〇 ^キ	三九八 ^{フラン}	三二四〇 ^円	二五四 ^円
北ペラエーメン	一〇〇	一一四〇	八・九八七	五・三九二
一般平均價額	一〇〇	七〇〇乃至一〇〇〇	五・六九八	三・四一七
			八・一四〇	四・九〇〇

關稅 輸入ハ之ヲ禁スルモ需要者自身ノ使用及消費ニ限り左ノ税金及免許料ヲ納付セシメテ之ヲ許可セリ
數量「キログラム」ヲ基數トス (我二百六十六匁)
 稅額「フロリン」ヲ基數トス (我八十一錢四厘)

關稅	數量	稅額	換算	百斤當り
關稅	一〇〇 ^キ	フラン 〇八匁	〇六八四 ^円	〇四一〇 ^円
免許料			フラン 〇九三匁	七・六三五

千八百五十一年 嘉永四年 去今五十年前 家畜鹽、工業鹽ノ價額低減ヲ行ヘリ其特別交付價額左ノ如シ

種類	數量	價額	換算	百斤當り
工業用鹽	一〇〇 ^キ	フラン 〇三八乃至一七九	四 〇三九乃至一四一六	〇二三乃至〇八七
肥料用鹽	一〇〇	〇三四	〇二七六	〇一六乃至〇四八
家畜用鹽	一〇〇	五〇〇	—	—

家畜用鹽 ハ政府ノ貯鹽所ニ於テ變性作用(二分ノ一ノ酸化鐵四分ノ一ノウエルムトフルベルトヲ混和ス)ヲ行ヒ一年總額五百噸(我八十四萬六千七百〇六斤)以內ニ限リ上ニ示シシ表價ニヨリ農業及政府ノ認可セル一定ノ自治組合ニ販賣ス

肥料用鹽 ハ二割ノ食用鹽ト八割ノ他ノ原料トヨリ成レルモノニシテ上ニ示シ、表ノ最高價額ニテ販賣ス屑鹽及ヒ鹽渣ハ左表ノ最低額若クハ「フロリン」ノ一定ノ條件ヲ以テ他主ニ販賣ス

工業用鹽 ハ其變性作用ヲ行ヒテ著シキ減價若ハ無價ニテ工業者ニ販賣ス若シ外國ヨリ輸入セル鹽ナルトキハ先ノ關稅及ヒ免許料ヲモ之ヲ免ス

特別鹽 舊來ノ特權、條約又ハ他ノ住民、官鹽賣下所ノ職員タル個人又ハ寺院、公益法人、慈惠院等ニ對シ輕減價額ニテ又ハ無償若ハ僅少ノ代金ニテ販賣ス

千八百六十八年 明治元年 家畜鹽ニ對スル價額低減ノ恩典ハ爾來之ニ起因セル濫用ノ爲メ廢止ス

乙、產出鹽ノ種類 當國ヨリ產出スル鹽ノ種類ヲ舉クレバ左ノ如シ

- 一、岩鹽 地中ヨリ採掘ス
- 二、前熬井鹽 地中ノ水液ニ溶解シタル岩鹽ヲ煎煮シテ採收ス
- 三、海鹽 天日製法ニ依リ海水ヨリ製出ス

丙、產出額 本表ハ各種ノ鹽ノ產出額及ヒ其價額ヲ示セルモノニシテ其價額ハ當國ニ於ケル政府

事業ノ専賣價額ヲ示セルモノナリ

數量「メートルセント子ル」ヲ基數トス (我二十六貫六百六十六匁四)

六十六

年次	岩鹽	煎熬鹽	海鹽	工業鹽	合計	價額	百斤當リ
一八九七年	四、五〇五、三三〇 七五、〇八四、七九三	一、八五三、三二五 二、一四三、六八六	四、七九〇、七七七 七九、八四四、一七一	六、三五六、八八〇 一〇五、九四四、〇一八	三、四二〇、五九二 一〇五、七〇〇、八四一	二六、五一九、四九七 二一、五八六、八七〇	三、七九六
一八九八年	四、五三三、七〇四 七五、四四九、六一九	一、七三〇、六八六 一、七三〇、六八六	四、五三三、六一七 七五、六〇一、二七九	六、七三三、八二八 一〇五、五五五、七九三	三、三〇〇、八四三 一〇五、七九三、二〇四	二五、六四〇、〇九〇 二〇、八七一、〇三二	三、七八二

ニ、販賣額 數量「メートルセント子ル」ヲ基數トス (我二十六貫六百六十六匁四)

年次	内國販賣	外國販賣	合計
一八四七年	一、三九三、八〇七 二、三三三、二九五	四、九一三、二八五 一、五三三、九八	一、八八五、二九九 三、四、二九八、六四四
一八九七年	三、二八三、七七五 五、四七、二八二	二、五九六、二六九 五、四九、八四八	三、二九九、一七三 五、四九、八四八

丁、消費額 數量「クイントル」ニテ示ス (我二十六貫六百六十六匁四分)

一人當ノ消費 數量「基ヲ基數トス」 (我二百六十六匁)

國名	數量	換算
英國	一、三〇〇	二二、〇九八
他國	九七二	一六、〇三五

千八百九十七年度	數量	換算	價額	換算
食料用鹽	二、二七九、九三三	三七九、九七七	二二、一〇〇、八三二	一七、一七六、〇七六
牧畜用鹽	一、四〇、七六九	二二、四六〇	七〇三、八四八	五七二、九三一
工業用鹽	八四一、八六七	一四〇、三〇七	二七五、五九四	二二四、三三三
牧畜工業用鹽	四、八〇六	八〇〇、九七八	七、四四六	六、〇六一
肥料用鹽	四、五〇八	七、五一三	三九、五九三	三三、二二八
合計	三、三三二、四四八	五五三、〇六〇	二二、二七三、二二二	一八、〇一一、六三一

戊、販賣價額 (政府専賣價額ヲ示ス)

一、煎熬鹽價額 數量「キログラム」ニテ示ス (「基」ハ我二百六十六匁ニ當ル)

地方名	千八百四十七年	千八百九十七年
エーベンゼー	百斤當リ	百斤當リ
イシル、ハルコタット	百斤當リ	百斤當リ
ハルライオン	百斤當リ	百斤當リ
ハル	百斤當リ	百斤當リ

地方名	千八百四十七年		千八百九十七年	
	白色鹽	牧畜鹽	白色鹽	牧畜鹽
アラウスゼイ	11,255	9,157	5,516	9,510
二 海鹽價額	數量百キログラムノモノナ 價額「フロリン」ニテ示ス		「基」ハ我二百六十六匁 「フロリン」ハ我八十一錢四厘	
ピラノ	5,423	3,923	4,609	3,750
カポドイストリヤ	1,106	710	965	712
トリエスト	5,423	3,923	4,609	3,750
ボロスカ	1,106	710	965	712
ダルマシヤ	4,238	3,198	3,530	2,808
三 岩鹽價額	數量百基ノモノナ 價額「フロリン」ニテ示ス		「基」ハ我二百六十六匁 「フロリン」ハ我八十一錢四厘	
市場事項	千八百四十七年	百斤當リ	千八百九十七年	百斤當リ
ウ井ーリクツカ	8,595	5,177	8,100	4,903
已、輸出、輸入鹽	數量ハ「クインタル」ヲ基數トス 價額ハ「フロリン」ヲ基數トス (我二十六匁六百六十六匁四)		數量ハ「クインタル」ヲ基數トス 價額ハ「フロリン」ヲ基數トス (我八十一錢四厘)	

備考 輸入鹽ノ價額ト輸出鹽ノ價額トハ甚シキ高低ノ差アルハ輸入鹽ハ極粗製ノモノニシテ之ヲ精製シ政府專賣ノ利益ヲ加ヘタル上之ヲ輸出スルニヨリ斯ル差等ヲ生スルモノナルヘシ

庚、收支計算

年別事項	收入	費用	純益	人口一人ノ負擔
一八八九年	1,682,538.00	2,352,460.00	1,779.00	17,790
一八九〇年	1,673,628.00	2,450,140.00	1,740.00	17,400
一八九一年	1,689,050.00	2,539,680.00	1,763.00	17,630
一八九四年	1,802,382.00	2,539,680.00	1,811.00	18,110
二 匈牙利	一萬「フロリン」ヲ基數トス「フロリン」ハ我八十一錢四厘			

年別事項	收入	換算	純益	人口一人ノ負擔
一八八〇年	1,401	11,400.00	1	1

一八九〇年	一五、四六	一一、五八四、四四〇	
一八九一年	一四、九五	一一、七三三、八〇〇	
一八九四年	一五、六三	一二、七二二、八二〇	一、〇一三、五五三 （百万）

三 塊、匈國全体ニ於ケル收入 一萬「フロリン」ヲ基数トス

年別事項	純收入	換算
一八四六年	二五、五〇	二〇、七五七、〇〇〇 （百万）
一八五六年	三一、四〇	二五、五五九、六〇〇

(二) 伊太利

面積約一萬八千方里 (即日本ノ略三分ノ二)
人口約三千萬 (即日本ノ略三分ノ二)

當國ハ南歐三大半島ノ一タル以太利半島ヲ占ムル邦土ナルヲ以テ本土海岸線ハ八百餘里從ツテ鹽産力ニ富ム古來當國ノ鹽業ハ政府ノ專賣事業トシテ實ニ歲入ノ一大財源タリ只本土以外ニ在ルシ、リ、島及ヒサルヂニヤ島ハ人民ノ企業ニ委ネ專賣以外ニ置ケリ然レトモ二地方モ亦大ニ鹽産力ニ富ミ其地ノ産出鹽ハ土地ノ需用ニ供シ尙ホ剩餘アルガ故ニ外國ニ向ヒテ輸出ヲナセリ其額左ノ如シ(一噸我二百七十貫九百四十六匁、千六百九十三斤〇六六匁)

年次	事項	數量	換算
一八九六年		一七一、四七二	二九〇、三七一、一三四 （斤）
一八九七年		一七六、五二二	二九八、九二四、五六二

甲、鹽制ノ沿革

千八百六十五年 慶應元年 鹽專賣ニ關スル法律ノ發布アリシモ國民一致ノ時代前大陸ニ於テ

已ニ鹽專賣ノ成立ヲナセリ

千八百八十五年 明治十八年 鹽價ハ從前ハ堪フヘカラサルノ高價ニシテ獨逸ニ於ケルヨリモ高價ナルコト殆ンド二倍ナリシガ此歲左ノ低減ヲナセリ而シテ其結果ハ千六百萬リラ (我六百十九萬二千圓)ノ收入ヲ減セリ (一「リラ」ハ(我三十八錢七厘))

一、從前價額 數量「キログラム」ノ量ヲ (我二百六十六匁) 價額「セントム」ニテ示ス (我三厘八毛)

種類	事項	項	數	量	價	額	百斤當り
普通	鹽	鹽		キログラム	1.000	55.000	11.257
				セリチム	1.000	76.000	17.371
精	鹽	鹽		1.000	0.288		

二、低減價額 (全上)

種類	事項	項	數	量	價	額	百斤當り
食	鹽	鹽		キログラム	1.000	20.000	4.571
				セリチム	1.000	0.076	

千八百八十七年 明治二十年 此歲更ニ鹽專賣ニ關スル法律ノ發布アリ當時國家ハ十ヶ所ノ製鹽所及鹽田ヲ所有シ其内五ヶ所ハ個人ノ賃貸ニ附セリ

千八百八十八年 明治二十一年 粉末鹽(食卓鹽)及板鹽ヲ再ヒ高價ナラシメ收入ニ於テ四百萬「リ

ラ(我百五十四萬八千圓)ノ増加ヲ來セリ
 千八百九十五年 明治二十八年 通常鹽ノ價額ヲモ引上ク此歲ノ法律ニヨル現行制度ノ專賣ハ小賣專賣ヲモ包含スルモノニシテ其方法ハ十個所ノ製鹽所中六ヶ所ハ國家ノ企業ニ屬シ四ヶ所ハ年々一定ノ分量ヲ國內ノ需用ニ供スルノ義務ヲ付シテ私人ノ企業ヲ許セルモノナリ輸入鹽及國內鹽ノ賣捌權ハ國家之ヲ掌握シ國家ノ命シタル商人ニ限り賣捌手數料(一基ニ付一「センチム」五我百斤ニ付二十二錢八厘)ヲ與ヘテ小賣ヲ行ハシム其價額ハ從前ニ同シ

乙、產出鹽ノ種類

- 一、海鹽 天日製法ニ依リ海水ヨリ製出ス
- 二、岩鹽 地中ヨリ採掘ス
- 三、煎熬鹽 地中ノ鹽液ヲ煎煮シテ採收ス

丙、鹽ノ產出額

種類	事項	項	製造場數	產額	價額	百斤當り	製造場數	產額	價額	百斤當り
岩	煎熬鹽	鹽	1	19,497	284,864	0.333	1	19,801	272,018	0.313
			3,101	16,463	110,244	0.353	3,531	26,601	105,270	0.313
海	鹽	鹽	1	19,179,589	289,304	0.583	1	19,855,261	315,500	0.614
			4,021	51,541,511	911	19,855,261	315,500	4,292,534	418,187	0.334
合計			7,339,947	3,061,828	100	7,802,888	3,187,206			

備考 原價ヲ示セルモノニシテ市場價額ニアラズ
 二 岩鹽ノ產出額 數量「トン」ヲ基數トス (我二百七十貫九四六匁)
 價格「リヤ」ニテ示ス (我三十八錢七厘)

市場	事項	項	鹽坑數	產出額	價額	百斤當り
カルタニセッター州	鹽	坑	6	3,000	21,000	0.157
カルタニセッター市	鹽	坑	6	5,080,337	81,274	0.157

市場事項	鹽坑數	產出額	價額	百斤當り
アルタニヤ市	三	七〇〇	七〇〇	〇・三三八
ギルゲンチー市	一五	一、八五三、三八八	四九、〇〇〇	〇・一五九
パレルモ市	一	六〇〇	一八、九六三	〇・三三八
カラブリア州	一	一〇、一六〇、四七五	一七、七二〇	〇・一七九
ルンダグロ市	一	六〇〇	六八、五四五	〇・一七九
合計	二六	一七、三〇〇	二六、〇二〇	〇・三三三

備考 原價ヲ示セルモノニシテ市場價額ニアラズ

三 海鹽ノ產出額

イ、產地別 數量(噸)ヲ基数トス (我二百七十貫九四六匁) 價額(リラ)ヲ基数トス (我三十八錢七厘)

地名事項	鹽田數	產額	價額	百斤當り
ラベンナ地方	二	一七、一一五	二五、三三三	〇・三三五
シラクサ地方	一八	二八九八二、七五五	九七、二六二	〇・三三〇
トラパニー地方	三九	一九、七〇〇	一〇三、四二五	〇・三三〇
カグリヤリ地方	八	三三、三六〇、二二六	四〇〇、二二五	〇・三三〇
合計	七二	一四〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	〇・一七一

種別事項	產額	價額	百斤當り	
ローマ地方	一	五、九七九	七〇、七四二	〇・三三三
ピセンザ地方	二	一〇、二四、九一三	二七、三三七	〇・三三〇
ネーブル地方	一	二五、六一六	三四八、五〇三	〇・三三〇
フキレンツエ地方	一	四三、三七八、四五四	一三四、八七〇	〇・三三〇
合計	七二	三八、〇四八	一五二、四四六	〇・三三〇

備考 原價ヲ示セルモノニシテ市場價額ニアラズ
ロ、種類別 數量(噸)ヲ基数トス (我二百七十貫九四六匁) 價額(リラ)ヲ基数トス (我三十八錢七厘)

種別事項	產額	價額	百斤當り
普通鹽	三三八、五八六	三、七六五、三八五	〇・三三一
粉砕鹽	五七三、三六五、七六四	一、四五七、二〇三	〇・三三一
牧畜用鹽	五、一九三	一一七、七五七	〇・五二八
氷凍用鹽	八、七九三、八九一	四五、五七二	〇・四八三
工業用鹽	二、五六九	五四、四九四	〇・四八三
合計	一、三三九	二、一〇八九	〇・三三八

丁、販賣額 數量「一萬」基ヲ基数トシテ示ス 一「基」ハ(我二百六十六匁)

數	千八百七十七年	漸次增加現時
量	一五五、〇〇万	一八〇、〇〇万
	二五八、三二六、八七五	二九九、九二五、〇〇〇

戊、販賣價額 前諸表ニ示シタル岩鹽、煎熬鹽及ヒ海鹽ノ其原價ヲ示シ、モノニシテ市場價額ニアラズ市場ノ價額ハ政府所管ノ專賣價額ニシテ政府ハ鹽ノ種類ニ依リ價ニ等級ヲ附シ鹽商ニ賣下ケテ販賣セシム

一 一般販賣價額 數量「一基」ノモノヲ「一リラ」ハ(我二百六十六匁) 價額「リラ」ニテ示ス 一「リラ」ハ(我三十八錢七厘)

種類	數量	受賣		公衆
		一八八五年	現	
普通鹽	一、〇〇〇	一八八五年	現	一八八五年
粉未鹽	一、〇〇〇	一、〇二〇	一、〇六八	一、〇六八
包入鹽	一、〇〇〇	一、七三〇	一、七三〇	一、七三〇

二 特別減價價額 數量「一基」ノモノヲ「一リラ」ハ(我二百六十六匁) 價額「リラ」ニテ示ス 一「リラ」ハ(我三十八錢七厘)

工業用途	數量	價額	換算	百斤當リ
工業用途	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四六四四	〇・二七八

農業	魚類鹽漬用	製氷用	曹達製造用
農業	一、〇〇〇	一、〇〇〇	費用額ニテ
魚類鹽漬用	一、〇〇〇	一、〇〇〇	費用額ニテ
製氷用	一、〇〇〇	一、〇〇〇	費用額ニテ
曹達製造用	一、〇〇〇	一、〇〇〇	費用額ニテ

己、消費額 數量「一キログラム」ヲ基数トス (我二百六十六匁) 金額「リラ」ヲ基数トス (我三十八錢七厘)

年	人口一人消費ノ數量	人口一人費用額	人口一人ニ付專賣及ヒ關稅負擔
一八七八年	六、三六	一、〇〇九	〇・四一七
一八八三年	六、五四	一、〇一三	〇・四一七
一八八八年	七、〇二	一、〇一七	〇・四一七
一八九三年	七、一三	一、〇二一	〇・四一七

庚、收支計算 一「萬」リラヲ基数トス 二「リラ」ハ(我三十八錢七厘)

年	號	事	項	收	入	費	用	純	益
一八七一年				八六、〇〇	一				八五、〇〇
一八八四年				三三、二八二、〇〇〇	三三、二八二、〇〇〇				七三、〇〇

年次	收入	費用	純益
一八八五年	八六、〇〇		七三〇〇〇
一八八六年	三三、二八二、〇〇〇		二八、二五一、〇〇〇
一八八七年			四七、六〇
一八八八年			一八、四二二、二〇〇
一八八九年	六二、九〇		四七、六〇
一八九〇年	二四、三四二、三〇〇	百カリテ 一、三三二	五二、三〇
一八九一年	二四、三四二、三〇〇	四、三八〇、八四〇	二〇、二四〇、一〇〇

(三)

瑞西

面積約二千六百里 (即日本ノ略十分ノ一)
人口約二百九十三萬 (即日本ノ略十六分ノ一)

二十二州ノ聯合ニヨル共和國ニシテ鹽制ニ關シテハ諸州共ニ販賣ノ專賣ヲ施行ス

甲、鹽制ノ沿革 當國ハ現時各州共ニ皆政府ノ手ニ於テ鹽ノ販賣獨占ヲ行フ然レトモ各州專賣實

施ノ年度ハ同一ナラズ

チユーリヒハ千四百八十三年 文明十五年
去今四一四年前

ベルンハ千四百八十六年 文明十八年
去今四一七年前

其他ノ諸州ハ十七世紀十八世紀及十九世紀ニ實施シ

ツীগ及ヒグラウビュンデンニ於テ十九世紀ノ始ニ實施セリ

千八百八十九年 明治十六年 瑞西政府ハ五ヶ所ノ私立製鹽會社ヲ買收シ以テ專賣トナセリ

乙、產出鹽

從前鹽ハ他國ヨリ購入セラレ此カ爲メ供給條約ノ締結セラル、アリ然ルニ一二鹽床ノ發見後現
今總消費高ノ五分ノ四ハ自國生産ニシテ五分ノ一ハ輸入ニ依テ供給セラル、ナリ

丙、鹽價 數量ニ基テモノナ (我二百六十六カ)
價額「ラツヘン」ニテ示ス 百「ラツヘン」ハ百「參」ニ當ル「參」ハ(我三厘八毛)

各州	數量	鹽額	換算	百斤當リ
一基		ラツヘン 五乃至 一二	四〇〇一九 〇〇四五	一、四二 二、七〇六

丁、收益 金額「フランク」ヲ基數トス 「フランク」我三十八錢七厘

年次	全州總純益	人口一人ニ對スル純益
一八五六年	三百一十フラン	フラン
一八七六年	一、三三八四〇〇円 三〇〇四外三 一、六三九〇二	フラン 〇・三〇乃至二五〇 円一六一〇・〇九七

戊、關稅

數量ハ「基」ヲ基數トス
稅額ハ「フランク」ヲ基數トス

種類	數量	稅額	換算	百斤當リ
普通鹽	一〇〇基	フランク 〇・三〇	円 〇・二一六	円 〇・〇六九
石鹽	一〇〇	〇・一〇	〇・〇三八	〇・〇三三
鹽石	一〇〇	〇・一〇	〇・〇三八	〇・〇三三

(四)

セルヴィア

面積約三千二百方里 (即日本ノ略九分ノ一)
人口約二百三十萬 (即日本ノ略十八分ノ一)

南歐三大半島ノ一タルバルガン半島ノ地域ニアル諸邦ノ一ニシテ鹽ニ關シテハ政府專賣ノ制度ヲ施行ス

甲、鹽制ノ沿革

千八百八十五年 明治十八年 前專賣ノ貸貸ヲ行フ

千八百八十五年 後百萬「デイナー」(我二百三十一萬九千六百圓)ヲ以テ鹽專賣ノ買戻ヲ爲シ

爾來政府事業トシテ收入ノ財源トナス

乙、鹽價

數量ハ「キログラム」ヲ基數トス (我二百六十六匁)
價額ハ「デイナー」ヲ基數トス (我三十八錢六厘六毛)

國會ノ協賛ヲ經ヘキ鹽價爾來左ノ如シ

數量	價額	換算	百斤當リ
一〇〇基	デイナー 一六	円 六・八五	円 〇・三七一

(五) ルーマニア 面積約八千五百方里 人口約五百九十萬 (即日本ノ略三分ノ一)

甲、鹽制

千八百六十二年 文久二年 去今四三年前 ハ製造場ニ免許ヲ與ヘ私人ノ計營ニ任セシカ此歲以來國家ハ自己ノ管理ヲ以テ製造場ヲ營ミ其販賣ハ政府力製造場又ハ一定ノ場所ニ於テ行フ外全ク自由トナシ輸入ハ之ヲ禁止セリ

乙、販賣額

數量「萬」基「基」ヲ基數トナス 價額「萬」レイ「基」ヲ基數トナス
 「基」ハ我「二百六十六匁」 「レイ」ハ「法」ニ同シ「法」ハ我「三十八錢七厘」

年次	國內消費		輸出	
	數量	價額	數量	價額
一八六二年—六五年	四一、五〇〇 百方基	二、九一〇 百方レイ	二二、〇〇〇 百方基	一、二五五 百方レイ
一八八一年—八五年	六九、六五九、九七一 斤	一、二六、一七〇 圓	三六、六六六、三〇〇 斤	四六〇、五三〇 圓
一八八八年—八九年	八九、三三三、四四〇 斤	一、六二、五三〇 圓	三九、八三三、九三五 斤	五二六、三三〇 圓
	五七、三〇〇 斤	五、六〇〇 圓	二六、一〇〇 斤	一、二〇〇 圓
	九五、五〇一、一三〇 斤	二、一六七、二〇〇 圓	四三、四九九、五六五 斤	四六四、四〇〇 圓

丙、販賣價額 「基」ノ價額ヲ「レイ」ニテ示ス 「レイ」ハ我「三十八錢七厘」

種類	數量	價額	換算	百斤當リ
內國消費	一基	〇・一〇	〇・〇三八・七	二・三三七
外國輸出	一	〇・五〇	〇・〇一九・三	一・一六〇八

丁、收支 「萬」レイヲ基數トシテ示ス 「レイ」ハ我「三十八錢七厘」

平均年別	事項	收	換	算	費用	換	算
一八八八年—一八八九年		六六四 万レイ	二、五六八、五八四 圓	一五〇 万レイ	五八〇、五〇〇 圓		

(六) 希臘 面積約四千二百方里 (日本ノ略六分ノ一)
人口約三百四十萬 (日本ノ略十九分ノ一)

甲、鹽 制

千八百二十六年 文政二年 製造ノ專賣ヲ實施ス此法律ニヨレバ天日製ノ海鹽ハ政府ニ於テ製造シ且ツ之ヲ販賣スルモノトシ鹽ノ輸入ハ禁止ス

乙、產出鹽ノ種類

海鹽ノミヲ生ス

丙、販賣價額

數量「チーカ」ヲモノチ (我三百〇二匁)
價額「レプタ」ニテ示ス (我三厘四毛五九五)

數	量	價	額	換	算	百斤當リ
	<small>チーカ</small>		<small>レプタ</small>		〇・〇五二八	二・七四四

丁、收 入

數量ハ「萬」基ニテ數トス (我三十四錢五厘九五ニ當ル)
金額ハ「萬」ト「ラツ」ハ「メ」ニテ數トス

數	量	換	算	金	額	換	算
	<small>萬</small>		<small>斤</small>		二、〇〇	<small>萬</small>	六九一、九〇〇
	一八〇〇		二九、九三五〇〇				

戊、輸 入 禁止ス

(七) 土耳其 面積約十七萬方里 (日本ノ略六倍)
人口約九百三十萬 (日本ノ略五分ノ一)

甲、販賣數量

數量「萬」基ニテ數トス (我八錢七厘九)
價額「ピアステール」ニテ數トス

年	次	數	量	換	算	價	額	換	算	百斤當リ
一八八六年—一八七年			<small>萬</small>		二八〇、九六二、五〇〇	<small>百萬</small> <small>ピアステール</small>	六九、六〇		六、一七、八四〇	二・二七〇
一八八七年—一八八年					二九九、二五〇、〇〇〇		六七、二〇		五、九〇六、八八〇	一・九七四

乙、輸 入 禁止ス

(八) チウニス 面積約八千五百方里
人口約百五十萬

當國ハシ、リ島ノ對岸亞非利加ニ在ル小邦ニシテ佛國ノ保護國タリ

甲、鹽制

千八百八十四年 明治十七年 ノ命令ヲ以テ購買加工及販賣ノ專賣ヲ有ス

乙、輸入 禁止ス

丙、收入 「フランク」ヲ基數トス (我三十八鎊七厘)

年	號	收入	豫算	換	算
一八九三年			六八二〇〇〇		二六三、九三四

(九) 英領印度

收入 一萬「ルピー」ヲ基數トス 「ルピー」ハ(我六十五鎊八厘)

年次	收入	換算	費用	換算
一八八八年—一八八九年	七六、二〇〇 <small>百万ルピー</small>	五〇、一三九、六〇〇 <small>円</small>	四〇〇 <small>百万ルピー</small>	二、六三三、〇〇〇 <small>円</small>
一八八九年—一九〇〇年	八五、二〇〇	五六、〇六一、〇〇〇		
一八九〇年—一九一一年	八三、四〇〇	五四、八七七、二〇〇		

(十) 支那

面積約 七十萬方里 (即日本ノ略二十七倍)
人口約 四億萬 (即日本ノ略十倍)

甲、鹽制ノ沿革

支那鹽制ノ起源 清國鹽法ノ起源頗ル遠シ神農(或ハ一説ニ黃帝ノ時)ニ當リ今ノ浙江省ニ於テ既ニ海水ヲ煮テ鹽ヲ作りシト云フ又禹貢ニ青州(今ノ山東省)鹽ヲ貢賦トシタルコトヲ載セアリ之ニ由リテ之ヲ觀レバ上古今ノ浙江省及山東省ノ地ヨリ鹽業漸ク起リ次第ニ發達シ今日ニ至リタルヲ知ルニ足ルベシ

一、周代

イ、周 (東周以前) 周禮鹽官ヲ置キ四方ヨリ貢獻スル所ノ數種ノ鹽ヲ處置シテ祭祀及饗宴ニ使用スルコトヲ司ラシム然レトモ未タ國費ノ需用ヲ食鹽ニ求メタルコトナク之ヲ一般人民ニ放任シテ政府敢テ之ニ干渉セズ又諸侯ヲシテ之ヲ專有スル等ノ弊害ヲ豫防シタルニ似タリ

ロ、東周

A、春秋時代 平王東遷以後凡二百四十年間之ヲ春秋ノ世ト稱ス此間戎狄屢々内ニ侵入シ諸侯相互ニ併呑シ其務ムル所富國強兵ニアルヲ以テ自然鹽利ヲ專有シテ富強ノ實ヲ擧ゲントスル者顯ハレ遂ニ後世權鹽法ノ基礎ヲナセリ
管仲齊ニ相トナルヤ桓公ニ請ヒ大ニ海鹽ノ利ヲ興シ之ヲ他國ニ輸出シ國力富強ヲ致シ諸侯ヲ會シ覇ヲ東方ニ稱スルニ至レリ

此後所望ト稱スル官ヲ置キ鹽ヲ製セシメ庶人ノ製鹽ハ之ヲ禁止ス此レ後世鹽官ノ初メヲナス

B、春秋戰國時代 降リテ戰國ニ至リ魯人猗頓ノ鹽地ヲ占有シ富王公ニ擬シタリ

二、秦 代 秦天下ヲ一統シテヨリ鹽鐵ニ重稅ヲ課シ其利古ニ二十倍セリ

三、漢 代

イ、前 漢 漢初メ秦ノ法ヲ承ケ鹽鐵ノ利既ニ古ニ二十倍セリ吳王濞今ノ浙江省ニ居リ鹽官ヲ置キ盛ニ鹽ヲ製シ國富ミ兵強ク遂ニ反逆ヲ圖ルニ至レリ吳王濞山ヲ鑄、海ヲ煮ルトハ即チ鹽鐵ノ利ヲ擅ニセルヲ云フナルベシ

武帝 ニ至リ兵ヲ四方ニ用ヒ武威ヲ張リシト雖其ノ多年兵ヲ動カシ封禪ヲ事トシタルトニヨリ遂ニ財政ノ困難ヲ來タシ、カバ帝酷吏ニ任シテ鐵官、鹽官ヲ併置シ其鑄鐵、製鹽ノ權ヲ政府ニ收メ官器ニヨリテ鹽ヲ賣リ敢テ私ニ鹽ヲ販ク者ハ右趾ヲ鈇シ其器物ヲ沒收ス是レヨリ諸國ノ鹽場皆鹽官アリ權法全ク成レリ後世史冊ニ顯ハレ貽傳スル漢代鹽鐵ノ制度トハ即チ是レナリ

此制度ノ趣旨タルヤ山海ハ天地ノ寶藏ナレバ宜シク之ヲ國家ノ有トナスベシ之ヲ國家ニ屬セシメザレバ富商豪戶山海ノ利ヲ專有シ良民ヲ苦メントス國家ガ天地ノ寶藏ヲ專有スルハ猶庶人ノ寶器ヲ堰藏スルガ如シ故ニ鹽鐵ノ利ヲ收メテ百姓ノ急ヲ救ヒ軍旅ヲ奉スルハ此レ天下ヲ兼濟スル所以ナリ古昔鹽鐵ノ權セラレサル布衣ニ猗頓アリ邦君ニ吳王アリ奸僞百出

制スヘカラズ之ヲ要スルニ國家ガ鹽鐵ノ利ヲ收メテ徒ラニ富商豪戶ヲシテ鹽鐵ノ利ヲ壟斷スルヲ得サラシムルハ國家民人ノ反リテ利益ナリトスルニアリ

然レトモ之ニ反對スルモノハ以爲ラク古昔租ヲ入レ煮鹽スル時ニ當リテハ大低鹽ト五穀ト價ヲ同シクス官、鹽利ヲ權シテヨリ鹽價日ニ貴ク貧民或ハ淡食スル者アルニ至ル議者或ハ周禮ニ虞衡ノ官アリ山澤ノ禁ヲナスヲ以テ之ニ當ツレトモ彼ハ物性ヲ保護スルニ止マルノミ未タ民ノ父母トナリ富萬物ヲ有チ醴鹽ヲ吝ミテ之ヲ權スル者アラズ鹽官ヲ立テ鹽場ヲ障護シテ其利ヲ收メ父トナリテ子ヲ權スルハ痛ノ極ナリト

此權鹽說ト其反對說トハ久シク相反抗シ氷炭相容レズ朝議民論時々沸騰シ權鹽時々興廢張弛スルハ全ク此二說ノ消長ニ原カサルハナシ故ニ此二說ノ主義ハ清國鹽制ヲ讀ムモノ、最モ善ク知ラサルヘカラサル所ナリトス而シテ後世久シク權賣法ヲ繼續スル所以ハ政府鹽法ヲ弛クスルトキハ豪民直ニ鹽場ヲ私有シテ鹽利ヲ私擅シ其害政府ノ權法ヨリ尙ホ甚シキモノアルコト亦原因ニシテ蓋シ此レ清國ノ地勢ト民情トノ然ラシムルモノナラン故ニ政府一旦法ヲ弛ヘテ暫時ニシテ復之ヲ復スルコト其例尠カラズ此レ亦知ラサルヘカラサルナリ昭帝 武帝ノ後昭帝立ツニ至リ時ノ賢良文學ノ士對策スル者皆鹽鐵均輸ノ害ヲ述ベシガ時ニ桑弘羊ナル者鹽法ヲ主持シ痛ク之ヲ反駁シタリ後桑弘羊誅セラレテ鹽業止ミシガ其後張弛常ナク要スルニ權法一度成リテ後動カスヘカラサルニ至ル

ロ、後 漢

明帝 後漢ノ鹽法前漢ト略ホ同シカリシガ明帝ノ時穀貴ク顯官ト雖モ給用足ラズ是ニ於テ鹽法ヲ固守スルトキハ貧民生ヲ聊セサルヲ以テ鹽法ヲ廢シタリシガ後復之ヲ故ニ復セリ然レトモ其末葉ニ至リテハ騷亂相尋キタルヲ以テ鹽法行ハレサリキ

四、三國時代

三國ノ初メ百姓騷亂ヲ避ケ荆襄ニ入ル者十餘萬家本土既ニ安寧ナルヲ聞キ皆歸ヲ思フ然レトモ資財ノ給スヘキナシ衛覬譏シテ云フ鹽ハ國家ノ大寶ナレトモ騷亂ノ故ヲ以テ鹽法放散ス宜シク舊ノ如ク使者ヲ置キテ之ヲ領シ益々犁牛ヲ買ヒ百姓ノ自ラ歸ル者ニ之ヲ給シ耕ヲ勸メ粟ヲ積ミ以テ關内ヲ豊殖スベシト魏武其言ヲ容レ鹽業ヲ復シ悉ク流民ヲ還シタリ

五、南北朝ノ代

六朝亦皆鹽禁ヲ布カサルハナク北朝元魏ノ明帝甄琛ノ說ヲ容レ鹽禁ヲ廢シタリシガ豪民皆爭ヒテ鹽利ヲ擅ニセシカバ政府其民ニ益ナキヲ視又鹽禁ヲ復シタリ

六、唐ノ代

漢以來歷代皆鹽法ヲ布キシガ唐興リ稍々其禁ヲ弛ヘタリ然レトモ其ノ後國用足ラサルヲ以テ權鹽說又起リ當時在ル所ノ鹽地十八鹽井六百四十皆官有トナシ徭役ヲ以テ鹽ヲ製ス天寶至德ノ間鹽斗コトニ價十錢ナリ

乾元ノ初メ鹽鐵使第五琦從來慣行ノ鹽法ヲ變シ山海井竈ノ鹽ニ近キ地ニ鹽院ヲ置キ游民ノ鹽ヲ業トスルモノヲ籍シテ亭戶トナシ雜徭ヲ免シ直ヲ給シ鹽ヲ煮セシム亭戶此ニ始マル而シテ

天下ノ鹽ヲ權ス

建中ノ初軍起リ國用大ニ困ム賦稅ヲ以テ經費ヲ支フルニ足ラズ當時鹽吏劉晏ナルモノ鹽法輕重ノ宜ヲ上リ以爲ラク「官多ケレバ民擾ル宜シクタゞ産鹽ノ郷ニ於テ亭戶ヲ置キ鹽ヲ收メ商買ニ轉賣シ隨意ニ之ヲ運販セシムベシ其鹽郷ヲ去ル遠キ者ハ官鹽ヲ所在ニ轉運シテ之ヲ貯ヘ商絶エ鹽貴ケレバ價ヲ減シテ以テ之ヲ賣却セシムベシ(名ケテ常平鹽ト云フ)然ルトキハ官其利ヲ得テ而シテ民貴キヲ知ラズ」ト是ニ於テ漢以來ノ官賣法ハ變シテ通商法トナリ鹽官ノ數大ニ減ス劉晏初メテ法ヲ行ヒシトキハ鹽利僅カニ四十萬緡ナリシカ大曆ノ末ニ六百餘萬緡即チ十五倍ニ至リ天下賦稅ノ半ニ居リ國用給ヲ仰グ然ルニ其後之ニ繼ク者皆刻薄ヲ極メ鹽ヲ以テ自ラ利シ國用益々耗シ鹽利反テ私室ニ積ムニ至リ遂ニ鹽法ノ酷ヲ極メ盜煮ヲ罰スルニ罪死ヲ以テスルニ至ル是ヨリ先劉晏ノ法既ニ壞レ蠶鹽食鹽等ノ名ヲ立テ貧富五等ニ戶ヲ分チ人民ヲ抑壓シ鹽俵ヲ配當シテ之ヲ買ハシムルコト行ハル名ケテ俵散法ト謂フ此法一度行ハレテ官民鹽ヲ買ハサルモノナカリシト云フ

七、五代

梁以後道德亂レテ忠義廢レ篡立ヲ計ルモノ亦比々トシテ絶エズサレバ宋起ルマデ五十三年ノ間帝位ヲ踐ムモノ十三、國ヲ易フルモノ五度ニ及ベリ史ニ之ヲ五代ト稱ス梁、唐、晋、漢、周即チ是ナリ此間鹽法ノ嚴ナル蓋シ唐ニ逾ルアルモ劣ルコトナシ

八、宋ノ代

宋興ルニ及ヒ太祖百姓ノ疾苦ヲ知り屢々詔シテ河北ノ鹽禁ヲ弛ベ自由ニ煮熬賣買セシメ且諸々ノ顆鹽、末鹽等ハ悉ク通商法トナシ畢ク州縣ニ任セテ商人ニ賣與セシメテ租稅ヲ徵收ス茲ニ於テ海内鹽利遍クシテ公私兼ネテ利アリ

咸平中度支使梁鼎言ヘラク陝西ノ沿海ハ解鹽ヲ食ム通商ヲ禁シ官自ラ鬻カバ其利タリヤ數倍ナラント然レトモ蕃部ノ青鹽ハ價頗ル廉ナリ強ヒテ鹽禁ヲ布クトキハ必ズ青鹽ノ密輸入ヲ増スヘキヲ以テ其說中止シタリ然レトモ其後權鹽說又起リ三京二十八州ノ軍皆運送ニ困ミ而シテ運送ノ吏卒往々砂土ヲ雜ヘテ鹽ヲ盜ミ鹽粗惡ニシテ食スヘカラズ此ノ如クニシテ官賣ハ煩擾ニ堪ヘサルノミナラズ官運ハ澁滯シテ陝西ノ解池及淮南ハ鹽ヲ積ムコト多ケレドモ價貴キヲ以テ售レズ往々其鹽堆ノ上ニ大木ヲ生スルノ奇觀ヲ呈スルニ至レリ

天聖中通商ノ便ヲ論スルモノアリ是ニ於テ官賣ヲ止メ稅ヲ納レテ江淮若クハ解鹽ヲ販カシム其後仁宗ノ代西師起リ金銀貨財ヲ京都ニ入ル、者ハ券ヲ與ヘ其所在ノ鹽ヲ以テ之ニ換ヘシム之ヲ折中鹽ト曰フ

是ヨリ先宋代ニ於テ契丹北部ニ雄飛シ河北燕薊ノ地契丹ニ陷入シ民南顧ノ心ナキ者ハ鹽、麴ノ價廉ナルモノ與リテ力アルヲ以テ太祖以來河北ノ鹽ハ未タ嘗テ之ヲ禁權セサリシガ神宋以來、又之ヲ權スルコト、ナレリ

九、元ノ代

元ノ世祖鹽法ヲ立テ瀕海ノ州郡ハ場ヲ立テ官ヲ差遣シ煮鹽ヲ監セシム而シテ宋法ニ倣ヒ鹽引ヲ發行シテ鹽商ヲシテ之ヲ買ハシメ各處ノ鹽場ニ就キ鹽ヲ受ケシム初メ一引銀十兩ニシテ鹽四百斤ヲ得ルノ制ナリシガ後處々變更シ鹽價貴クシテ鹽售レサルヲ以テ唐ノ俵散法ノ如ク均シク戶口ヲシテ收買セシメ貧富ニヨリテ直ヲ拂フニ高低アラシム之ニ由テ吏奸ヲナシ民甚タ之ニ苦ム因テ復富商ヲシテ之ヲ收買セシメタリ之ヲ要スルニ元ハ通商及官賣ヲ以テ終始ヲナシタルモノト知ルベシ

十、明 代

明亦宋代ノ通商法ヲ採用シ鹽引ヲ發給シテ各產鹽場ニ鹽課司ヲ置ク鹽法ニ干スル刑罰ノ如キハ酷薄ヲ極メ犯ス者ハ死ニ抵ル其鹽引ハ元制ニ倣ヒ四百斤ヲ一引トセシガ後四百斤ノ引ヲ大引トシ二百斤ノ引ヲ小引トナシ產額總計二百三十一萬九千五百七十五引トナセリ

十一、清ノ代

抑モ清代ノ鹽制ハ歷代各其方法ヲ異ニスルノミナラズ時ニ時弊ヲ矯正シ私梟ヲ督シ官鹽ノ暢銷ヲ圖ル等時々之ガ改廢ヲ爲シ多少ノ異同ハ免レズト雖也等シク明代ノ制度ニ依リ多少潤色増減ヲ加フルノミニシテ同シク鹽引ヲ發シテ鹽ヲ賣買シ其利金ヲ國用ニ供スルハ敢テ異ナルコトナシ即チ其制ハ概テ通商法ニヨルモノナリ現今行ハル、主義ヲ上クレバ左ノ三ニ過キズ

イ、官運官銷

政府全ク事業ヲ管理シ直チニ小賣商ニ賣渡スモノ

ロ、官運商銷

政府ハ生産者ヨリ買取リ官之ヲ運搬シ免許御賣商へ賣渡スモノ

ハ、官督商銷

官ノ監督ニ屬スル免許商人ヲシテ鹽ノ運搬ヲナサシメ或ル確定シタル地方ニ於テ販賣セシムヘキモノ

(參考) 兩淮地方ニ於ケル鹽商ニ三種アリ、引商、水販、輔戸ノ三トス引商ト稱スルハ專賣商ニシテ資本饒裕鹽ヲ以テ世業トシ正課雜課ヲ納メ一定ノ費用ヲ辨シ每引若干ノ利息ヲ得テ官定ノ價額ニ依リ水販ニ賣渡スモノヲ云フ水販ト稱スルハ大賣捌商ニシテ各地ニ轉售スルモノナリ官ニ於テ價ヲ定メ通運ノ遠近ヲ按シ多少ノ利ヲ得ルヲ許セドモ意ニ任セテ昂貴スルヲ許サス輔戸ト稱スルハ小賣商ニシテ水販ヨリ買受ケ官定ニヨリテ多少ノ利ヲ得テ零售スルモノニシテ各家購入スル所ノ鹽價ハ即チ輔戸ノ賣價ナリ水販及ヒ輔戸ハ斤量ヲ盜ミ價ヲ騰セ民ヲ苦ムルコトアルヲ以テ府令ヲ出シテ之ヲ禁スルナリ

右イ、ロノ主義ハ往時廣東福建省ノ一部ニ行ハレ今ノ四川省ニ於テハ官運局アリ光緒三年四川總督ノ施行ニ係ルモノニシテ該地方ニ於テハ其地方ニヨリ右三主義共ニ行ハルト云フハノ主義ハ最モ廣ク行ハル、モノナリ兩淮鹽ノ如キ即チ是レナリ

左ニ事項ヲ分チテ其大略ヲ説明スベシ

イ、行鹽區域 政府ハ全國各地行鹽ノ疆界ヲ確定シ其區域内ノ産鹽ハ直ヲ以テ之ヲ其中央ノ倉庫ニ聚メ其區域内ノ鹽ハ他ノ區域内ニ販賣シ又ハ運搬スルヲ許サス是レ相互ノ浸灌ヲ豫防シ産鹽者及ヒ鹽商ヲ保護スル精神ニ出ツルモノナルベシ此ノ行鹽ノ境界ハ之ヲ引地ト云ヒ各地廣狹アリ直隸一省ニ就キテ言ヘバ省内一百有餘ノ州縣アリ分チテ數十引地トナス一縣ヲ一地トナスモノアリ一州ヲ一地トナス者アリ或ハ二三州ヲ合セテ一地トナスモノアリ而シテ此ノ如ク其官ヨリ公定セル場所ニ於テ製鹽シ公定ノ限域内ニ於テ販賣スルモノヲ官鹽ト云ヒ其民間私製ノ鹽及ヒ官鹽ノ定境ヲ越ヘテ販賣スルヲ私鹽ト云フ唯盛京省沿岸ノ地ハ民自ラ鹽ヲ煮ルヲ許スヲ以テ錦州府内ノ鹽場二十餘ヶ所ハ禁權ノ制ヲ布カズ然レトモ其産額ハ至リテ僅少ナリトス

ロ、鹽ノ運搬、賣買 鹽ノ運搬賣買ハ政府ノ免許シタル商人ニ取扱ハシム而シテ其商ハ永遠承ケテ之ヲ世業トナスモノナリ初メ綱引ト稱シ戸部ヨリ頒チタル鹽引ニヨリ鹽ヲ受ケ制限甚タ嚴重ナリシガ後ニテ述フル如ク鹽引ヲ票鹽ノ制度ニ改メシヨリ鹽商人ハ此票鹽(免許狀)ヲ領有スルニアリ此免許狀ハ定數ノ鹽ヲ政府ノ倉庫ヨリ買受クルノ權利ヲ所有者ニ與フルモノニシテ其效力永遠ニ繼續シ親ハ子ニ傳ヘ又他人ニ讓與賣買スルコトヲ得故ニ其價額ハ地方ニヨリ異ナルモ一枚ノ免許狀ニシテ一萬二千兩ノ價額ヲ有スト云フ

ハ、鹽 價 鹽價ハ政府之ヲ定ムルモノニシテ鹽商濫ニ之ヲ騰貴セシメテ暴利ヲ圖ルヲ許サ

ス准鹽ノ行銷ニ付其一端ヲ舉クレバ鹽務官吏ハ最初ニ於テ生産者ヨリ鹽ヲ買入レ而シテ生産費雜費及一定ノ課稅ヲ包含スルニ充分ナル價額ヲ以テ商人ニ賣渡シ別ニ通路又ハ到着宿驛ニ於テ釐金稅ト名クル稅ヲ賦課ス鹽商ハ時價ニ隨テ之ヲ銷售ス產鹽ノ地ニ於ケル運鹽使鹽法道場民ノ生計ト商賈ノ行息トヲ察シ其鹽價ヲ平準ニシ且需用者ヲシテ淡食ヲ免レシムルナリ

ニ、販賣ノ方法 鹽商ハ鹽ヲ買ヒ其價ヲ拂フトキハ引地ニ於テ己カ賣ラント欲スル地方ヲ擇ヒテ販賣スルコトヲ得ベシト雖モ鹽務官吏ノ定メタル賣價ヲ以テ代委人ノ手ヲ經サルベカラズ直接ニ之ヲ消費者ニ賣ルヲ許サス故ニ鹽商ハ自己ノ賣ルヘキ場處ヲ定メタルトキハ鹽運司衙門ノ倉庫ニ鹽ヲ入レサルヲ得ズ該衙門ノ委員ハ一々鹽商ノ姓名ヲ帳簿ニ書録シ公平ノ取扱ヲ爲スヲ常トス且免許狀ハ此倉入レト同時ニ委員ニ渡シ委員ハ其該當スル數量ヲ賣却セシ後費用、課稅等ヲ扣除シタル賣拂代金ト共ニ免許狀ヲ返戻ス是ニ於テ鹽商人ハ尙再度ノ販賣ヲ試ムルノ自由ヲ得ルナリ故ニ商人ノ利益ハ販賣スヘキ地方ヲ擇ヒ速ニ賣却シテ其代價ヲ得ルノミナラズ速ニ免許狀ノ返戻ヲ受ケ再ヒ販賣ニ從事スルニアリ今參考ノタメ淮南行鹽地方ニ於テ票鹽一枚ヲ得タル商人ノ收入ヲ示セバ先ツ揚州ニ於ケル鹽運總局ニ申立一票五百引ノ鹽ヲ政府ノ倉庫ヨリ交付セラルベシ即一引六百八十八斤入り五百引ノ價ハ一擔ニ付一兩六錢ノ割合ニテ總額五千五百四兩ナリ而シテ之ヲ江西ノ首府ニ送ルトシ其處ニ販賣スルニハ一擔ニ付三兩二錢ニシテ減耗加量一引六百八十八斤ノ代ニ七百五十二斤ヲ

政府ノ倉庫ヨリ受クル故ニ五百引總數ニ七百五十二斤ヲ一引トシ一擔ニ付三兩二錢ノ割合ニ於ケル價額ヲ乘シ一萬二千三十二兩トナル然ルニ鹽務官吏ハ釐金即チ一擔一兩一錢三分ヲ課シ五百引ニ付四千二百八十一兩ヲ扣除シ商人ノ手ニ殘ルハ七千七百四十四兩トナリ此內買價ヲ減シ二千二百四十兩ノ收入トナル尤モ此內運賃、人夫賃、倉敷料等ヲ要スト此ノ如キ收入ナルガ故ニ商賣活潑ナルトキニシテ免許狀ヲ一ケ年又ハ其以內ニ用ヒ得ルトキハ利益甚タ多ク二割乃至二割五歩ニ至ル

清國當初戸部ヨリ分ツ所ノ鹽引ニ依リ課ヲ收メ鹽ヲ受ク大清會典ニ曰ク「凡ソ行鹽ノ符信ハ戸部ヨリ引ヲ給ス鹽政(大臣)受ケテ之ヲ鹽商ニ下附ス其鹽ヲ鹽場ヨリ受ケ批驗所ノ檢閱ヲ經テ應ニ行銷スヘキ府州縣ニ轉運ス州縣皆引ヲ按シテ其數ヲ知リ賦ヲ運使鹽道ノ官ニ輸シ計ヲ鹽政ニ上ル積ヲ以テ其算ヲ定メ終歲ナレバ既ニ發售シタル引ヲ收メ其隅ヲ截チ以テ戸部ニ送り稽覈ヲ待ツ更ニ新引ヲ頒ツ」ト是レ清代當初ノ引目ノ大略ナリシナリ然ルニ施行日久シクシテ百幣生シ官ハ商ヲ視テ利藪トナシ費ヲ素メ情ニ徇ヒ商ハ官ヲ借リテ護符トナシ私利ヲ營ミ積弊積テ遂ニ引壅シ課虧クニ至ル是ニ於テ鹽制改正ノ必要ヲ生シ各省時々少異同アリシガ就中兩淮ノ地ハ各省中引地最モ廣ク隨テ弊害亦生シ易スキヲ以テ道光中鹽引ヲ改メテ票鹽トナシ每票五百引ヲ包有セシメ鹽商タラントスルモノハ每票地方ニヨリ或ハ二千兩或ハ三千兩ヲ獻納シテ鹽票(免許狀)ヲ領有スルコトトナセリ

抑モ票鹽ノ引鹽ニ異ナルハ引商ハ棚鹽ニ定額アリ行鹽ニ定地アリ制限甚タ嚴ニシテ永遠承ケ

テ世業トナスモ票鹽ハ舊商ト新商トニ論ナク唯タ國庫ニ資ヲ納ル、モノニハ票ヲ給シ行運セシムルモノニシテ其行銷疆域内ニ限り自由ニ販賣スルヲ許スモノナリ

以上述フル如クニシテ改票漸ク効ヲ奏セントシテ之ヲ行フ未タ幾モナクシテ長髮ノ賊亂ニ依リ鹽制亂レ行地大ニ擾亂シタリシガ克復後漸ク復舊ニ至リシモ行銷引地ニハ多少ノ變動ヲ生シタリ

乙、產出鹽ノ種類

中古以來史冊ニ載録スル所ニヨレバ鹽ノ種類甚タ多ク夷蕃ノ間產スル所十餘種國內產スル所亦數十ニ下ラズト云フ宋代ニ至リ廣ク通行スル者ヲ四種トス

- 一、海鹽 一ニ末鹽トモ云フ其配布最モ廣キモノニシテ煎成スル者アリ或ハ曬成スルモノアリ直隸省ノ潞鹽、江蘇省ノ淮鹽、浙江省ノ浙鹽、福建省ノ閩鹽、廣東省ノ粵鹽等はレナリ
- 二、池鹽 一ニ顆鹽トモ云フ全ク曬成スルモノニシテ海鹽ニ次キ通行廣キモノナリ山西及口外蒙古等ニ產ス
- 三、井鹽 前二者ニ比シテ通行稍々狭キモノニテ四川、雲南兩省ニ產ス
- 四、石鹽 其質最モ粗惡區域最モ狹ク而シテ深山中間ニ或ハ之アリ

丙、產鹽、行鹽地方 全國ヲ左ノ十三區ノ行鹽地ニ分ツ

鹽名	產地	行鹽地
----	----	-----

盛京鹽 (海鹽)	盛京省 奉天府、錦州府(二十場)	盛京省一圓
長蘆鹽 (海鹽)	直隸省 撫甯縣、樂亭縣、梁州、豐潤縣、寶坻縣、天津縣、清海縣、滄州、鹽山縣	直隸省全般(長城外宣化府廣昌縣ヲ除ク) 河南省ノ北部
蒙古鹽 (池鹽)	蒙古 鄂爾多斯、蘇特尾、古蘭太	直隸省ノ北西部(長城外宣化府廣昌縣) 山西省ノ北部
山東鹽 (海鹽)	山東省 霽化縣、利津縣、樂安縣、壽光縣、掖州、膠州、日照縣	山東省ノ全部、河南省ノ北東部、江蘇省ノ北西部、安徽省ノ北部
兩淮鹽	江蘇省 (ノ北東揚子江以北ノ沿海) 贛榆縣、海州、阜甯縣、鹽城縣、泰州、如臯縣、通州	江蘇省ノ北部及南西部、安徽省ノ南東部、河南省ノ南東部、江西省(東部贛州ヲ除ク)、湖南省(南東一部ヲ除ク)、貴州省ノ南東部
兩浙鹽 (海鹽)	浙江省 沿岸 婁縣、華亭縣、金山縣、奉賢縣、南匯縣、崇明縣	浙江省一圓、江蘇省ノ南東部、安徽省ノ東南部、江西省ノ東端部
福建鹽 (海鹽)	福建省	福建省全部(省ノ南西端汀州府ヲ除ク)
廣東鹽 (海鹽)	廣東省	廣東省ノ全部、湖南省ノ南東部、廣西省ノ全部、貴州省ノ南東端、福建省ノ南西部、雲南省ノ東端、江西省ノ南部
河東鹽 (池鹽)	山西省 (解池ト稱スル鹽湖ニテ產ス)	山西省ノ南部、陝西省ノ中央ニ於ケル東部、河南省ノ東部
陝西鹽 (池鹽)	陝西省 (定邊縣ノ花馬大池ニ產ス)	陝西省ノ西部及南部、山西省ノ西部
甘肅鹽 (池鹽)	甘肅省 (花馬小池ニ產ス)	甘肅省一圓

(非鹽) 四川省	四川省	四川省一圓、貴州省(南東部ヲ除ク)、雲南省北
(井鹽) 雲南省	雲南省	東部、湖北省ノ南西部
		雲南省

丁、產出額

清國產出鹽ハ其額詳カナラズ政府發行ノ引數ヲ查スルニハ直隸長蘆ヲ初メ其他ノ官行製鹽場ノ引數ニ正引餘引正票餘票等ノ稱アリ其各引ノ斤數ニモ不同アレバ固ヨリ正確ノ計數ヲ得スト雖
 凡今禹域通纂ニ舉クル鹽引ノ數ニヨリ其每引ノ斤數ヲ平均概算スレバ凡ソ二十五億七千四百三十五萬斤餘ニシテ百七十五斤ヲ我一石ト假算スレバ千四百七十一萬石餘トナル然レトモ此統計ハ固ヨリ官令ニ定メタル引數ニ據ルモノニシテ其脫漏アルハ勿論ニシテ此他官鹽ニアラサル私鹽モ亦少カラサルヘク故ニ支那全國ノ食鹽ニ就キ實際ノ數ヲ舉ケンニハ更ニ此ヨリ許多ナルヤ疑ナシト雖凡前計數ヲ舉クレバ左ノ如シ

(參考) 英國外務省ニ於テハ日清戰役後ニ於テ支那ノ財政ニ關シ調査シタル報告中彼日清戰役ノ善後策トシテ清國政府カ鹽課ヲ增加シ每斤二文ノ額外課稅ヲ爲スコト、シ其增加見込高ニ依レバ全國ノ產鹽二千五百萬擔ナルヘキコトヲ推定セリ即チ我千五百萬石ニ該當スルモノニシテ大凡右ノ算定ト大差ナシ

製鹽場	正引	餘引	正票	餘票	計	每引每票鹽量	概計
-----	----	----	----	----	---	--------	----

長蘆	九六六、〇四六	二〇〇、〇〇〇			一一六六、〇四六	每引	三〇〇斤	三〇九、八一三、八〇〇
山東省	五五〇、五〇〇	五〇〇、〇〇〇	一七一、二四〇	八三、一八〇	八五四、九二〇	每引每票	二二五斤	一九二、三五七、〇〇〇
河東	六五〇、九九三				六五〇、九九三	每引(十六兩一斤ト假定)	二四〇(十五斤)	九、七六四、八九五
兩淮	二、七二七、八八二				二、七二七、八八二	每引	三六四斤	九九二、九四九、〇四八
兩浙	七〇四、六五九	一五〇、〇〇〇			九五四、三五七	每引	三三五乃至四〇〇斤	三、五一〇、八三三
兩廣	八一四、五〇九				八一四、五〇九	每引	三三五乃至三三三斤	二二六、八四〇、七五六
福建	五四五、〇六二	五一〇、四三三			一、〇五五、四八五	每引	一〇〇乃至六七五斤	四〇九、〇〇〇、四三五
甘肅	七二、六八八				七二、六八八	每引	七八乃至二〇〇斤	一〇、一〇三、六三二
四川						每引	五、〇〇〇乃至四〇〇〇斤	
雲南								三三、四二〇、〇〇〇
總計								二、五七四、三五七、九六六

備考 表中多少計算ニ不符合ノ點アルモ猥リニ訂正ヲ加ヘズ其儘掲記スルコト、ナスヘシ
 戊、鹽價 價ハ各產地官定ノ價額アリ之ヲ行鹽地方ニ尋ヌレバ其遠近ニ從ヒテ甚シキ逕庭アリ此
 レ此間鹽課釐金其他ノ雜款ヲ賦課セラル、ニヨル然レトモ此等ハ隨時官廳ノ斟酌規定スル所ニ

シテ其各地ノ鹽價固ヨリ官令ノ規定スル如ク行ハレサルベシ

產地	官定相場		我百斤當リ	販賣地	官定相場		我百斤當リ
	上	下			上	下	
淮北鹽 西臨 太平 中富	六錢五分	六錢	〇・九二九	漢口	百斤	千六百文	一・八一八
淮南鹽 (廟灣)	七百六十文		〇・八六三	揚州	百斤	千六百文	一・八一八
浙江鹽				杭州府	百斤(小賣)	二千六百文	五・三七七
福建鹽 福清縣 金門島	一斤(小賣) 二十文	一斤(小賣) 二十文	二・〇〇〇	廈門	一斤	二十文	二・二七二
廣東鹽 (汕頭)	一斤	十三文	一・四七六	汕頭	百斤(小賣)	二千六百文	二・九四五
安南鹽 (新州)				香港	百斤	一千六百文	四・〇九五

已、鹽稅 清國政府ノ收入スル鹽課ハ其數額果シテ幾何ナルヤ是亦明敷ニ之ヲ知ルノ道ナシト雖
 近時主要ナル產鹽地ノ數額ニヨレバ兩淮及ヒ四川鹽ハ共ニ各々四百萬ニ及ヒ閩、浙、粵、長蘆、
 山東、雲南、河東等ヲ合スレバ蓋シ千三百萬兩(我一七、一九九、〇〇〇)ノ巨額ニ達ス然レト
 モ各地ノ私鹽ノ行ハル、コトアリ官鹽滯銷スル地少カラズ今最近英國外務省ノ調査ニ依ル北京
 政府ノ收稅額及大清會典ニ掲クル乾隆年間ノ奏銷計數ヲ舉クル左ノ如シ
 最近英國外務省ノ調査ニ依ルモノ 一兩ハ(我一圓三十二錢三厘)

鹽稅額	換算
一三、六五九、〇〇〇兩	一八、〇七〇、八五七兩

乾隆十八年奏銷計表(大清會典ニ據ル)

鹽名	票引數	鹽稅額	換算
長蘆鹽	九六六、〇四六兩	六〇〇、三九四兩	七九四、三二一兩
山東鹽	正引 票引 五五〇、〇〇〇 一七一、七四〇	二四五、六八八兩	三二五、〇四五兩
兩淮鹽	一、六八五、四九二	二、一七九、二六四	一、五六〇、一六五兩
河東鹽	四二六、九四七	四二九、三八二	五六八、〇七二兩
陝甘鹽 (漢中等)	三九、四〇〇	八、九八〇	一一、八八〇兩

陝甘日鹽	(嶺州等)	七二、六八八	二〇、四一六	二七、〇一〇
兩浙鹽	正引 附引	七〇四、六九八 一〇〇、六九八	七三七、七〇五	九七五、九八二
福建鹽		九四六、四八五	三九七、三四二	五二五、四七三
廣東鹽 (本省及江 西福建)	(廣西)	五四八、五二二 六五、六一〇	四六八、七八七 一一三、七八二	六二〇、二〇二 一五〇、五三三
四川鹽		一一五、一八五	八九、五三六	一一八、四五六
雲南鹽	鹽課キテ以テ引子額タ ス并テ按シ引子額ヲ 給ス		二六一、六四三	三四六、一五三
貴州	湖廣ニ近キハ准據テ食フ 四川ニ近キハ川鹽ヲ食ス		七、六一五	一〇、〇七四
計		六、三八三、五一二	五、五六〇、五三四	七、三五六、五八六

以上ハ鹽引ノ課稅即チ國庫ノ收入ニ屬スルモノニシテ此外雜課ナルモノアリ其款目頗ル繁多ナリ

(十一) 日本

甲、製鹽ノ起源

史ヲ案スルニ日本製鹽ノ起源頗ル遠シ神代宇比地邇、須比地邇ナル二神アリテ漁鹽ノ利ヲ起サレ後之ヲ始祖トシテ志波彦、志波姬ヲ祭リシ祠アリシト言ヒ傳フ志波ハ鹽ト云フノ意ニシテ彦、姫ハ男女ノ神ノ尊稱ナリ又大地主神田畔ニ鹽ヲ班チ置クトアリ之レニ依リ之ヲ視レハ此三神ノ製鹽ヲ創始セラレタルヤ明カナリ

乙、鹽制ノ沿革

第一、神代及王政時代ニ於ケル鹽制

- 一、天照大神ノ御代ニ事勝、國勝、長狹命ヲ鹽燒ノ頭ニ任ストアリ
- 〇一、饒々尊ノ御世ニ豊後國大野郡ヨリ醬油ヲ造リ獻セシコトアリ又周防國熊毛郡ニテ山鹽ヲ執リ又湖大分命ヲシテ磐城國オコドノ海カストリ川ニテ鹽ヲ燒クトアリ事勝、國勝、長狹命長門内海邊津海ニテ鹽ヲ製ストアリ

〇二、穗々出見命ノ御世ニ下野鹽屋郡三王峠シホ山ニテ山鹽ヲ採ルトアリ又飛彈及ヒ信濃ノ國ノ内三ヶ所ニテ山鹽ヲ採ルトアリ

- 一、仲哀天皇八年(西曆一九九九年)筑紫ニ行幸ノトキ周防ノ國ニテ漁鹽ノ地ヲ獻ストアリ又逆見ノ海ヲ以テ鹽地トナスコトアリ
- 一、應神天皇三十一年(西曆三〇〇〇年)船材ヲ薪トシテ鹽ヲ燒キ五百籠ヲ得テ諸國ニ賜フトアリ

一、仁德天皇ノ御世(西曆三一九〇年)破船ヲ以テ鹽ヲ燒クトアリ
(去今一五九二年前)
 一、天智天皇ノ御世(西曆六八八年)高安城ヲ修メテ穀及鹽ヲ積ムトアリ
(去今一三三二年前)
 一、桓武天皇延暦十八年(西曆七九九年)備前國兒島郡ノ百姓鹽燒ヲ業トシ又駿河國ニテ海鹽
(去今一〇〇五年前)ヲ製シタルコトアリトアリ

一、寛平年間(西曆八八九年—九七年)河原左大臣奥州千賀ノ鹽竈ノ趣ヲ賞シ京師ニ鹽漬ヲ造リ浪早
(去今一〇一五年—一七年)ノ浦ノ海潮ヲ運搬シテ鹽ヲ燒カシムトアリ是レヨリ鹽漬ノ名起ルト云ヒ傳フ

以上ハ古語拾遺等其他ノ古書記録ニ載スル製鹽ニ關スル事蹟ナレトモ其當時ノ鹽制トシテハ一
 モ見ルヘキモノナシ然レトモ中古ニ至リ鹽業次第ニ發達シ武門政治ニ至ルマデ製鹽ヲ以テ或ハ
 貢物トナシ又ハ供御トセラレタルコトハ歴史ノ證明スル所タリ

第二、封建時代ニ於ケル鹽制

建久中(西曆一二八六年)源頼朝幕府ヲ鎌倉ニ開キ武門兵馬ノ權ヲ掌握シ封建割據ノ基ヲ開クヤ爾
(去今六一九年前)後海岸ニ面スルノ各藩ハ其領土ノ境界ニヨリ領内ノ富殖ヲ計ルガ爲メ或ハ食鹽ノ軍事上ニ於ケ
 ル重要ノ產物ニシテ一朝有事ノ日ニ至リ之カ供給ノ途ヲ絶タンコトヲ恐レ資ヲ投シ其事業ヲ保
 護獎勵シ嚴格ナル制度ヲ立テタル者多カリキ然レトモ其制度ノ内容ニ至リテハ最モ區々ニシテ
 單ニ産業ノ保護政策トシテ之ガ制度ヲ立テタルモノアリ或ハ是ニ伴フニ年貢又ハ運上、冥加、分
 一、等種々ノ名目ノ下ニ徵稅ヲナシ或ハ納鹽ヲ命シタルアリ或ハ支那鹽鐵ノ制度ニ倣ヒタルモノカ
 專賣類似ノ制度ヲ設置シ來リタルモノアリ今茲ニ此等制度ノ詳細ハ知り得サルモ古書記録ニ散見
 スル談片零説及ヒ里老ノ口碑ニ傳フルモノヲ綜合シテ其概畧ヲ説述シ後日ノ參考ニ資スベシ

一、仙臺(陸前) 相馬(磐城) 南部(陸中)及八戸藩(陸奥)時代ニ於ケル鹽制

置藩當時ニ於ケル仙臺、相馬、南部、八戸ノ各藩ハ何レモ製鹽事業ニ關シテハ專賣の事業ト
 シテ嚴格ナル藩制ノ下ニ之カ監視保護ヲナシスヘテノ製鹽ハ補償金ヲ交附シテ全ク之ヲ藩廳
 ニ納附セシメ更ニ之ヲ拂下クルコト、ナセリ而シテ南部及八戸藩ニ在リテハ比較的產額少ナ
 クシテ當時ノ狀況ヲ知悉スルニ難シト雖トモ仙臺、相馬ノ兩藩ニ在リテハ專ラ之ガ監視督勵
 ニ努メタルハ蓋シ疑フヘカラサルノ事實ナリ

A、製鹽ノ收納

製鹽事業ニ關スル制度慣習等ハ各藩同一ナラスト雖トモ仙臺藩及相馬藩ニ於テハ其管理方
 法酷似セリト謂フヘシ即チ兩藩トモ領内ニ於ケル鹽場所在ノ町村ニ鹽役人ヲ置キ且藩廳ヨ
 リ常時吏員ヲ派遣シテ製鹽場ヲ監視セシメ各製鹽場附近樞要ノ地ニ貯藏倉庫(御鹽藏)ヲ設ケ
 製鹽高ノ全部ハ嚴格ナル取締ノ下ニ於テ之ヲ收納セシメ製鹽者ノ自由賣買ハ之ヲ禁止シタ
 ルモノナリ今其製鹽收納ニ關スル手續ヲ左ニ掲ク
 イ、仙臺藩 ニ於テハ各製鹽場(釜場)ニテ五日乃至十日間製造シタルモノヲ裸体ノ儘
 ニ製造場内ニ蓄積セシメ充分冷却スルヲ待チテ釜釜(製鹽者ノ總代)及村役人并ニ藩廳ヨ
 リ常時出張ノ吏員立會シテ榊量ヲ俵裝トナシ之ヲ收納所(貯藏倉庫)ニ運搬セシメ再ヒ
 吏員立會榊取方(收納スヘキ鹽ノ内若干俵ヲ取出シ之ヲ榊量スルヲ云フ)ヲ行ヒ若シ榊量
 不足スルトキハ之ヲ追徵シ過剩ナルトキハ其儘收納ヲ了セリ

又越鹽ト稱シ凶年ノ準備ニ充ツル爲メ毎年一回乃至三回藩廳ヨリ船舶(御鹽船ト云フ)ヲ回送シ來リテ各製造場ヨリ直接ニ藩廳ノ特別指定倉庫ニ收納セシメタリ此場合ニ於テハ一俵二斗五升ノ計算ヲ以テ二斗六升入ノ俵裝ヲ命シタリ是レ翌年ニ持越スヘキヲ理由トシ減量トシテ一升ヲ附加セシメタルモノナランカ

ロ、相馬藩 ニ於テ執行シタル製鹽ノ收納及拂下手續ハ概テ仙臺藩ト同一ニシテ稍々簡單ナリシカ如シ一例ヲ舉クレハ製鹽ノ收納時期ヲ毎月三回ト指定シ製鹽者ヲシテ俵裝シタル製鹽ヲ悉ク貯藏倉庫ニ運搬セシメ搬吏及村役人立會シテ之ヲ検査シ收納ヲ了セリ

B、製鹽ノ拂下

イ、拂下ノ時期及數量 製鹽拂下ニ關シテハ舊仙臺藩ニ於テハ領内各村ノ人口ニ依リ一年一人ニ付需用高一斗乃至一斗四升(各村ニ依リ等差アリ)トシ之ヲ春秋二季ニ分チテ交附セリ

ロ、拂下代價 拂下代價ハ買取價格ノ倍數則チ銀一步ニ買收シタルモノハ二步ニテ拂下ケヲナシタルモノナリ

ハ、拂下ノ手續 其拂下ノ手續ハ他ノ租稅ト同シク村役人ヲシテ之ヲ取扱ハシメ而シテ各市街地ニハ鹽問屋ナルモノヲ置キ醬油製造、魚類鹽藏其他人民不時ノ需用ニ應セシメタリ鹽問屋ニハ藩廳ヨリ豫メ通帳ヲ下附シ隨時拂下ヲ爲シタリ

C、製鹽事業ノ監視 製鹽事業ノ監視方法トシテ舊仙臺藩ニ行ハレタル二三ノ例ヲ舉クレハ

- イ、鹹水ノ検査 藩廳ヨリ吏員ヲ派遣シ製鹽期節ハ毎日ノ鹹水採取高ヲ調査シ之ヲ記帳シ置キ後日製鹽高ノ當否ヲ甄別スルノ材料ニ供セリ此方法タル專ラ鹽田ニ行ハレタルモノニシテ毎日ノ天候如何ニ依リ一定ノ標準ヲ得難シト雖トモ他年ノ經驗上頗ル優力ナル効果ヲ認メタルカ如シ假令ハ何月何日ヨリ何日迄ノ天候ハ最良ナリ故ニ鹹水採取高ハ何程ト定メ又何月何日ハ天候不良ニ付鹹水採取高ハ何分ト指定シ之ヲ記帳シ置クカ如シ
 - ロ、製鹽數量ノ指定 煎熬釜ノ大小ニ依リ釜毎ニ一晝夜ニ生産シ得ヘキ鹽ノ數量ヲ指定シ釜ノ使用日數ニ應シテ製鹽高ヲ算定シ強制的ニ之ヲ收納セシメタリ故ニ時トシテ製鹽高ニ不足ヲ生スルコトアリ此場合ニ於テハ密カニ他ノ製鹽場ヨリ借入レ補充スルコトアリ或ハ代金ヲ以テ不足額ヲ辨償スルコトアリキト云ヘリ
 - ハ、煎熬釜ノ監督 煎熬釜ヲ使用セサルトキハ藩吏ニ於テ之ニ封印ヲ施シ製鹽者ヲシテ自由ニ煎熬スルコトヲ得サラシメタリ
 - ニ、製鹽ノ監視 製造場内ニ蓄積中ノ裸體鹽ニ對シテハ毎日藩吏出張シテ當日ノ生産高ト共ニ紋形ノ印影ヲ押捺シテ自由ニ俵裝又ハ運搬スルコトヲ得サラシメタリ
- 若シ密ニ市場ニ搬出スル者アルトキハ現品ヲ沒收シ將來製鹽ニ從事スルコトヲ得サラシメ甚シキニ至リテハ其町村ヨリ放逐セラル、コトアリタリ
- D、鹽業ノ保護 鹽業ニ關シテハ藩廳ハ常ニ保護獎勵ノ政策ヲ實行シテ頗ル斯業ノ發達ヲ企圖シタルモノチリ今其二三ノ例ヲ掲グレハ左ノ如シ

イ、燃料ノ供給

各製鹽者ノ使用スル燃料ハ藩廳ニ於テ毎年其領内ニ於ケル山林中伐採スヘキ地域ヲ指定シテ特ニ廉價ヲ以テ之カ供給ヲナサシム

ロ、堤防ノ修理

鹽堤ニ付テハ領内ヨリ人夫ヲ徴シ或ハ藩費ヲ以テ之カ開築若クハ修理ヲナシ敢テ民間ノ爲スカ儘ニ放任スルカ如キコトナシ

ハ、補償金ノ下附

各鹽業者ニ對シ藩廳ヨリ其生産高ノ多少ニ應シテ補償金(買收金)ヲ下附シタルモノナリ其方法タルヤ毎年二期トナシ而シテ七月十二月ヲ以テ決算セリ或ハ三、四、九、十二月ノ四期ニ決算セシコトアリ而シテ決算期ニ至レハ更ニ藩廳ヨリ吏員ヲ特派シ(或ハ常時出張員ヲシテ取扱ハシメタルコトアリ)豫テノ燃料其他ノ立替金ハ總テ製鹽買收金ノ内ヨリ扣除シ其減額ヲ下附シタルモノナリ
交附金ハ年ノ豊凶製鹽ノ品質ニ依リ一定セスシテ毎年十二月ノ決算期ニ於テ當時ノ市場價格ヲ參酌シ翌年分ノ買收價格ヲ定メ之ヲ標準トシテ翌年中製鹽ノ多少ニ應シテ補償金ヲ下附シタルモノナリ今一二ノ例ヲ示スコト左表ノ如シ

産地名	數量	平年買收價格
牡鹿郡渡波	一俵(三斗入)	六百文

桃生郡東名	一俵(同上)	六百文
本吉郡階上	三俵(二斗五升入)	銀一歩
上閉伊郡大槌	七俵(二斗入)	銀一歩

E、製鹽方法

製鹽方法ハ左ノ三種ニシテ各藩トモニ之ヲ保護シ産額モ今日ニ比スレハ多數ナリシヲ想像セラル、ナリ

イ、鹽田法 鹽田ヨリ鹹水ヲ採取スルモノ

ロ、撒布法 海水ヲ砂上ニ撒布シ鹹水ヲ採取スルモノ

ハ、直煮法 海水ヲ汲ミ取り直ニ煎熬スルモノ

右第一、二ヲ鹽場ト稱シ第三ヲ清水釜ト云ヘリ

F、鹽田反別

藩制當時ニ於ケル鹽田及ヒ製造釜數、生産額、貯藏倉庫數等ハ舊記ニ存スルモノナク今日之ヲ確知スルニ由ナシト雖トモ概ネ左ノ如ク推知スルヲ得ルナリ

鹽田所在地	釜數	貯藏倉庫數	收納高
本吉郡鹿折	一二	三	棟

同	内ノ脇	九	三	棟	五萬七千俵(三斗入)
同	階上	六	三	棟	
同	杜鹿郡、流レ				
同	渡波				參拾萬俵(三斗入)
同	長塚				
桃生郡	東名	五		棟	二萬俵(三斗入)

以上列記シタル箇所ハ仙臺領ノ一部ニシテ尙ホ各地ニ散在スル鹽濱及清水釜ヨリ産出スルモノ尠カラス或ハ云フ仙臺藩ニ於テ毎年收納セシ鹽ノ數量ハ約六十萬俵(一俵三斗又ハ二斗五升入)ナリキト是レ固ヨリ概數ニ過キスト雖トモ藩制當時ニ於テ製鹽ニ關係シタル老翁ノ一話トシテ稍々信ヲ措クニ足ル

二、加賀藩(加賀、能登、越中)時代ニ於ケル鹽制

石川富山二縣ヲ統轄スル加賀藩時代ニ於テハ夙ニ加賀、能登兩國ノ産鹽ニ對シ殆ント專賣ニ類似スルノ制度ヲ布キ以テ廢藩當時マテ持續シ來レリ之カ制度ノ沿革ハ具サニ記録ノ存スルモノナクシテ其精細ヲ識ルヲ得サルハ他ノ各藩ト相同シト雖トモ之ヲ推スルニ徵稅ノ目的ヨリハ寧ロ産鹽ノ保護政策トシテ之カ制度ヲ立テタルモノ、如シ今其制度ノ一斑トシテ産額最モ多キ能登鹽ニ付記録及ヒ口碑ノ傳フル處ヲ掲記スルコト左ノ如シ

A、製鹽ノ起源及ヒ變遷

能登鹽ニ關スル往古ノ制度ハ之ヲ詳知スル能ハサルモ凡ソ二百五十年前加賀藩三世ノ主前田利常能州ノ海潮ハ鹹分強クシテ製鹽ニ適シ且山林多クシテ燃料豊富ナルヨリ鹽田開墾ヲ獎勵シ生計ニ苦シミツ、アル細民ヲ驅リテ製鹽ノ事業ニ從ハシメ貸スニ米ヲ以テシ濟スニ鹽ヲ以テシタルニ肇マル爾來四世前田光高五世前田綱紀等亦父祖ノ遺業ヲ繼キ大ニ之ヲ經營シ幕府ノ末造ニ至ルマテ累世之カ獎勵ヲナシタルモノナリ

B、機關

加賀藩時代ニ於テ製鹽ニ關シ如何ナル機關ヲ置キ如何ナル施設ヲナシタルヤヲ見ルニ大要左ノ如シ

イ、御鹽裁許所 七尾及宇出津ノ二ヶ所ニ御鹽裁許所ナルモノヲ置キ收納及ヒ販賣ニ關スル事務ヲ處理シ及製鹽ニ關スル訴訟ヲ裁判セリ

ロ、其他ノ役員 鹽ノ收納、販賣其他ニ關シテハ左ノ役員ヲ置キ能登鹽ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セリ

- 1、鹽奉行 常ニ藩廳ニ勤務シテ鹽ノ收納、販賣其他一切ノ事務ヲ統督シ毎年製鹽地各村ヲ巡回シテ御鹽裁許人以下ヲ指揮監督ス
- 2、郡奉行 常ニ藩廳ニ勤務シテ其管轄區域内ニ於ケル鹽ノ收納、販賣其他ニ關シ參與シ鹽奉行ト共ニ事務ヲ分掌ス

- 3、御鹽裁許人 鹽奉行ニ隸屬シ七尾及ヒ宇出津ノ御鹽裁許所ニ勤務シ收納、販賣其他ノ事務ヲ處理ス
 - 4、小代官 鹽奉行ニ隸屬シ御鹽裁許所及ヒ製鹽地ニ勤務シ收納、販賣其他ノ事務ヲ處理ス
 - 5、製鹽吟味人 鹽奉行ニ隸屬シ常時製鹽地ヲ巡視シテ製鹽ノ密賣買ヲ取締ルモノナリ以上共ニ藩士ヲ以テ之ニ任シタリシモノナリ
 - 6、製鹽取締役 ハ製鹽ヲ監督シ及製鹽者ト當局藩吏トノ中ニ在リテ收納及販賣ニ關スル事務ヲ掌ルモノニシテ扶持人、十村役(扶持人、十村役ハ莊屋又ハ名主ト同シ)ヲ以テ之ニ任シタリ
 - 7、製鹽相見役 製鹽取締役ト共ニ收納及ヒ販賣ニ關スル事務ヲ掌リ貯藏倉庫ノ開閉ニ立會スルモノニシテ肝煎役専ラ之ニ任セリ
 - 8、榭量役 製鹽俵裝ノトキ榭量ノコトヲ掌ルモノニシテ榭量上特別ノ技能アル者ヲ以テ之ニ充テタリ其員數ハ製鹽額ノ多寡ニヨリ每村一名乃至數名ヲ置ク而シテ榭量役ニ撰任セラレタルモノハ撰任後其ノ所轄御所裁許所ニ至リ宣誓スルノ制ナリキ
- 榭量役ノ所持スル榭ハ特ニ嚴重ノ取締ヲ爲シタルモノ、如シ若シ之ヲ毀損スルトキハ取締役ヲ經テ榭取役ヨリ所轄御鹽裁許所ニ届出テ之ヲ返納シ御鹽裁許所ハ其毀損ノ始末ヲ調査シタル後代榭ヲ御作事所ヨリ交付シタルモノナリ

9、鹽問屋 藩命ヲ承ケテ鹽ノ販賣ヲ爲スモノニシテ地方富豪ノ者ニシテ資力確實ナル者ヲ以テ之ニ任シタルカ如シ

0、鹽業ノ保護

イ、資金ノ貸付

資金ノ貸付ハ製鹽收納ニ對スル賠償ニシテ鹽業獎勵ノ手段タリシナリ故ニ一般製鹽者ニ之ヲ貸付セリ其大略ヲ述フレハ其資金トシテ借入ルヘキハ玄米ニシテ前年中ニ於テ之カ借入レヲ爲シ翌年ノ生産費其他ニ充ツルモノニシテ製鹽者ハ前年中ニ於テ翌年自己ノ製鹽高ヲ豫定シ資金ノ貸付ヲ出願シ製鹽九俵(五斗入)ニ付玄米一石ノ割合ヲ以テ貸付ヲ受クルモノナリトス而シテ其借入レタル玄米ハ翌年ニ至リ收納シタル製鹽ト差引計算ヲ爲シ返納スヘキ制度ニシテ計算上收納シタル製鹽ノ借入資金ニ對シ過剩ヲ生スルトキハ追鹽手米ト稱シ製鹽八俵乃至八俵半ニ付玄米一石ヲ給付シテ賠償スルモノナリ

ロ、貸付方法

其貸付方法ヲ左ノ如クニシテ廢藩置縣ニ至ルマテ之カ存續ヲナシタルモノナリ

- 1、製鹽ハ春三月ヨリ始業シ冬十月ニ至リテ止業ス
- 2、玄米壹萬貳千九拾石餘ヲ毎年製鹽仕入米(鹽手米トモ云フ)トシテ製鹽者ニ貸付ス
- 3、仕入米ノ貸渡及返納ハ玄米壹石ニ付鹽九俵(五斗入)ト定メ貸付ス但シ一番上納ノ者(仕入米上納濟ノモノ即チ差引計算ノ上收納高ニ過剩アルモノ)ニ對シテハ玄米壹石ニ

付鹽八俵又ハ八俵半トシ鹽ノ豊凶ニ依リ玄米ヲ支給ス

一俵ノ鹽量ハ五斗ト爲シ一ヶ年ノ減量ヲ三升トシ製鹽ヲ吟味シ納付月日製鹽者ノ住所氏名ヲ木札ニ記載シテ俵入シ一俵ノ量目ヲ凡十三貫二百目トス

±、製鹽者ノ請願ニ依リ貸釜ヲ許ス其代銀ノ返納ハ十三ヶ年賦ニシテ完納ニ至レハ其ノ釜ヲ下付ス但シ釜ヲ二種トシ一ハ形太釜ニシテ代錢六貫文(六圓ニ當ル)一ハ淺釜ニシテ代錢四貫文(四圓ニ當ル)ナリトス

D、製鹽ノ收納

能州ニ於ケル產鹽ニ對シテハ前項ニ於テ説述シタルカ如ク資金貸付ノ方法ヲ設ケテ之ヲ奨勵シタリト共ニ其製鹽ハ總テ之ヲ收納セシメ製鹽者ノ自由販賣ハ之ヲ嚴禁セリ

イ、收納ノ期日

製鹽收納ニ付テハ各製鹽村落ヲ通シ毎月二回日ヲ定メテ其他ノ貯藏倉庫ニ收納スルヲ定例トセリ

ロ、收納ノ監督

前項ノ製鹽ヲ收納スルニハ製鹽相見役、小代官、組頭、桝取役等毎製造場(釜屋)ニ出張シ製鹽相見役、組頭ノ立會ヲ得テ桝取役其製鹽ヲ桝量シ人夫ヲ督シテ俵裝シ直ニ之ヲ貯藏倉庫ニ收納セシム

ハ、收納ノ俵裝

製鹽ヲ俵裝スル場合ニハ納附月日、製造者ノ住所氏名ヲ木札ニ記載シ每俵之ヲ俵入スルヲ定例トセリ

俵裝ニ要スル藁俵及繩ハ製俵者ノ自辨トシ其價ヲ賠償セズ俵裝ニ使役スル人夫ノ勞銀、運搬費(製造場ヨリ貯藏倉庫マテノ)等ハ製鹽者及ヒ其ノ從業者等ヲシテ之ニ當ラシムルカ故ニ是又其ノ勞銀ヲ賠償スルコトナシ

ニ、貯藏倉庫

貯藏倉庫ハ常時倉番人ヲ置キ之ヲ監視セシメ收納、拂出ノトキニアラサレハ之ヲ開扉スルコトナシ而シテ之ヲ開扉シ又ハ閉扉スルニハ小代官、製鹽相見役其ノ他組頭ノ立會ヲ要シ倉庫ニハ小代官、相見役ノ相封ヲ施シ鍵ハ番人ニ於テ製鹽取締役ノ責任ヲ以テ保管シタルカ如シ

貯藏倉庫ニ收納シタル鹽及拂出ヲ爲シタル鹽ノ俵數其ノ他ニ關シテハ製鹽取締役及製鹽相見役ノ手許ニ帳簿ヲ設備シテ其ノ收納ヲ明ニシタリ貯藏倉庫ハ藩費ヲ以テ建築及修繕ヲ爲シタルモノニシテ産額ノ多寡ニ依リ適宜之ヲ各町村ニ配置セリ而シテ鹿島及鳳至、羽咋三郡ニ於ケル倉庫數ハ明ナラサルモ珠洲郡ニ在リテハ其ノ數九十棟以上ニ達シ廢藩ノ際之ヲ製鹽者ニ下附セリ

E、産鹽額

加賀藩ニ於テ收納シタル能登鹽ノ數量ハ天候ノ良否ニ因リ一定セサルモ之ヲ記録ニ徴スレ

ハ左ノ如シ

イ、珠洲、鳳至二郡ニ於ケル最高最低ノ産額

1、天候良好ニシテ製鹽額ノ最モ多キ年

四十三萬五千三百八十三俵 (五斗俵)

丙

三十一萬七千六百四十九俵

珠洲郡

十一萬七千七百三十四俵

鳳至郡

2、天候不良ニシテ製鹽額ノ最モ少キ年

二十六萬二千六百五十三俵 (五斗俵)

丙

十六萬八千八百六俵

珠洲郡

九萬三千八百四十七俵

鳳至郡

ロ、羽咋、鹿島二郡ニ於ケル平年産額

三萬七千八百五十一俵 (五斗)

丙

二萬九千四百十俵

羽咋郡

八千四百四十壹俵

鹿島郡

前述ノ如ク加賀藩ニ於テ收納シタル鹽ハ年々同一ナラサルモ最多額四十七萬三千二百三十四俵最少額三萬六千五百七十七俵ノ額ニ達ス

F、賠償、販賣價格

賠償ヲ與ヘテ收納シタル産鹽ハ前述セシ販賣機關ニヨリ官業的ニ之ヲ販賣セリ
藩廳ニ於テ製鹽者ニ對シテ幾何ノ賠償ヲ爲シ又需要者ニ對シテ幾何ノ價格ニテ之ヲ販賣シタルカヲ見ルニ舊藩時代ニ於ケル最近ノ賣渡直段ハ製鹽地庫元渡一俵(五斗)ニ付代價銀八匁五分(八十五錢ニ當ル)ニシテ又製鹽者ニ對スル賠償ハ前述セシ如ク資金貸付ノ方法ニ依リ製鹽九俵(五斗俵)ニ付玄米一石ヲ給付スルヲ以テ定則ト爲シタルモ別ニ製鹽八俵乃至八俵半ニ付玄米一石ヲ以テ賠償スルノ制ヲ置ケリ

G、販賣方法

收納シタル鹽ノ販賣制度ニ關シテハ明瞭ナラスト雖トモ鹽問屋ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシメタルモノ、如シ其一般ヲ舉クレハ左ノ如シ
收納シタル鹽ヲ買受ケムトスル者ハ必ス其ノ最寄鹽問屋ニ就キ代金ヲ納付セサルヘカラス鹽問屋ハ其ノ代金ヲ領收シテ領收證ヲ交付シ及ヒ之ト同時ニ賣渡通知書ヲ作り庫元ニ通知ヲナシ拂出ヲ爲サシム
庫元ニ於テ前項通知ニ依リ拂出ヲ爲シタルトキハ買受人ノ氏名拂出數量其他ヲ帳簿ニ記入シタル後更ニ之ヲ鹽問屋ニ通知シテ其ノ符合ヲ認メタルモノ、如シ

地方消費ニ便ナラシムル爲メ能登四郡ノ各村落ニ小賣人ヲ置ク其許否ハ所轄御鹽裁許所ニ於テ之ヲナセリ
鹽問屋ノ賣渡シタル鹽ハ毎月其ノ販賣高ヲ取調ヘ書面ヲ作り製鹽取締役ヲ經テ毎月届出ヲ爲サシメタリ

鹽問屋死亡シ又ハ事故ノ爲メ辭退シタルトキハ製鹽取締役ヨリ其旨ヲ鹽奉行ニ申告シ及其ノ代員ヲ豫選シテ任命ヲ申請スルノ制ナリキ而シテ鹽奉行ニ於テ前項ノ申請ヲ受クルトキハ銚衡ノ後之ヲ採用ス採用セラレタル鹽問屋ハ最寄御鹽裁判所ニ出頭シテ宣誓シタル後就職スルヲ例トセリ

三、大村藩(肥前) 時代ニ於ケル鹽制

舊大村藩ニ於ケル鹽制ハ稍々專賣類似ノ制度ヲ設備シタルカ如シ然レトモ其制度ノ起因沿革等ハ何等記録ノ徵スヘキモノナク只舊藩士及古老ノ口碑ニ傳ハルモノヲ綜合シテ其ノ概畧ヲ推知セシニ止ル

制度

A、製鹽事業ノ獎勵 藩廳ハ藩内食鹽ノ供給ヲ他藩ニ仰クノ不便不利ナルヲ察シ資金ヲ貸與シテ鹽田ヲ開拓セシメ製鹽業者ノ資本缺乏ナルモノニハ資金又ハ物品ヲ給シ以テ製鹽事業ヲ獎勵セリ

鹽田ノ開拓ハ百餘年乃至五十餘年前ニシテ東彼杵郡川棚村百津新鹽田ノ如キハ去今五六十年前藩ヨリ數萬金ヲ百津ノ住民ニ貸與シ數年間ニ開拓ノ功ヲ竣リタルモノナリト云フ舊藩時代ノ鹽田ニシテ現今ノ反別製鹽高ハ左ノ如シ

鹽田所在地	反	別	石	數	斤	數
東彼杵郡川棚村百津		町反畝歩 一四・一〇〇		五、三一四		
同 宮 村		七〇〇		二四〇		
西彼杵郡長與村		三・七九五		七六〇		
同 時津村		一一・二五〇		一、八五〇		
同 大串村		一・二二八		八三五		
合 計		三〇・八五三		八、八九九		

B、製鹽ノ收納

イ、收納鹽ノ數量 前項資金ノ利子(又ハ小作料)トシテ年々一定量ノ製鹽ヲ納付セシム其量所ニ依リ異同アルモ鹽田一町ニ付小俵(十五斤入凡)千五百俵乃至二千俵ナリキト云フ而シテ右ノ外更ニ藩ハ年々必要ナル數量ヲ見積リ其納付ヲ命シタリ其數量タル年ニヨリ異動アリタルカ如シ蓋シ藩士ノ需用高ヲ見積リ定メタルナリト云フ
ロ、收納代價 收納代價ハ製鹽ニ關スル費用ニ幾分ノ利益ヲ計算シタルモノニシテ凡ソ市

場ノ相場ヨリ二割引ナリキト云フ

ハ、滯納處分 藩廳ニ納付スヘキ製鹽ノ納付ヲ怠リタルモノアルトキハ製鹽者ノ採取セル鹹水ヲ差押ヘ吏員立會製鹽シ之ヲ納付セシム若シ鹹水貯藏ナキモノハ土地ヲ以テ擔保ニ提供セシメ以テ其納付ノ猶豫ヲナシ又無資力者ナルトキハ第三者ヲシテ代納セシメ鹽田ノ小作權ヲ第三者ニ讓渡セシメタルコトアリキト云フ

C、製鹽ノ貯藏 藩廳ニ於テハ軍用トシテ藩内ノ消費高三ヶ年分ハ常ニ倉庫ニ貯藏シ順次賣却シタルモノ、如シ

D、製鹽ノ販賣 收納シタル製鹽ハ軍食用トシテ貯藏スルノ外ハ收納代價ニ一割ノ利ヲ加ヘ主トシテ藩士ニ分配販賣シ其餘ハ一般ニモ販賣シタルモノ、如シ

其他隣藩等ニ事ヲ生シ軍備ノ必要アルトキハ直チニ製鹽ノ販賣ヲ禁止シ總テ藩ニ買收シ更ニ人民ノ需用ニ供スル分ニ限り排下ヲナシタルモノナリ製鹽者ハ前記收納セラレタル殘鹽ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ルモ藩外ニ移出販賣セントスルモノハ許可ヲ受クルヲ要シ又移出高モ藩ヨリ制限セラル、コトアリ(一説ニハ各鹽田ノ販賣區域ヲ定メ互ニ相犯スコトナキヲ期セシメ若シ禁ヲ犯シテ密賣スルモノハ其鹽ヲ沒收シタルコトアリキトモ云フ)

E、製鹽ノ監督 藩ニ於テハ物産方(或ハ國產方トモ稱ス鹽紙、木炭其他ノ國產製造ヲ獎勵監視スル稱ナリ)ト稱スル係リ吏員ヲ設ケ本官衙ヲ藩所在地ニ置キ主要ナル鹽田所在地ニハ事務所ヲ分設シテ常詰吏員ヲ派シ其他ハ製鹽又ハ必要ナル時期ニ係員出張シテ製鹽ノ獎勵、監督、收納、資金、貸與等ニ關スル事

務ヲ處理シタリ

製鹽高ハ各釜毎ノ主頭ヨリ日々係吏員ニ申告シ通帳ニ記入ヲ請ヒ其製鹽數量ヲ明ニセリ

因ニ記ス百津鹽田ハ釜屋ヲ五ヶ所ニ設ケ各一ヶ所ノ從業ハ約五十人ニシテ每箇所ニ主頭ナルモノヲ設ケ製鹽業ヲ主宰セシメキト

四、山口(周防、長門)岩國藩(周防國玖珂郡)

舊藩時代ニ於ケル山口藩及ヒ岩國藩ハ防、長二州ヲ領有シ十州鹽田ノ一タリ置藩當時ハ主トシテ鹽業保護ノ政策ヲ採リ僅ニ鹽田ニ對シテ輕稅ヲ賦課スルノミニシテ加賀藩或ハ仙臺藩ニ於ケルカ如キ專賣類似ノ制度ハ之カ實施ヲナシタルコトナキカ如シ然レトモ其保護獎勵ノ蹟頗ル見ルヘキモノアリ左ニ之ヲ記述スヘシ

A、製鹽ノ起源及變遷

當藩製鹽ノ起源タル寶曆二年(西曆一七五一年 去今一五三年前)毛利家ノ宰臣堅田安房防州三田尻鶴濱ニ鹽田ヲ開キシヲ以テ其濫觴トナス然レトモ其後鹽業ニ從事スルモノナクシテ遂ニ中絶シタリシカ毛利重就侯之カ再興ヲ計レリト云フ此侯老年ニ迫ヒ養老祿五千石ヲ別チテ自ラ三田尻ニ退休シ職ハラ勤儉シテ其祿ヲ儲積シテ一方ニ鹽田ヲ開拓シ一方ニ森林ヲ茂殖シ其間鹽田ニハ輕稅ヲ賦課シ其徵收セル税金ハ撫育金ト名ケ亦舉ケテ人民産業ノ資本ニ充テシムルノ法ヲ立テ以テ今日ノ基ヲ開キシモノナリト云フ

B、鹽業ノ廢頽、廣ク挽回ノ策ヲ求ム

明和ノ初年(西曆一七六四年
去今一四一年前)藩主大ニ鹽業ヲ獎勵シ鹽田ヲ開拓セシト雖トモ數年ナラスシテ鹽業大ニ衰微シ之ヲ營ムモノ大概產ヲ落シ家ヲ破ルニ至リ鹽稅ノ收納モ完クスル能ハス因テ官衙ヲ中ノ關ニ設ケ吏ヲ置キ救濟ヲ謀ラシム又其地ニ富閭芝居ヲ許シ遊女屋ヲ公許シ諸人ヲシテ來リ住セシム更ニ其効ヲ奏セス益々困弊シ鹽民活計ニ苦ミ遂ニ其田ヲ遺棄シテ遁逃シ又ハ貢賦ヲ爲サス罰ヲ得ルモノアルニ至ル官其田ヲ收メ人ヲ募リ資財ヲ給シ其業ニ就カシム然レトモ期年ナラスシテ又窮乏シ鹽戶逃亡愈々甚タシ鹽田日ニ荒蕪シ多クハ蘆葦ノ場トナル復其術ヲ施スニ由ナシ是ニ於テ令ヲ國內ニ下シ廣ク之ヲ救フノ策ヲ求ム

C、所謂三八法ノ建言

時ニ田中藤六ナル者アリ同郡古濱ニ住シ鹽業ヲ以テ業トナシ常ニ斯業ノ振ハサルヲ憂ヒ焦心苦慮日夜挽回ノ策ヲ謀リ心算已ニ定マルノ時ナルヲ以テ斷然意ヲ決シ書ヲ郡宰ニ出ス郡宰其書ヲ收メ直ニ之ヲ藩廳ニ致ス是レ十州(播、三備、藝、防、長、阿、讚、豫)鹽田同盟ノ胚孕スル所ニシテ我國ノ鹽制ヲ知ラント欲スルモノ、注意スヘキ要項タリ其建言ニ曰ク

- 一、御國中諸濱一統三月朔日ハ業始八月晦日限業止候事
- 一、於諸濱大濱小濱共現土地半方宛日換ニ業濱仕候事
- 一、鹽濱家業萬端法度相立可申候自然相背候者過料ノ出銀相窮メ申候事
- 時ニ藩廳ハ藤六ノ建言スル所ハ權賣法ニアリトナシ吏ヲシテ之ヲ推問セシム難詰具サニ至

ル藤六之ヲ辨スルコト甚タ明カナリ難者曰ク終年業ヲ營ミ全田ヲ用ユト雖トモ猶收支相償ハスシテ窮狀斯ノ如シ然ルヲ半歲ヲ休ミ半田ヲ用ヒント欲ス此レ何ソ此衰頽ヲ救フヲ得ンヤト曰ク方今昇平二百有餘年鹽田ノ増加スル倍蓰ノミナラス爲メニ需用供給其權衡ヲ失フ是レ皆衰頽ヲ致ス所以ナリ因テ古今ヲ參酌シ彼是ヲ計較シ限月換持、全田區劃ノ法ヲ設ケテ之ヲ救フノ外途ナキナリ此法タル半歲業ヲ休ミテ半歲業ヲ營ミ全田ヲ區劃シテ隔日半田ヲ用フルニアリ然ルトキハ其營ム所ノ業ハ三分ノ二ヲ減スト雖トモ其製スル所ノ鹽ハ僅ニ三分ノ一ヲ減スルニ過キササルノミ難者曰ク鹽ハ人命ノ關ル所一日モ缺クヘカラサルノ要品タリ終歲製シ得ヘキモノヲ半歲休業ス全田ヲ使用スヘキニ半田ヲ使用ス是レ増加ノ道ニアラス是レ萬民ノ爲メニ計ルニ其宜ヲ得ト謂フヘカラス更ニ興隆スヘキノ良法ハナキヤ曰ク此法ヲ措テ別ニ維持スヘキノ術ハ之レナキナリ限月換持、全田區劃ノ法ヲ設クルハ全ク製鹽ヲ減スルノ旨趣ニアラス夫レ盛陽ノ候ハ乾燥炎熱製鹽ニ宜シキモ反之寒冷ノ候ハ氷雪霜露製鹽ニ宜シカラス強ヒテ終年製鹽ニ從事シ丁夫ヲ使役スルモ人力ヲ勞シ資金ヲ費スノミ又日々全田ヲ用ユルハ地力瘠セテ徒ニ冗費ヲ増スノミ故ニ營業限月ヲ定メ隔日半田ヲ用フルハ地力ヲ休養シテ冗費ヲ省減ス決シテ鹽額ヲ損斃スル道ニアラサルナリ難者又曰ク以上甚タ理アリト雖トモ然レトモ產額ヲ減スレハ鹽價ノ騰貴スルハ自然ノ勢ナリ苟モ鹽價騰貴スレハ鹽業ヲ爲スモノ其利ヲ得ト雖トモ細民其害ヲ受クルハ亦必然ナリ敢テ全計ナリト云フ能ハサルニアラスヤ曰ク今此法ヲ舉ケテ之ヲ天下ニ行フトキハ鹽價騰貴ノ憂ナク天下ノ

鹽戶又此ノ法ニヨリテ獨リ其利ヲ得ルノミナラス天下ノ人民皆其利ヲ得ヘキナリ何トナレハ鹽戶目下ノ情態タリヤ更ニ大計ニ通セサルカ故ニ徒ニ產鹽ノ多額ヲ貪リ人力ヲ徒勞シ地力ヲ薄瘠ニシ限リアル資金ヲ全ク消費スルヲ以テ常ニ資本ニ匱乏ヲ來タシ鹽價度外ノ低價ヲ示ストキト雖トモ久シキヲ支フルノ力ナク此間ニ常ニ鹽商ノ乘スル所トナリ鹽戶日ニ窮乏シ鹽商獨リ其間ニ利ヲ占ムルニ至ル加之鹽商ハ資力豊富ナルヲ以テ廉價ヲ以テ購ヒ得タルモノハ之ヲ倉庫ニ藏シ世間鹽ノ竭クルヲ待テ之ヲ出シテ販賣ス故ニ鹽商ノ鹽ハ日々騰貴シ鹽戶ノ鹽ハ益々低廉トナリ遂ニ天下ノ鹽田ヲシテ荒蕪タラシメ葦葦叢ヲ爲スニ至ル若シ天時ニ從ヒ地力ト人力トヲ休養シ浪費ヲ省キ資本ヲ足ストキハ斯ノ如キ情弊ヲ生スルコトナクシテ鹽戶富マン鹽戶富ムニ至ラハ鹽戶ト爲ルモノ多ク鹽田モ亦從ヒテ増殖シ荒蕪葦葦ヲ生スルノ憂ヒナシ又鹽ノ缺乏ヲ見ンヤ今此法ヲ一國ニ行ハハ一國ノ利トナリ天下ニ行ハ、天下ノ利トナル

D、防長二州鹽業者ノ同盟

是ニ於テ藩廳其建言ヲ採用シ封内ノ鹽戶ニ仕組法申合ノ達ヲ爲シ藤六ニ付スルニ一人ノ副ヲ以テシ先ツ其領内ニ其法ヲ行ハシム而シテ封外ニ至リテハ各藩制アリ之ヲ允許スルノ途ナキヲ以テ自己ノ意見ヲ以テ之ヲ遊説スルハ敢テ禁セサルナリト藤六其領内ノ沿海產鹽ノ地ヲ巡リテ具サニ利害ヲ指陳シ僅カニ二十日ヲ出テスシテ防長二州三百餘戶ト盟ヲ結フニ至レリ

E、十州鹽田同盟ノ濫觴

明和八年(西曆一七七一年)藤六播州及ヒ阿州以西ノ諸國ノ鹽戶ヲ遊説ス初メ異論蜂起シ拒ミテ納レズ然レトモ確固不撓百方辯解シ後翕然其說ニ服セシメ毎年播、三備、藝、長、防、阿、讚、豫十州ノ鹽戶安藝ノ嚴島備前ノ瑜珈山ニ會シ鹽務ヲ議シ誓約ヲ設ケ法度ヲ立ツ是レ十州鹽田同盟ノ濫觴タリ居ルコト數年ナラスシテ限月換持、半田區劃ノ法廣ク行ハレ衰頹忽チニ挽回シ鹽田大ニ闢ケ鹽戶悉ク富ミ十州ノ鹽戶増加スルコト實ニ二千二百五十有餘戶而シテ一戶製スル所年々千石ニ下ラサルニ至レリ

藩廳藤六ノ功ヲ賞シ大年寄役トナシ防長鹽田ノ規則ヲ整理セシメ大里正ノ格ニ班シ雙刀ヲ免シ姓氏ヲ稱セシム時ニ安永元年(西曆一七七二年)壬辰ナリ是レヨリ鹽業益々盛大トナリ寶曆明和ノ慘情其蹤ヲ絶チ般盛前代ニ並ヒナカリキ

因ニ記ス十州鹽田同盟ハ爾後時ニ消長興廢アリキト雖トモ安永ヨリ天明、寛政、享和、文化、文政、天保、弘化、嘉永、安政ヲ經テ廢藩置縣ニ至ルマテ殆ト百餘年ノ間其同盟ヲ繼續シ來レリ

五、赤穂(播磨) 姫路(播磨) 松山藩(備中)

藩制時代ニ於ケル赤穂、姫路ノ兩藩ハ鹽業ニ關シ運上銀若クハ製鹽ヲ藩主ニ上納セシメタリト雖トモ其製鹽販賣等ニ關シテハ多クハ鹽田所有者ノ隨意ニシテ單ニ鹽業保護ノ政策トシテ多少ノ干涉ヲナシタルニ過キス反之舊松山藩(今ノ高梁)ニ在リテハ其製造販賣等ニ關シ專賣

類似ノ制度ヲ立テ之カ取締ヲナシタルモノ、如シ然レトモ今日ニ至リテハ共ニ記録ノ微スヘキモノ乏シクシテ詳細精確ヲ期スルコト頗ル困難タリ

A、赤穂藩(播磨)

イ、製鹽ノ起源 赤穂製鹽ノ起源ヲ尋ヌルニ今ヲ去ルコト二百四十餘年前即チ正保二年淺野内匠頭長直常州笠間ヨリ封ヲ移シ當所ノ領主トナリ彼ノ大石良雄ガ其執政タリシ時ニアリ初メ前執政ノ時ニ當リ同領内ノ商賈十餘名商議ノ末鹽田開拓ノ事ヲ出願セシニ新規ノ事業ニシテ舊例ナキノ故ヲ以テ棄却セラレシカ良雄ノ藩政ニ參スルニ及ビ再ヒ出願セシニ良雄ハ該願書ヲ預リ置キ數年ヲ經ルモ何等ノ沙汰ヲ爲サ、ルニヨリ出願者ハ落膽ノ中ニ歲月ヲ送ル中十數年ヲ經過シタル後突然喚出ニ接シ出願シケルニ詎ソ料ラム此時ニ至リテ始メテ允許ヲ得ントハ乃チ他日良雄ニ其仔細ヲ問ヒケルニ良雄ノ曰ク余モ當時既ニ製鹽ハ當領内究竟ノ産業ナリト思惟シタリ然レトモ當時我領内ノ山林樹木ニ乏シク繼ヒ該事業ヲ起スモ薪材ノ價格忽チ騰貴シ其事業ハ遂ニ中途ニシテ廢滅ニ歸センコトヲ慮リ其ノ時ヲ以テ直チニ領内一般ノ山林ニ苗木ヲ植付ケシメ其ノ濫伐ヲ禁シタルノ結果今日ニ於テハ漸ク孰レノ山林モ樹木鬱蒼復タ前日ノ觀ニアラサルヲ呈セリ故ニ目的ノ如ク盛ニ製鹽事業ヲ經營スルモ最早薪材ノ缺乏ヲ感スルノ憂ヒナク將來ニ繼續スルヲ得ヘシ唯夫レ我意ヲ今日マテ披露セサリシ所以ノ者ハ領内一般ノ經濟ヲ知ラサルノ輩或ハ苗木ノ植付樹木ノ禁伐ヲ以テ單ニ少數ナル出願者ノ犠牲タラシムルカ如キ感念ヲ抱クモノアラハ多少ノ故障其間ニ生センコトヲ慮リタルニ由ルト云ヒキト是レノ赤穂鹽ノ創始ニシテ今以テ同地ノ美談トセリ

ラハ多少ノ故障其間ニ生センコトヲ慮リタルニ由ルト云ヒキト是レノ赤穂鹽ノ創始ニシテ今以テ同地ノ美談トセリ
ロ、制度 當藩内鹽田ノ開墾ヲ見ルヤ當時新開ノ鹽田ニハ四年間ノ連上年貢ヲ赦免シ五年目ヨリ上納スルコトトナシ且釜屋建築用ノ竹木ヲ給與スル等頗ル保護獎勵ニ力メタルモノナリ以下年代ニヨリ逐次掲記スヘシ

寛文十一年(西曆一六六一一年)初メテ鹽問屋ヨリ御禮銀(税金)ヲ納メシム

延寶六年(西曆一六七八年)藩廳藏米ヲ貸與シ其代金ハ逐次返納セシメ鹽業者ヲ保護ス

延寶八年(西曆一六八〇年)ニ至リ初メテ鹽奉行(赤穂鹽田一般ノ事ヲ管ス)ヲ置キ又鹽庄屋ヲシテ濱人中ヨリ鹽直師(一町村ヲ管ス)ナルモノヲ設ケ以テ鹽ノ賣買并ニ容量ノ正否等ヲ査

監セシメ鹽一俵ノ容量ヲ定ム

元祿十四年(西曆一七〇一年)領主淺野家滅亡スルヤ一時幕府ノ直轄トナリ一時代官ヲ置ク後永井

伊賀ノ守直敬ノ領トナリキ次テ森和泉守長直ノ領有スル所トナリ爾來漸次該業ノ發達ヲ

謀リ赤穂ノ名聲汎ク天下ニ顯ハル、ニ至リタルハ森家累代ノ措置其宜シキヲ得タルニ由ル

正徳三年(西曆一七一三年)江戸俵改メ役三人ヲ置ク

享保十年(西曆一七二五年前)問屋御禮銀ヲ十割増トナス

寶曆九年(西曆一七五九年前)領内尾崎、新濱ノ鹽戸困窮ニ頻シタルヲ以テ幕府ヨリ各問屋ヲ救助

ス

寶曆十三年(西曆一七六三年)幕府鹽改ヲナスコトナル鹽ハ朱印付
 文化六年(西曆千八百〇九年)各濱ヨリ難澁ニ付鹽製造制限ノ願出ヲナシ之ヲ許可ス又此歲古濱
 鹽賣捌方ヲ藩廳ノ收納米ニ準シ需用地大坂商人ニ入札拂ノ方法ヲ用ユ之ヲ御產物取扱ト
 云フ其制度ノ全文ヲ左ニ掲ク

鹽改定法ノ事

此度古濱鹽當分御產物御取扱被仰ニ付東西古濱鹽差鹽共改方定法左ノ通り申付候間左様相
 心得可申候

- 一、鹽支配人ト申者一村ニ兩人宛申付濱方取締申付候間諸事請差圖可申事
- 一、古濱鹽差鹽共東西共積出ノ節改申付候間西濱ニテモ改場所取繕可申事
- 一、右場所之儀下方ニ於テ取調可申出候事
- 一、榭目ヲ減シ貫目ヲ重ク仕掛ケ鹽ヲ致口者有之候ハ其濱人ハ不及申榭取之者釜焚可被
 行嚴科候事
- 一、東西共ニ積唱候三貫目俵以來ハ差留候間本俵仕立可申事
- 一、古濱鹽モ差鹽ニ准シ過料事
- 一、大坂入船ノ儀兼テ申渡置候通安治川ニ限り可申事
- 一、都テ鹽積船大坂入津之節早速送手形持參大坂役所へ相届可申事

- 一、鹽積登候船兵庫津ヨリ上大坂迄ノ内ニテ商内致度候共一先安治川へ入大坂役所へ入
 津相届候上請差圖取計可申事
 - 一、大坂表問屋仕切ノ節以來ハ落札ノ高正實納ニ相成候間是迄ノ三步通り掛リ物ノ儀ハ
 同所御役所へ納ニ相成候事
 - 一、鹽直成ノ上問屋へ積渡候上荷賃銀之義是迄ハ舟々ヨリ出來候得共以來ハ島鹽灘鹽並
 ノ通り買方ヨリ爲指出可申事
 - 一、御當地へ鹽調ニ參候他所船ノ義兼テ申渡置候通り壹割高ノ相場ヲ以テ賣買可致事
 但賣上高書附ニ致シ鹽支配人ヨリ御札座へ可指出候事
 - 一、鹽相場高下共即日御札座へ可相届候事
 - 一、都而鹽與賣地賣共支配人ヨリ月々員數書附御札座へ可指出候事
 - 一、古濱鹽差鹽兩製ノ儀前年之暮二十日限り取極來ル何歲七月迄ハ何鹽燒ノ段尙又七月
 以後暮迄之儀六月二十日迄ニ取極メ書附可指出候最モ東西共同様ノ事
- 鹽改方ヨリ大坂へ送之手形下書
- 古濱鹽之分
- 一、鹽石數何程 何村誰船榭目何升何合
- 右之通今何日積登候間着船ノ上御改御請取可被成候以上
- 年號月日
- 鹽改役 姓 名 判

大坂在役姓名

但指鹽ハ江戸タリトモ宛所ナシ

指鹽ノ分

一 鹽石數 榭目何程

鹽支配人

何 屋 誰

右之通り相改相違無之候以上

播州赤穂鹽改役人

姓 名 判

但買船ヨリ代銀ノ高書附請取御札座へ可指出候事

一、鹽積出ノ節送り手形認御目附之奥印取船人へ相渡最御船手口印請候事

一、走り掛リシ船二百俵三百俵ノ買鹽ハ不及案内鹽支配人罷出相改候上跡ニテ鹽目附へ相届可申事

一、加里屋鹽屋兩村共指鹽勝ニテ古濱鹽少ニ付指鹽ノ直組兩村中含ヲ取計可申事

一、灘五ヶ村ハ古濱鹽勝指鹽少ニ付五ヶ村申合取計可申候事

但東濱へモ古濱鹽直組可申達候事

一、古濱鹽内札モ大俵鹽之通月日何村誰ト申儀ニ依リ毎々入可申候改之節内札無之候ハ、過料出サセ問屋ヨリ御札座へ差出可申候預手形ニシテ相渡可申候大俵鹽過料ノ義モ以來ハ古濱鹽之通相心得可申候最濱方入用之節申出候ハ、銀札相渡可申候

一、濱人共近來奢侈ニ移リ濱稼ヲ怠リ候者有之趣相聞不呼ノ事ニ候以來早朝ヨリ罷出稼方致出精濱日雇之者私ヲ構不働ノ者有之候ハ、其段訴出可申事

一、御産物掛役筋へ是迄ノ音信贈答之義堅ク停止申付候

右二十三ヶ條ノ趣小前迄不洩様爲申聞堅相守可申候若於相背者嚴科ニ申付候左様相心得可申候以上

文化六巳十一月

文化九年(西曆一八一二年)各濱共冬期休業ノ法ヲ定ム

文化十年(西曆一八一三年)江戸廻鹽賣捌ノ方法ヲ諮問シ令シテ江戸表ニ於ケル差鹽賣捌方ヲ改

メテ入札拂ノ方法ヲ用ヒシメ併セテ當時賣捌方法ヲ改メントシ問屋及濱人ノ故障アリテ遂ニ果サズ

文政四年(西曆一八二一年)鹽賣捌方ヲ御産物取扱トナスコトヲ停止セリ

右ノ起源ハ今之ヲ詳ニスル能ハスト雖トモ口碑ノ傳フル所ニヨレバ藩廳ニテ鹽ニ關スル事務ハ御札座(藩札發行又ハ引換ヲナス所)奉行ノ預ル所ナルヲ以テ賣捌方ヲ斯ク取締リ御札座ニ於テ藩札發行ノ準備銀ヲ潤澤ナラシムル方法ナリト云フ其所以ハ御産物賣捌代銀ハ荷主販賣地ニ於テ直接之ヲ受取ルコトヲ得スシテ必ス御札座ニ回收シ御札座ヨリ藩札ヲ以テ荷主ニ下渡スヲ以テナリ

文政七年(西曆千八百二十四年)濱日履、釜燒其他國出稼ヲ差止ム

其他鹽田ノ開拓、製鹽事業ノ改良鹽業ノ取締燃料ノ供給等種々保護獎勵ノ餘ヲ取り天保弘化嘉永文治慶應ヲ經テ明治ノ初年ニ至リシガ廢藩置縣ノ爲メ社會組織ニ一大變事ヲ來タシ、ト共ニ鹽業モ亦舊制古法殆ント廢滅スルニ至レリ

B、姫路藩(播磨)

領内飾磨郡八木、白濱、英賀保ノ三村及印南郡ノ的形、北濱、大鹽等ハ舊姫路藩ノ領内ニシテ文化六年(一八〇九年)前ニ在リテハ江戸ニ鹽會所ヲ設ケタルモ其後大坂ニ之ヲ移セリ而シテ各地ニ御回鹽會所ヲ設ケ支役ヲ分派セシメテ事務ヲ取扱フ(支役ハ苗字帶刀御免ノ者ニアラサレハ許サス)而シテ支役ハ製鹽ヲ検査シ仕切帳ニ左ノ如キ捺印ヲ施シ大坂鹽問屋ニ送ラシム鹽問屋ハ運賃ト口錢トヲ引去リ其代金ヲ鹽會所ニ上納シ鹽會所ハ奉行詰メ居リ事務ヲ取扱フ



其代金ハ鹽會所ヨリ藩ハ運上銀ト帆別銀(現今ノ出港税ノ如キモノカ)ヲ引去リ總テ藩札ニ換ヘ大庄屋へ交付ス大庄屋ハ御買上鹽代引渡帳ニヨリ鹽業者ニ下渡ス

問屋ニ送ラサル製鹽ハ藩ニ於テ左圖ノ如キ鹽賣札ナルモノヲ或特定ノ者ニ交付シ其者ヲシテ地方ニ販賣スルノ特權ヲ有セシム若シ他藩ニ行商スル場合ハ豫メ届出許可ヲ受ケシムルト共ニ藩ハ他藩ニ通牒シテ其藩内ニ御觸ヲ出サシメタリ



右ハ明治維新迄繼續シテ大ナル變革ナカリキト云フ

C、松山藩(備中)

イ、鹽田ノ開設 當國松山城主(今ノ高梁)水谷左京亮勝宗領内製鹽ノ場所ナク當時徳川初代ニ當リ全國未タ全ク平定セス一朝有事ノ場合ニハ之カ供給ノ途ナキヲ慮リ且ツ一面鹽ノ價格非常ニ高價ナリシヲ以テ寛文六年(西曆一六六二年)字外區ニ延寶三年(西曆千六百七十五年)字押山ニ鹽田開設ノ工事ヲ起ス是レ當領内鹽田開設ノ嚆矢タリ

ロ、制度 一種ノ專買トモ見ルヘキ制度ニシテ藩主ハ一定ノ工賃ヲ支給シ製鹽ノ全部ヲ收納シ之ヲ松山ニ輸送シ城下ノ士民ニ賣下ヲナスノ制ナリキ然レトモ其初メ産額頗ル僅少ニシテ領内ノ需用ヲ充タスニ足ラサリシカ數十年ヲ經過スルニ從ヒ鹽田次第ニ増加シ産出高モ亦之ニ準シテ増加セシヲ以テ元祿八年(西曆一六九五年)ニ至リ一反步當リノ石高(米

何石何斗)ヲ定メ鹽ヲ以テ換算シ藩廳ニ收納ヲナセリ而テ此ノ收納ノ食鹽ハ直チニ相當代價ヲ以テ賣下ヲナスハ從前ト異ナルコトナシ

六、德島藩(阿波)時代ニ於ケル鹽制

A、製鹽ノ起源

舊藩主蜂須賀家政初メ播州龍野ヲ領ス領民多ク食鹽製造ヲ以テ業トナスヲ見其封ヲ阿波ニ移スヤ兵亂ノ後ヲ承ケ人民困弊ヲ極メ遊平無産ノ徒多キヲ憂ヒ心ヲ殖産利民ノ事ニ注キ板野郡撫養ニ斥鹵ノ地アルヲトシ自ラ地ヲ撰ミ其工事ヲ督シ鹽田ヲ開設シ又宰臣益田内膳ニ命シ撫養城ヨリ人ヲ派シテ播州ヨリ製鹽業者ヲ招キ國內無産ノ徒ヲ移シ其業ニ就カシム之ヲ阿波鹽田ノ濫觴トナス名ケテ鍛島ト云フ始メテ鍛ヲ用フルノ云ヒナリ是レ實ニ慶長四年三月ナリ次キテ鹽田ヲ開キ財田ト名ク殖産ノ意ヲ意味スルナリ今齊田ト改ム

B、制度

當舊藩時代ノ情况ヲ窺フニ藩主自ラ斗代ヲ定メ鹽民ニ諸般ノ徭役ヲ免シ或ハ鹽價低落シ鹽業ノ困難加ハル場合ニハ救護金ヲ貸下ケ鹽役所ヲ設置シテ容量及俵裝等ヲ嚴禁シ以テ其信用ヲ維持スル等其獎勵保護ノ法殆ント間然スル所ナキモノニシテ徵稅ノ目的ヨリハ主トシテ鹽業保護ノ政策トシテ之カ制度ヲ立テタルモノ、如シ然レトモ製鹽ニ付テハ輕稅ヲ賦課シテ之ヲ軍備費ニ充テタリ初メ家政鹽田ヲ開始シ鹽租ヲ獻スルヤ家政喜ヒテ曰ク曩ニ開ク所ノ鹽田ハ他日以テ我阿波國ヲ富シ鹽租ハ後年我兵備ヲ強カラシムト以テ一般ヲ推スルニ

足ル

慶長十年(西曆一六〇六年)家政出家シテ封ヲ至鎮ニ讓ルヤ堅ク遺志ヲ繼キ鹽田ノ開設ヲ獎勵ス此歲家政領内ノ鹽田ヲ巡檢シ標札ニ至鎮ノ定書左ノ三ヶ條ヲ自書シテ大ニ鹽田開設ノ

獎勵ニ努ム

一、坂東郡撫養財田村新開田ハ六斗代畠ハ三斗代但此請可爲三年事

一、此荒地後々迄藏入タルヘキコト

一、右ノ荒地ヘ罷出ル百姓之者諸役可爲免許事

是レヨリ以降遊平無産ノ徒四方ヨリ輻輳シ荒地ヲ開墾シテ鹽田トスルモノ日ニ増加スルニ至レリ

慶長十二年(西曆一六〇七年)上濱ハ一反歩ニ付藩札十三匁三分九厘三毛下濱ハ一反歩ニ付藩札

八匁七分八厘四毛ノ鹽稅ヲ課セリ又新ニ鹽田ヲ開築スルモノ堤防破壞シ鹽田荒蕪ニ變セ

シトキハ之ヲ檢シ年期ヲ定メテ租稅ヲ免スルノ制ヲ設ク

元和元年(西曆一六一五年)淡路ヲ加封スルヤ淡路ノ人民撫養鹽田ニ移住スルモノ少ナカラス是

ニ於テ時ノ宰臣大ニ之ヲ獎勵シ藩主又諸役ヲ免シ鹽田ヲ賞賜ス

元和四年(西曆一六一八年)至鎮國法十三條ヲ定ム世之ヲ壁書ト云フ

元和八年(西曆一六二二年)宰臣益田飛彈定書十三條ヲ令ス其略ニ曰ク

一、財田鹽屋中訴訟ハ宜シク其村里正ニ於テ處分スヘク内縁其他ヲ以テ勸解スルヲ禁

ス

二、鹽田ト爲ルヘキ斥鹵ヲ發見セハ速ニ上言スヘシ
 三、何人ヲ論セス新濱開創ニ着手シテ爾來緩漫投棄ニ付スルモノハ之ヲ沒收シテ更ニ成
 功セント望ムモノニ與フヘシ

慶安元年(西曆一六四八年)國內鹽田益々隆盛ニ至リ事務彌々繁雜ヲ加フルヲ以テ始メテ鹽方役
 場ヲ創立シ專ラ鹽田ノ事ヲ擔任セシム慶安ヨリ文化ノ間ニアリテハ鹽租一歲千金ヲ下ラス
 元祿七年(西曆一六九四年)鹽濱ヘ代官ヲ置ク

元祿十年(西曆一六九七年)鹽ノ密製造及密賣買ヲナシタルモノニ料銀申付ノ法ヲ定ム

寛政年間(西曆一七八九年乃至一八〇〇年)鹽租ノ外特ニ製鹽賣買一俵毎ニ一厘ヲ出サシメ之ヲ貯
(去今一六六年前乃至一〇五年前)畜ンテ鹽田堤防修繕費若クハ竈屋水納屋等不虞ノ災害ニ備ヘ若シ災害ヲ蒙ルモノアラハ

其損害ノ大小及ヒ下付金額ノ多寡ニ應シ豫メ年賦返償ノ法ヲ定メ之ヲ貸與賑恤ス此金ヲ
 稱シテ重寶金ト云フ輒近ニ至リ之ニ三朱ノ金利ヲ徴シテ貸與ス
 文化七年(西曆一八一〇年)食鹽ノ國內ニ過剩アルニ至リヤ初メテ他地方ニ移出販賣ヲナスコト

トセリ當時製鹽ノ移出販賣ヲ許スヤ藩廳ハ正租一期收納ノ制ヲ改メ更ニ鹽田ヲ上中下ノ
 三等ニ分チ又之レヲ三段若クハ九段ニ區分シ製鹽ノ賣買ヲナスニ一俵ニ付銀二分(即チ
 二厘)ヲ徵收シ歲末ニ及ヒ人別鹽田ノ正租ト賣買鹽稅ノ金額トヲ通算加餘シ過剩アラハ
 則チ之ヲ納民ニ返附シ不足アラハ則チ之ヲ未納者ニ追徵スルコト、ナス然レトモ製鹽產

出ノ多キ常ニ過剩アルモ未タ曾テ不足アルヲ免レス故ニ鹽田使用者ハ知ラス識ラス正租
 ト課稅トヲ過出シ歲末ニ過剩金ノ下付ヲ受ク文化以來時ニ豊凶アリト雖トモ毎歲製出ス
 ル所百三十萬俵ヨリ百四五十萬俵ヲ下ラサキ後文政、弘化、嘉永、安政、萬延、文久、
 文治、慶應ヲ經テ明治ノ初年ニ至ルマテ八九十年ノ間嚴格ナル藩制ノ下ニ製鹽及ヒ販賣
 ヲナシ地方ノ聲價ヲ博シタリシカ廢藩置縣以來此等ノ制度自ラ廢滅ニ歸セリ

七、熊本藩(肥後)時代ニ於ケル鹽制

A、鹽業ノ起源 當藩鹽業ノ創始ハ同シク書類ノヨルヘキモノナクシテ其因ヲ審ニスルヲ得
 スト雖トモ右ハ百年前ニ創業スト云フ宇土郡不知火村龜松鹽田反別二十一町餘歩ハ弘化
 年間(西曆一八四四年乃至四七年)ニ開キシモノニシテ同郡戶馳村千切鹽田反別六町餘歩ハ明治元
(去今六一年前乃至五八年前)年舊藩主細川護久海面ヲ埋立テ、鹽田ト爲シタルモノナリキト云フ

B、制度 置藩時代ニ於ケル舊熊本藩ニ於テハ古來ヨリ鹽業ニ關シテハ御用鹽トシテ藩廳ノ
 特別ナル保護ヲ受ケタルモノナリシモ其制度ノ沿革等ハ正確ナル考證ヲ得ルコト難シ唯其
 當時ニ於ケル產物方勤務ノ者二三ノ記憶ニ存スルモノ其他口碑ノ傳フル所ニヨレハ鹽專賣
 トモ見ルヘキ制度ヲ一部ニ施設シ來リタルモノ、如シ今其大要ヲ左ニ掲記スヘシ
 イ、製鹽ノ監督及收納

藩主產物方ヨリ各鹽田ヘ鹽濱方ナル出張所ヲ設ケ之ニ横目(監督役)一人ト役人(鹽濱ノ

總職權ヲ有スル者一人其部下ニ手傳及ヒ役員(製鹽場内ニ關スル諸般ノ事務ヲ執行スルモノ若干ヲ置キ製鹽アル毎ニ悉ク之ヲ倉庫ニ收納ス

ロ、賣渡

1、賣渡ノ方法 產物方ヨリ豫テ申付アル一定ノ用達人へ賣渡スモノニシテ其用達人ハ鹽拂下代金ヲ產物方へ納付シ其納金ノ證明ヲ豫テ交付シアル通帳ニ受ケ之ヲ各製鹽場ノ出張所へ提出シ納金額ニ對スル鹽ノ引渡ヲ受ク

2、販賣價格

賣渡價格ノ相場立ハ津口ト稱スル(船付ヲ云フ)同藩内高瀬、川尻、八代等ノ時價ヲ毎年春夏秋冬ノ四季ニ於ケル平均相場ヲ取り以テ其當時ノ賣渡價格ト爲セリ

ハ、輸入ノ禁制

藩内ノ製鹽ニシテ不足ヲ來タシタル時ノ外他藩ヨリノ輸入ヲ嚴禁セリ

八、舊幕府領

徳川ノ治世ニ當リテハ所謂食鹽政略上ヨリ代々今ノ千葉縣行徳近傍ノ鹽田及ヒ神奈川縣橋樹郡川崎近傍ノ鹽田ニ對シテ非常ノ保護ヲナシ寛文年間(西曆一六六一一年乃至一七二二年)迄ハ武夫ノ鎗刀ヲ抛チテ斯業ニ就クモノアリキト云フ左ニ行徳濱近傍ニ於ケル制度ノ一般ヲ掲クヘシ

A、行徳製鹽ノ起源

一、江戸名所圖會事跡合考ニ曰ク「下總行徳ニテ鹽ヲ燒初メシハ一千有餘年ニ余レリ」云々

一、郊外聞見録及其他ノ古記録ニ曰ク「行徳鹽濱開發ノ時代ハ詳ニ知リ難シト雖トモ后奈良天皇天文年間(西曆一五三二年)ヨリ正親町天皇ノ元龜年間(西曆一五七〇年)マテ小田原北條氏へ鹽年貢ヲ納メシハ里老ノ口碑ニ傳フニ云々

一、其他行徳町上砂典村篠田某ノ家ニ永録年間代官ノ與ヘシ古文書ナリトテ「鹽場新開五ヶ年諸役アルマシク其以後十分ノ一ノ積リヲ以テ成ケ可致云々」ノ書アリ

此等ノ記録ニ徴シ之ヲ稽フル時ハ本所製鹽ノ起源ハ遠ク千餘年ノ昔ニシテ今ヲ距ルコト六百有餘年鎌倉北條氏ノ頃ニ至リテハ既ニ貢租ノ一トシテ食鹽ヲ上納スルノ程度ニ發達セシヲ知ルニ足ル

因ニ記ス 天文元龜ノ頃小田原北條氏カ隣邦今川氏ト約シ甲斐ニ移入スル食鹽供給ノ途ヲ遮斷シテ武田氏ヲ苦シメントシタルモ亦當所ノ產鹽ナリトス

B、制度 左ニ年代ニ從ヒテ逐次掲載スヘシ

慶長年間

慶長十三年(八二天正十)(西曆一五九八年)徳川征夷大將軍家康上總ノ國東金ニ鷹狩ヲ催シ其途次市川ヨリ船橋ノ間ニ於テ厚木、高谷、二俣ノ各村ヲ過キ村民ノ製鹽ノ業ニ從事スルヲ見テ大ニ喜ヒ船橋ニ着シテ後鹽燒百姓ヲ召寄セ現況ヲ尋子且益々精勵スヘキ由ヲ命シ行徳

領二十一ヶ村へ金三千兩ヲ下附シ鹽田開發ノ令ヲ下シ且ツ幕吏伊奈半十郎ニ命シテ新田開發ノ事ヲ擔任セシメタリ(郊外見聞録)

元和年間

元和三年(西曆一六一七年)德川二代將軍秀忠ノ命ヲ受ケ伊奈備前ノ守掛ニテ慶長ノ例ニ依リ船橋御殿ニ於キテ金二千兩ヲ下賜シ鹽業ヲ獎勵シ鹽堤ヲ築カシム

寛永年間

寛永五年(西曆一六二八年)德川三代將軍家光東金下向ノ時先代ノ例ニ依リ金千兩ヲ下賜シ鹽堤修築ノ上大ニ斯業勸奨ノ告諭ヲナセリ

寛永六年(西曆一六二九年)代官伊奈半右衛門檢地ノ上鹽濱ヲ上中下ノ三段ニ分テ各村ニ課稅ス

其村十六ヶ村ニシテ納永六百四貫八百六十七文ナリトス

元祿年間

元祿十五年(西曆一七〇二年)ニ檢地シタルモノ左ノ如シ

一、鹽田等級別 上々、上、中、下、下々ノ五位ニ別ツ

二、鹽田反別 百九十一町七反七畝二十四步

此納永五百七貫四百五十三文壹分

内 三百八十貫五百九十文一分

四分ノ三金納

百二十六貫八百六十三文

四分ノ一鹽納

此鹽貳千五百三十七俵 但五斗入

幕府三代ノ保護獎勵ニヨリ年々鹽田ノ利多キヲ加ヘ農民モ亦制鹽ノ法ニ巧ミナルニ至リ元祿ノ頃ニ至ルマテハ頗ル盛況ヲ呈シタリシカ四代將軍以來農政怠弛シ地方吏ニ於キテモ勸業ニ盡力セサリシヨリ漸次衰運ノ姿トナリ加之元祿年中ヨリ天災頻リニ至リ村民漸ク困窮ニ陥リ鹽燒村モ減シテ十四五ヶ村トナリ殊ニ寶永一年(一七〇四年)申酉ノ兩年ニ於ケル暴風激浪ノ爲メニ堤防ヲ破壞セラレ鹽田多クハ荒廢ニ屬ス是ニ於テ村民幕吏南條金右衛門ニヨリテ訴願シ荒地ノ免租ト堤防ノ修復トヲ許可セラレ再ヒ盛大ヲ致シタリ

享保年間

享保三年(西曆一七一八年)鹽年貢四分ノ一ヲ鹽納トシ四分ノ三ヲ代納トス而シテ鹽村ハ寶永以來回復シテ十八ヶ村トナル

享保六年(西曆一七二一年)ニ於ケル大水ノ爲メ夥シク鹽濱荒廢セシヲ以テ幕府有馬兵庫頭ヲ以テ尋問ノ上鹽ハ軍用第一ノ品ナルハ勿論萬一變災或ハ海上風波ノ爲メ西國トノ交通斷絶シタルトキハ食鹽供給ノ途ナキニ至ルヲ以テ關東第一ノ農業タリトテ金員ヲ下賜シ鹽堤ヲ修築セシム

享保十一年(西曆一七二六年)德川八代吉宗將軍小金原ニ牧狩セラル、ヤ當時代官小宮山奎之進ヨリ鹽濱増築ノ計劃ヲ上申ス將軍喜悅神祖殖産農政ノ遺傳ヲ感シ且ツ本地ハ江戸府内緊

要ノ地ナリトシ内洋開拓ノ念慮ヲ起シ海面ノ圍堤ヲ官定式普請ト定メ將軍ノ意旨ヲ以テ朱印ヲ下附シ行徳濱全部ニ新堤防ヲ築造シ新田ヲ開發セシム今現ニ南行徳村新井ヨリ葛飾郡西海神ニ至ル間延長二里半餘ニ亘リ稻田ヲ劃シテ羊觴タル堤防ノ跡ヲ見ルハ其舊跡タリ俚俗之ヲ小宮山土手ト稱ス

明和年間

明和六年(西曆一七六九年)布施彌一郎ナルモノ行徳領附近各村ノ鹽年貢引方ノ儀ニ付請願ヲナシタルモ當時勘定所ニ於テ許聽ノ沙汰ナカリシカ後再ヒ幕吏小宮山奎之進ニヨリ幕府ニ上申シ遂ニ聞届トナル其覺書ナルモノアリ之カ例證トナルノミナラス其當時ノ情態ヲ推知スルヲ得テ頗ル趣味アルヲ以テ原文ノ儘左ニ掲記スルコトトナセリ

行徳領十四ヶ村鹽濱起リ一件覺寫

明和六年丑冬行徳領鹽濱御年貢引方ノ儀布施彌一郎被申立候所引立難相立由御勘定所ニテ申渡有之書面之通書付遣候御勘定奉行吟味役中評議ノ上 有徳院様 厚キ思召奎之進覺書體成事尤モ之儀ニ候間伺之通リ引方可申付旨申渡有之伺之通リ相濟ム

覺

行徳領鹽濱之儀元來上總國五井ト申所ニテ往古ヨリ鹽ヲ燒キ覺ヘ家業ノ様ニ致シ候ヲ行徳領ノ者近國ノ事故折節罷越見覺候間當時十四ヶ村ノ内本行徳村欠真間村湊村三ヶ村ノ

者ノ内習候テ行徳領村附遠干潟砂場ノ内ヲ見立鹽ヲ少々ツ、燒習尤其節ハ渡世ニ仕候程之儀ニハ無之自分遣用迄ノ鹽燒候所ニ近所百姓共段々見習尤モ燒方ヲ覺ヘ他所ヘハ出候得共其節ハ鹽年貢ト申モノ無之候

權現様 關東八州御領地ニ被成東金ヘ御應符ニ被爲成候節行徳領御通行之砌鹽燒候ヲ御覽被遊甚御喜悅被遊鹽ノ義ハ御軍用第一ノ御領知一番ノ寶ト被思召候隨分百姓共出精仕候様鹽燒百姓共野先ニ被召出上意有之上金子等被下置候打續キ 台徳院様 ニモ右之通上意有之其節ハ段々百姓共鹽稼ヲ覺ヘ出精仕候ニ付金子三千兩ノ拜借被仰付鹽ヲ以テ年々返納仕候

大猷院様 御代ニハ上方ヨリ段々鹽モ船廻ニテ差下シ候ヘ共行徳鹽ノ義ハ江戸御城中ニ有之モ同前ノ義御軍用御要害御手當ニ罷成候間出精可仕旨是又東金ヘ御成ノ節行徳領近所舟橋村御殿有之當時御殿跡有之鹽濱ノ義百姓共御庭ヘ被召出鹽濱稼出來仕候様ニ上意有之金子二千兩拜借ト申被下置候右ノ通上ヨリ段々手當被仰付扶食等モ被下置候處百姓共勝手ニモ相成鹽濱繁昌百姓家居等モ相應仕罷在候故ニ鹽濱御年貢御代官ヨリ申付候然共鹽濱ノ義六七月暑氣強ク御座候節第一ニ相稼キ八月九月十月頃ハ稻作ノ取收百姓手際ナク十一月十二月正月二月三月ハ鹽垂候事滴少ク漸仕當一ハイ位ニ罷成四月五月ハ例年雨天打續キ鹽垂男女手ヲ空シク仕罷在候鹽ノ義一日雨天ニ候ヘバ休ミ四日照續不申候テハ鹽稼不相成候其義ハ潮ヲ吸ミ候テ砂ヘ潮ヲ打テ其砂ヲ箆籠ニ入下ニ桶ヲ置キ其上ヘ潮水ヲ垂

シ其水ヲ鹽竈ニ入燒立申候鹽釜拵方一電拵候鹽燒立候ニ松葉ハ下直ニ當リ候得共鹽ノ出來方惡敷色モ黒ク相成格別下品ニテ鹽ノキ、メ薄ク御座候然共萱木ニテ燒立候得バ格別鹽ノ出來宜敷御座候然レトモ萱木ハ直段高直ニ御座候右ノ通リ行徳領鹽ノ義ハ江戸御城下武家町家ヲ始メ關八州上下ノ要用ニ罷成御軍用第一ノ御重寶ニテ兵粮同様ノ儀ト申事ニテ隨分百姓共勝手ニ罷成鹽燒百姓共一人ニテモ多ク罷成候様ニ 權現様 臺徳院様 大猷院様 御代ヨリ取計ヒ年々鹽濱稼ノ様子ニ應シテ雨天打續キ又風波等ニテ稼方減シ候ハ鹽濱年貢引方相立來申候テ田畑取計方ト違ヒ申候勿論年ニ寄リ鹽濱稼方天氣好夏中夥鹽出來直段下直ニ罷成別テ鹽燒百姓勝手ニ不相成年ハ右ノ鹽公儀へ御買上被仰付候テ直ニ鄉藏へ詰置直段見合御拂ニ申付御買上ノ金子御返納仕候私支配ノ節享保年中モ御買上之義被仰付候

右ノ通ノ譯ニテ享保六丑年大水ニテ鹽濱荒地大分出來仕候處 有徳院様 達上聞鹽濱古來ノ譯有馬兵庫頭殿ヲ以テ御尋有之候ニ付古來ノ譯前々御代々上之思召申傳候趣私支配所ノ儀故申上候處鹽濱繪圖面ヲ以テ有馬兵庫頭加納遠江守兩人立會候白書院後御廊下ニ於テ御尋有之候ニ付御普請被仰付可然段申上候處御聞達 有徳院様 上意ニモ御軍用第一ノ儀其上廻船ニテ上方ヨリ鹽相廻リ候得共萬一海上風波打續廻船相滯候節行徳領ノ鹽ニテ諸人上下ノ助ニ相成候間早々御普請申付候様ニ被仰渡同寅年之春右鹽濱堤入切堀等ノ御普請金千兩餘ノ御入用ニテ御普請被仰付鹽燒百姓共勝手ニモ相成尤荒地モ大分立返リ御益筋モ有之候通例田畑御取立ノ取計ト違ヒ御損徳ノ譯ニ拘不中何レノ道ニモ鹽稼取續鹽出來方罷成百姓相續仕候様ニ取計候ト 有徳院様 上意有之年々吟味委細ニ仕引方

等行届候様仕候何程鹽多ク燒出シ候テモ田地ノ米方ト違ヒ鹽濱年貢一反ノ取永相増候義ハ不相成不稼ノ年ハ其年ノ天氣合不宜時節ヲ考實ニ燒出シ候様鹽少ク尤モ直段合迄逐一逐吟味定永年貢ノ内ヲ申立引方申付候如此引方申付候事其年ハ御損失ノ様ニ御座候へ共年柄惡敷不稼ニテ候へハ引方モ被下置候ト申ニテ百姓共荒濱起返ヲ第一ニ仕自然ニ荒地起返リ御徳用ニ罷成候年柄惡敷候テモ引方不申付候得ハ宜敷場所ノ鹽濱ヲモ荒地ニ打捨置自然ト荒濱引方相願申候テ年々荒濱多罷成荒地引出來却テ御損失ニ罷成候右之通リ行徳領鹽濱古來ノ譯 有徳院様 御尋有之様子承訃申上候處江戸表武家町家平日之助ニ罷成以軍用第一之儀鹽濱ノ分ハ無年貢地ニモ可被仰付程ノ思召ニ候得共左候テハ百姓共奢ノ心生シ後ノ鹽稼未熟ニ可罷成候間百姓共油斷モ不仕又取續致シ能様ニ心ヲ附取計候様ニ可申付旨 有馬兵庫頭加納遠江守兩人立會於新部屋享保八年卯八月廿一日上意ノ趣被申渡候

明和六年丑六月

小宮山空之進 朱印

安永年間(西曆一七七二年乃至一八〇年)
(去今一三三三年乃至二五年前)

享保十一年以來四十餘年ヲ經テ安永ニ至リテ浦出入訴訟ノ時奉行桑原伊豫ノ守掛ニテ八代將軍下付ノ朱印ヲ取上ク鹽堤保護ノ法茲ニ於テ怠馳ス

寛政年間

寛政三亥年(西曆一七九一年)幕府ノ大老松平越中ノ守ノ下知トシテ勘定役早川富三郎ヲ掛員トナシ御手濱ト唱ヒ鹽堤ヲ欠真間村ニ築ク其後故アリテ當村小川傳次郎へ千兩無利息年賦ニテ拂下ク今其地田畑トナル

文化年間

文化四年(西曆一八〇七年)勘定役中川瀨平掛ニテ圍堤六千八百七十四間ヲ修築ス
文化十三年(西曆一八一六年)

代官竹越庄藏支配中十九ヶ村ノ地先へ鹽濱堤石垣開築ノ目論見アリ先ツ見様トシテ本行徳地先へ五百五十間築造シ其他ハ目的ヲ果サスシテ代官交代シ其計劃モ廢絶セリ今字石垣濱ト唱フル田畑ハ其舊跡ナリ

文政年間

文政八年(西曆一八二五年)以來明治政府ノ建立ニ至ルマテ西海神村ヨリ鹽三十三石四斗五升七合ヲ官納セシト云フ

天保年間

天保年度ニ至リ經濟上ノ變動ヨリ鹽業者ノ困難ヲ來タシ、ヲ以テ永免除願ヲ差出シ幕府其願意ヲ容レシヲ以テ農民永ク其負擔ヲ免レ廢藩當時マテ其業ヲ持續スルヲ得タリ其永免除書ナルモノ左ノ如シ

鹽濱出永免除願書 天保十四卯年二月行徳領

鹽濱附村々

乍恐以書付奉願上候

行徳領鹽濱附村々惣代左ノ名面ノ者共一同奉申上候當領鹽濱義乍恐

先々 御代々様格別之以 御尊慮御取立被成下數年來鹽濱相續正鹽御上納同御役永御年貢上納方被仰付冥加至極難有仕合奉存候然ル處先年鹽濱御取立被成下候砌ハ諸色人足等直安之節ニテ鹽濱反取永之儀上濱一反ニ付永三百文中濱同二百五十文下濱同二百文下々濱同百五十文宛右鹽濱反取永ノ内四分ノ三永納四分ノ一正鹽御上納被仰付候義ニ御座候尤右正鹽ノ義往古御定被成下候直段金一兩ニ付鹽五斗入二十表換ニ御座候處村方斗立ハ六斗入ニ付此石十二石當時所相場金一兩ニ付平均六斗入五俵位且赤穂鹽同斷二斗八升入十俵位此石二石八斗其餘齊田鹽諸國產物鹽等右ニ準シ申候左候へバ金一兩ノ中行徳鹽所相場並ニ赤穂鹽見合候へバ九石二斗ノ安直ニ相當リ申候猶已前ハ正鹽納百石前後ノ節御直段御取極被成下候ニ付冥加鹽ト相心得御請申上候義ニ御座候處其後追々石數相増申候去ル文政年中迄ハ正鹽二百五十石ニ御座候處追々増納被仰付其後追年鹽濱禁木其外諸色並ニ男女給金等迄格外ノ直段違ニ相成銘々極究ノ折柄難儀至極仕候ニ付無是非去ル寅六月中正鹽御直段直シノ儀願書奉差上候次第ニ付何卒格別ノ以 御慈悲可相成儀ニ御座候ハ、前書之趣御憐察被成下置候ハ、困窮ノ者共相助リ廣大ノ御仁惠ト難有仕合奉存候以上

下總國葛飾郡行徳熱濱附

新井村	欠真間村	湊新田
湊村	押切村	伊勢宿村
關ヶ島村	加藤新田	儀兵衛新田
本行徳村	下妙典村	上妙典村
田尻村	高谷村	原木村
二俣村	西海神村	

右村々總代

天保十四卯年二月

原木村名主	嘉七郎
伊勢宿村名主	喜兵衛
欠真間村名主	傳次郎
西海神村名主	善兵衛

篠田藤四郎様 御役所

以上掲載セシ事實ニ徴シ之ヲ稽フルニ徳川氏カ封建割據ノ常トシテ領内ノ富殖ヲ圖ルカ爲メ又戰亂其他ノ事變ノ爲メ交通ヲ遮斷シ食鹽供給ノ不足スルヲ憂ヒ産鹽地ヲ關東ニ求ムル

ノ急ナルヨリ異常ノ保護ヲ與ヘタルノ蹟ヲ見ルニ足ル然レトモ創始ノ時代ニ在リテハ製鹽ノ法ニモ精シカラス業務モ未タ不熟ナルヲ以テ唯官命ニヨリ已ムヲ得スシテ就業シ下附ノ保護金ニ對シテ僅カニ其責ヲ塞キタルニ過キサカ如キモ後漸ク其業ニ慣レ利益ヲ收ムルニ至リ村民進ミテ其業ニ就キ爲メニ盛大ヲ極メタルハ寛永年度ヨリ元祿年度ニ至ルマテ五十六年ノ間ニアルカ如シ寛永五年幕吏伊奈半十郎ガ檢地シタル頃ニハ鹽田ノ所在地ハ現今ニ比シテ狹隘ナリシモ反別ニ於テ五十三町八反八畝十九歩ノ廣キヲ見ル以テ其盛大ナリシヲ知ルニ足ルヘシ然ルニ寛永享保ノ頃ニ至リテ天災頻リニ至リ爲メニ村民離散シ鹽田荒廢ニ屬セシモノ多ク遂ニ納永ノ免除願ヲ出スニ至リ前記南條金左衛門小宮山空之進等ノ上書トナリ鹽府ノ保護ヲ得テ再ヒ盛ナルヲ得タルモ下テ天保年度ニ至リテ又亦衰微ノ情態ニ陥リ貢租ノ負擔ヲ通レ辛ウシテ其業務ヲ持續スルヲ得タルモノ、如シ

第三、明治維新以後ニ於ケル法令制度及ヒ政府ノ施設

一、舊幕時代ニ於ケル鹽制ノ廢弛

大政奉還ハ慶應三年(西曆一八六四年
去今三十八年前)十月十五日ニ行ハレ凡百ノ政務悉ク齊一ヲ期スルニ至リ
生産ノ事業モ概ネ一定ノ方針ニ從ヒ漸ヲ逐ヒテ發達セリト雖トモ獨リ製鹽事業ハ世論ノ歸
一ヲ缺キ方針ノ確定セサルカ爲メ委縮振ハス即チ全國各地粗製濫造ノ弊ヲ生シ來リ改良ノ
實舉ラス獎勵ノ蹟彰ハル、モノナクシテ遂ニ舊幕時代ニ於ケル制度モ亦廢弛ニ歸スルニ至
レリ

二、鹽田地租

A、地租條例ノ頒布

鹽田ハ地租地目ノ一ナルヲ以テ鹽田地租ノ變遷ヲ説明センニハ勢ヒ一般地租ノ沿革ヲ説
述スルヲ要ス

初メ明治政府カ徳川氏ニ代リ政務ノ實權ヲ掌握セシヤ税法ノ如キ均一ノ法則ヲ設クルノ
必要アリシモ因襲ノ久シキ一朝之ヲ改ムルコト至難ナルヲ以テ姑ク徳川氏ノ遺制ニ依リ
之ヲ改メサルコト、ナシ鹽田ノ如キモ舊慣古法ニ依據シテ各々租税ノ徵收ヲナシタリキ
然レトモ維新ノ功業ハ租法ノ改正ヲ行フニアラサレハ其全般ヲ終了セサルモノナルコト
ハ當時識者ノ等シク認ムル所ナルヲ以テ明治六年四月地方官會同ノ際地租改正ノ儀大ニ
興リ審議討究ノ結果地券税法ノ施行ヲ可決シ同年七月ニ至リ特ニ上諭ヲ得テ第二百七十

二號布告ヲ以テ地租改正條例ヲ頒布セラレ鹽田地租モ亦此レト同時ニ其適用ヲ受クルニ
至レリ今其上諭及布告ヲ左ニ掲グ

(上諭)

上諭

朕惟フニ租税ハ國ノ大事。人民休戚ノ係ル所ナリ。從前其法一ナラズ。寬苛輕重率ネ
其平ヲ得ス仍テ之ヲ改正セント欲シ。乃チ所司ノ群議ヲ採リ。地方官ノ衆論ヲ盡シ更
ニ内閣諸臣ト辨論裁定シ。之ヲ公平畫一ニ歸セシメ。地租改正ノ法ヲ頒布ス。庶幾ク
ハ賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラシメン。主者奉行セヨ

明治六年七月八日

(布告)

第三百七十二號

今般地租改正ニ付舊來田畑貢納ハ悉皆相廢シ更ニ地券調査相濟次第土地ノ代價ニ隨ヒ
百分ノ三ヲ以テ地租ト可相定旨被仰出候改正ノ旨趣別紙條例ノ通可相心得且從前官廳
並郡村入費等地所ニ課シ取立來候分ハ總テ地價ニ賦課可致尤其金高ハ本税ノ三ケ一ヨ
リ超過スヘカラス候此旨布告候事

明治六年七月八日

太政大臣

三

條 實

美

(別紙)
地租改正條例

第一章

今般地租改正ノ儀ハ不容易事業ニ付實際ニ於テ反覆審按ノ上調査可致尤土地ニ寄リ緩急難易ノ差別有之各地方共一時改正難出來ハ勿論ニ付必スシモ成功ノ速ナルヲ要セス詳密整理ノ見据相立候上ハ大藏省へ申立免許ヲ得ルノ後舊税法相廢シ新法施行イタシ候儀ト可相心得事

但一管内悉皆整理無之候共一郡一區調査濟ノ部分ヨリ施行イタシ不苦候事

第二章

地租改正施行相成候上ハ土地ノ原價ニ隨ヒ賦稅致シ候ニ付以後假令豐熟ノ年ト雖モ増稅不申付ハ勿論違作年柄有之候トモ減租ノ儀一切不相成候事

第三章

天災ニ因リ地所變換致シ候節ハ實地點檢ノ上損墮ノ厚薄ニヨリ其年限リ免稅又ハ起返ノ年限ヲ定メ年季中無稅タルヘキ事

第四章

地租改正ノ上ハ田畑ノ稱ヲ廢シ總テ耕地ト相唱其餘牧場山林原野等ノ種類ハ其名目ニ寄リ何地ト可稱事

第五章

家作有之一區ノ地ハ自今總テ宅地ト可相唱事

第六章

從前地租ノ儀ハ自ラ物品ノ稅家屋ノ稅等混淆致シ候ニ付改正ニ當テハ判然區分シ地租ハ則地價ノ百分ノ一ニモ可相定ノ處未タ物品等ノ諸稅目興ラサルニヨリ先ツ以テ地價百分ノ三ヲ稅額ニ相定候得共向後茶煙草材木其他ノ物品稅追々發行相成歲入相增其收入ノ額二百萬圓以上ニ至リ候節ハ地租改正相成候土地ニ限リ其地租ニ右新稅ノ增額ヲ割合地租ハ終ニ百分ノ一ニ相成候迄漸次減少可致事

第七章

地租改正相成候迄ハ固ヨリ舊法据置ノ筈ニ付從前租稅ノ甘苦ニ因リ苦情等申立候トモ格別偏重偏輕ノ者ニ無之分ハ一切取上無之候條其旨可相心得尤檢見ノ地ヲ定免ト成シ定免ノ地無餘儀願ニ因リ被免等ノ儀ハ總テ舊慣ノ通タルヘキ事
右之通相定候條詳細ノ儀ハ大藏省ヨリ可相達事

明治六年七月八日

右上諭及ヒ地租改正條例ト共ニ大藏省事務總裁(大隈重信)ハ地租改正施行規則ヲ達シテ一般ニ施行ノ細則ヲ示シ更ニ各地方官ニ地方官心得書ヲ頒チテ施行上服膺スヘキ事項ヲ

注意シタリ而シテ其實地着手ハ各地多少ノ遲速アリシモ概ネ明治七八年ノ間ニアリ同九年ニ至リテハ殆ント改正地租ノ適用ヲ受ケタリ

B、鹽田其他地價ノ据置

明治六年第二百七十二號布告ニ依ル立法ノ趣旨ハ土地ノ賣買アル毎ニ其代價ニ依リテ之ヲ改正スルニ在リ然レトモ斯ノ如キ相關ノ事情ニ依リ甚シキ差異ヲ生スルモノヲ以テ賦課ノ標準トシ之ニ依リテ地價ヲ更訂スルトキハ地價ハ昂低度ナク終ニ公平畫一ヲ失フニ至ルヘシ故ニ明治七年五月第五十三號布告ヲ以テ地租改正條令ニ一章ヲ追加シ地價ハ地租改正後五ケ年間之ヲ据置クコト、ナリ鹽田地租モ亦之レニ基キテ徵收セラル、コト、ナレリ今左ニ其法文ヲ掲クヘシ

(布告)

第五十三號

明治六年七月第二百七十二號布告地租改正條令中左ノ通第八章追加候條此旨布告候事

明治七年五月十二日

太政大臣 三 條 實 美

第八章

地租改正後賣買ノ間地價ノ増減ヲ生シ候共改正ノ年ヨリ五ケ年ノ間ハ最初取定メ候地

價ニ據リ收稅致スヘキ事

C、鹽田其他地租率ノ改正

明治六年第二百七十二號布告ニ依レハ地租ハ地價百分ノ三ナリシカ明治十年ニ至リ優渥ナル聖詔ヲ下シ給ハリ同年第一號布告ヲ以テ地租ハ地價ノ百分ノ二分五厘ト定ムルコトヲ公布セラレタリ其布告左ノ如シ

(布告)

第一號

今般地租ノ儀別紙詔書ノ通被仰出候ニ付テハ明治十年ヨリ地價百分ノ二分五厘ト被定候條此旨布告候事

明治十年一月四日

太政大臣 三 條 實 美

(別紙)

詔書

朕惟フニ維新日淺ク中外多事國費實ニ費ラレス而シテ兆民猶ホ疾苦ノ中ニ在リテ未タ富庶ノ澤ヲ被ラサルヲ愍レミ曩ニ舊稅法ヲ改正シテ地價百分ノ三トナシ偏重無カラシメントス今又親ク稼穡ノ艱難ヲ察シ深ク休養ノ道ヲ念フ更ニ稅額ヲ減シテ地價百分ノ

二分五厘ト爲サン有司宜ク痛ク歳出費用ヲ節減シテ以テ朕カ意ヲ賛クヘシ
明治十年一月四日

右ニ依リ改正全部整頓ノ時ニ於テハ地租ノ定率ハ既ニ地價百分ノ二個半ナリシナリ今左
ニ改正事業整頓ノ當時ニ於ケル鹽田反別鹽田地價及ヒ其地租額ヲ示スヘシ

地目	事項	反別	地價	地租
鹽田			六九五 <small>町</small>	二〇三五、四七六 <small>町</small>
				五〇八八六 <small>町</small>

D、鹽田其他地價ノ再据置

地租改正ハ早キハ明治九年ニ於テ竣功シタルヲ以テ明治十三年ニ至リテハ各地方漸次地
價据置期限ノ終了ヲ告クルモノヲ生セントス然ルニ既往ノ實蹟ニ依レハ地價改正ハ事情
ノ許サ、ル所ナルヲ以テ明治十三年第二十五號布告ヲ以テ更ニ明治十八年マテハ地價ノ
更訂ヲ爲サ、ルコト、ナリ鹽田地租モ亦其結果ヲ受ク唯實地不適當ナルモノニシテ小區
域ニ限り府知事縣令ヨリ具申スルトキハ特ニ其地價ノ修正ヲ許シ以テ地租改正ノ缺漏ヲ
補修セントシタリ

(布告)

第二十五號

第一條

明治七年第五十三號ヲ以テ地租改正後五箇年間ハ當初定メタル地價ニ據リ收稅致スヘ
キ旨布告及ヒ置キシ處仍ホ明治十八年迄据置收稅致スヘシ但府知事縣令ニ於テ當初定
メタル地價不適當ナリト思量シ其事由ヲ具申スルトキハ大藏卿ハ検査員ヲ派遣シ實地
調査ノ上一町村又ハ一郡區限リ特別修正ヲ聽許スルコトアルヘシ

第二條

改租以後地目變換田ヲ畑ニ畑ヲ田
宅地ニ爲スノ類セルモノハ五箇年滿期ニ際シ總テ現地目ニ組替地價ヲ
修正シ爾後變換スル者ハ其年々修正スヘシ

第三條

第一、第二條ニ依リ修正ヲ加フル時ハ明治六年第二百七十二號布告ノ地租改正條例及
同年七月大藏省事務總裁布達ノ地租改正施行規則ニ依ルヘシ且其費用ハ官吏ノ旅費日
給ヲ除ク外悉皆修正ニ係ル郡區町村若クハ所有者ヨリ支出スヘキモノトス

第四條

地價修正ノ後租額ノ増減ハ其修正聽許ノ年ヨリ改定スルモノトス
右布告候事

明治十三年五月二十日

太政大臣 三 條 實 美

E、地租條例ノ制定ニ伴フ鹽田地租

地價ハ明治十三年第二十五號布告ニ依リ明治十八年マテ据置カレタルヲ以テ明治十九年ヨリハ之ヲ改正セサルヘカラサルヲ以テ終ニ明治十七年布告ヲ以テ地租條例ヲ公布セリ同條例ニヨレハ一定ノ年限ヲ限リ地價ノ改正ヲ爲スノ規定ハ之ヲ廢止シ一般ニ地價ヲ改正スルトキハ前以テ布告スヘキモノトナシ第一條及ヒ第二條ニ地租ハ地價ノ百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トナスコト及ヒ地租ハ年ノ豊凶ニヨリ増減セサルコトヲ定メ第三條ニ有租地ヲ區別シテ二類トナシ鹽田ハ田、畑、郡村宅地、市街宅地、鑛泉地ト共ニ第一類中ニ入レリ

右地租條例ハ爾後兩三回多少ノ改正ヲ經タルモ大体ニ於テハ變更セラル、コトナク以テ今日ニ至リ地租賦課ノ基礎タル法規ヲ爲スモノナリ其布告左ノ如シ

(布告)

第十七號

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二十七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島、小笠原島、函館縣、沖繩縣、札幌縣、根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

明治十七年三月十五日

太政大臣 三 條 實 美
大藏卿 松 方 正 義

(別冊)

地租條例(畧)

F、鹽田其他地租ノ増徴

田畑ノ地價修正法ノ公布ト共ニ明治三十一年法律第三十二號ヲ以テ地租條令中改正法律ヲ公布セラレ明治三十二年ヨリ同三十六年迄ハ地租ハ地價百分ノ二箇半ノ定率ノ外市街宅地ハ地價百分ノ二箇半其他ノ有租地ハ地價百分ノ八ヲ増徴セラル、コト、ナレリ蓋シ戰後我歲計ノ膨脹ニ伴ヒ歲入ヲ増加スル必要アリ明治三十年新ニ税目ヲ起シ又從來ノ税額ヲ増加シタルモノ尠カラス而シテ地租モ亦其一ニ加ヘラレタルナリ今地租増徴前後ニ於ケル鹽田反別、地價、地租額ヲ見ルニ左ノ如シ

(鹽田反別、地價、地租額)

鹽田	反 別 地 價		地 地		計 租
	田	別	定 率	增 率	
	七〇九四、三	二、〇〇一、七五	五〇、〇五〇	一六、〇〇七	六六〇五七

鹽田荒地及低價地	五五五、五	二一三、七六四	五、三三八	一、七〇一	七〇、三九
合 計	七、六四九、八	二、二一五、四七九	五五、三八八	一、七七〇、八	七三、〇九六

(地租條例中改正法律)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地租條例中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

内閣總理大臣 侯爵 山 縣 有 朋
 大藏大臣 伯爵 松 方 正 義

法律第三十二號(官報十二月三十日)

明治十七年第七號布告地租條例第一條ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治三十二年ヨリ同三十六年分迄地租ニ於テ地價千分ノ八市街宅地地租ニ於テ地價百分ノ二箇半ヲ増徴ス

附 則

田畑地租ニ關シテハ田畑修正地價實施ノ日ヨリ増率ヲ適用ス

G、鹽田其他地租増徴繼續案

明治三十一年法律第三十二號ヲ以テ定メラレタル地租増徴五箇年ノ期限ハ三十六年十二月ヲ以テ終了スルカ改正ニ政府ハ海軍擴張費ノ財源トシテ地租増徴繼續案ヲ第十七議會ニ提出セリ然ルニ十二月二十八日同案討議了ラスシテ衆議院散解ノ詔勅降リ遂ニ同案ノ通過ヲ見スシテ已ミ之レト同時ニ三十六年度ノ歳入歳出總豫算モ未タ一回ノ討議ニモ上ラズシテ了レリ

H、鹽田其他地租増徴繼續案ノ再提出

第十八議會ノ開會スルヤ政府ハ再ヒ同案ヲ提出シタリ(但シ増徴率ヨリ二分ヲ減シアリ)然ルニ政府ハ後之ヲ撤回シタルヲ以テ茲ニ地租増徴繼續案ハ遂ニ成立ニ至ラスシテ止ミヌ

I、鹽田其他地租ノ増徴

政府ハ臨時事件ニ因リテ生シタル經費ヲ支辨スルカ爲ニ非常特別税法ヲ設ケ之ニヨリテ各種租稅ノ増率ヲ計ルト共ニ地租ニ對シテモ左ノ増率ヲナセリ